

第2次あま市総合計画策定等に関する  
アンケート調査  
調査結果  
報告書

令和3年3月

あま市



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査対象	1
3	調査方法・期間	1
4	回収結果	1
5	報告書の見方	1
II	調査結果	2
1	あなた自身について（回答者の属性）	2
2	現在のおま市について	9
3	市の現状評価と今後の重視する取り組み	14
4	おま市の将来像について	22
5	土地利用について	24
6	都市の基盤整備について	32
7	市の印象（イメージ）について	40
8	防災について	43
9	生活環境について	45
10	健康、保健、医療、福祉について	47
11	生涯学習、教育環境について	51
12	産業振興について	57
13	市政、行財政について	61
14	地域活動の参加希望について	65
15	新型コロナウイルス感染症について	75
16	SDGsについて	78
17	自由意見	79



# I 調査の概要

## 1 調査目的

第2次あま市総合計画の策定にあたり、市民の意識を再確認し、「第2次あま市総合計画」の策定と今後のまちづくりの参考とするためアンケート調査を実施しました。

## 2 調査対象

本調査の対象者は、あま市在住の18歳以上の市民の方から3,000人を対象に無作為に抽出しました。

## 3 調査方法・期間

調査方法	郵送配布・回収
調査期間	令和2年10月23日～11月8日

## 4 回収結果

配付数 (A)	回収数 (=C+D)	有効回収数 (C)	無効回収数 (D)	有効回収率 (=C/A)
3,000	1,176	1,176	0	39.2%

※有効回収数は、回収されたが記入のない調査票を除いて集計した数。

## 5 報告書の見方

- (1)比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- (2)回答率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- (3)複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数(票数)とし、その項目を選び○印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率の合計は100%を超える場合があります。
- (4)本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
- (5)H22年度、H28年度の比較表を掲載していますが、H22年度は平成23年2月、H28年度は平成28年7月に実施した調査結果となります。

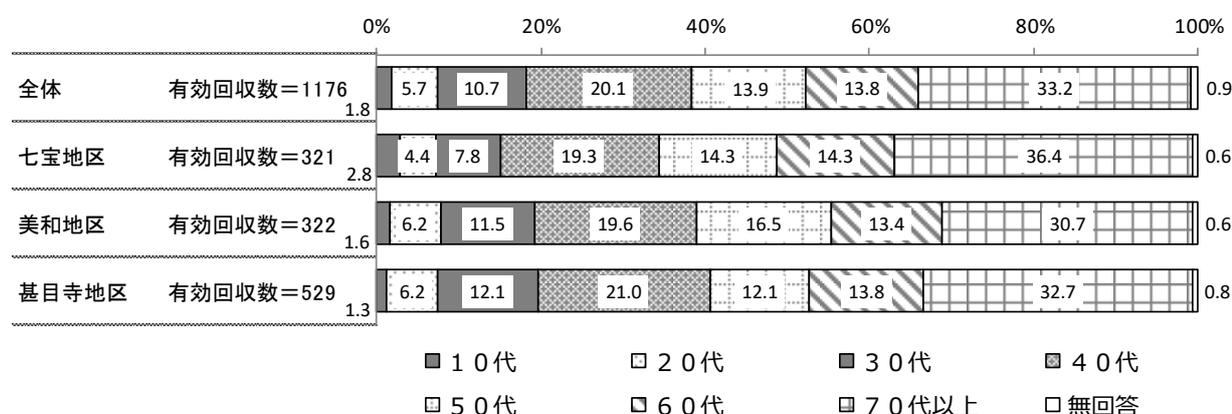
## II 調査結果

### 1 あなた自身について（回答者の属性）

#### 問1 あなたの年齢は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

年齢について、全体で見ると「70代以上」が33.2%と最も多く、次いで「40代」が20.1%、「50代」が13.9%、「60代」が13.8%となっています。

地区別では、七宝地区が他の地区に比べて60歳以上が50.7%と多くなっています。また、美和地区、甚目寺地区では「30代」が10%を超えています。



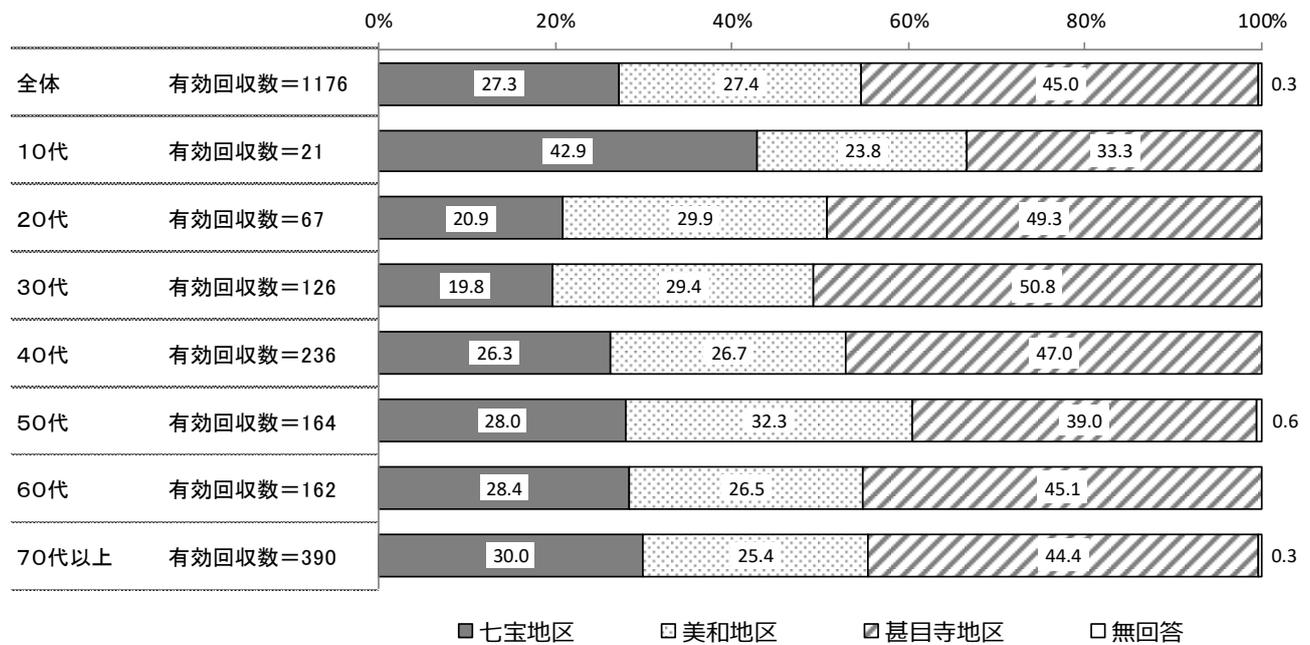
#### 年代別有効回収数

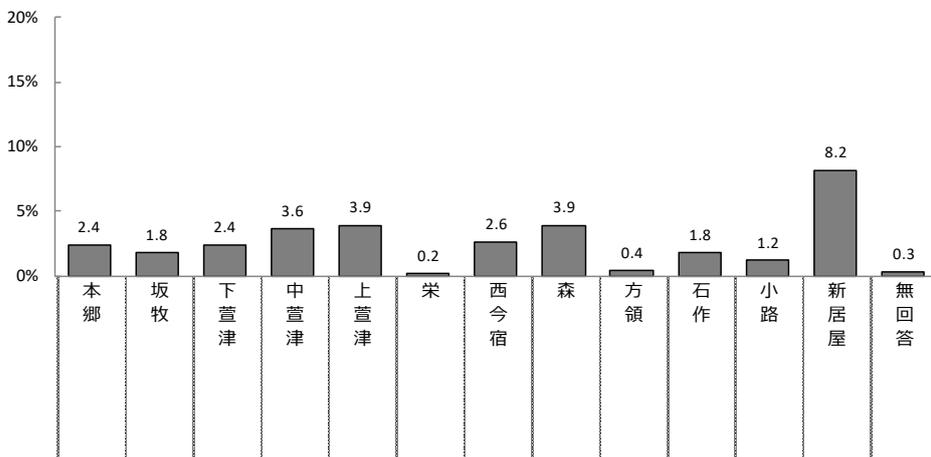
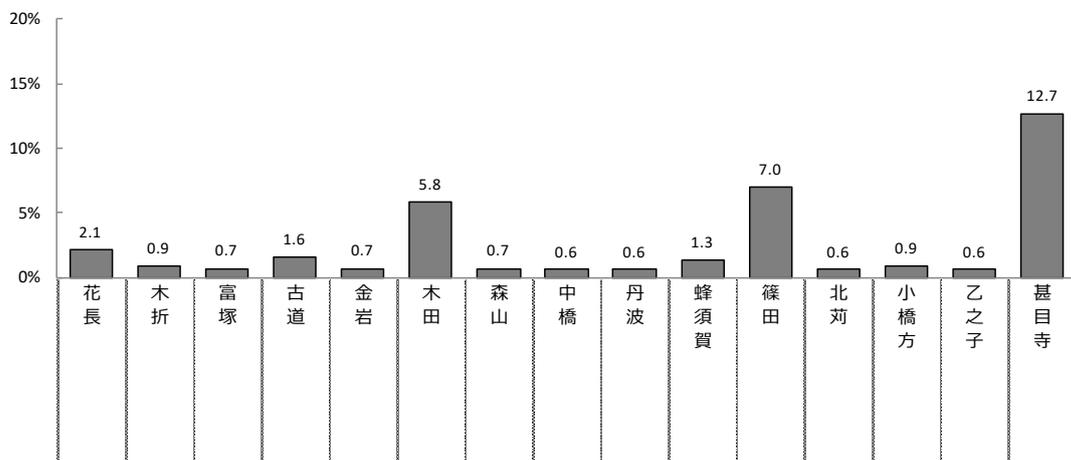
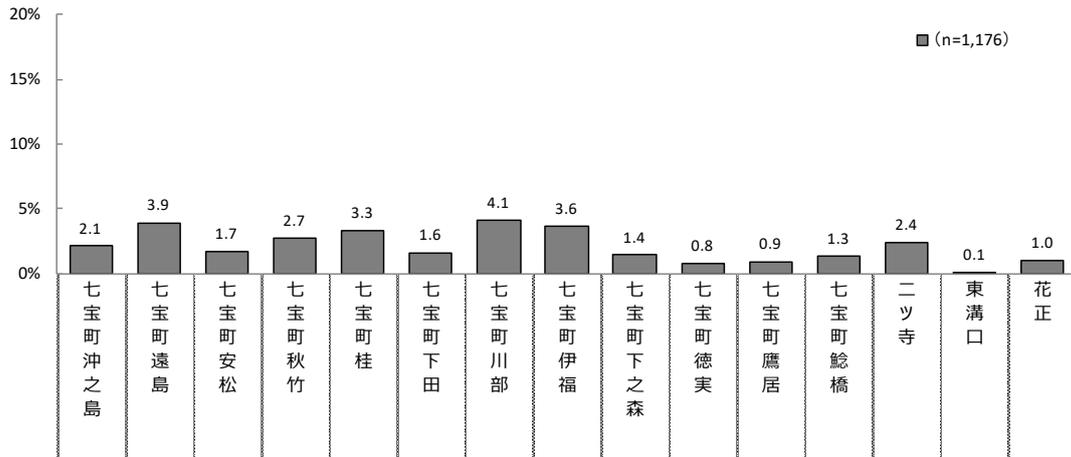
	R2 年度				H28 年度		H22 年度	
	発送数		有効回収数		有効回収数		有効回収数	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
10代	79	2.6%	21	1.8%	-	-	-	-
20代	317	10.6%	67	5.7%	95	7.9%	127	7.7%
30代	394	13.1%	126	10.7%	169	14.0%	242	14.8%
40代	623	20.8%	236	20.1%	204	16.9%	253	15.4%
50代	446	14.9%	164	13.9%	152	12.6%	239	14.6%
60代	346	11.5%	162	13.8%				
60~64歳					106	8.8%	209	12.8%
65歳以上					470	39.0%	556	33.9%
70代以上	795	26.5%	390	33.2%				
無回答	-	-	10	0.9%	9	0.7%	13	0.8%
合計	3,000	100.0%	1,176	100.0%	1,205	100.0%	1,639	100.0%
					発送数	有効回収率	発送数	有効回収率
					3,000	40.2%	4,000	41.0%

**問2 あなたはどの地区にお住まいですか。(〇は1つだけ)**

居住地区について、全体でみると「碓目寺地区」が45.0%と最も多く、次いで「美和地区」が27.4%、「七宝地区」が27.3%となっています。

年齢別では、10代で「七宝地区」が、20代以上で「碓目寺地区」が最も多くなっています。



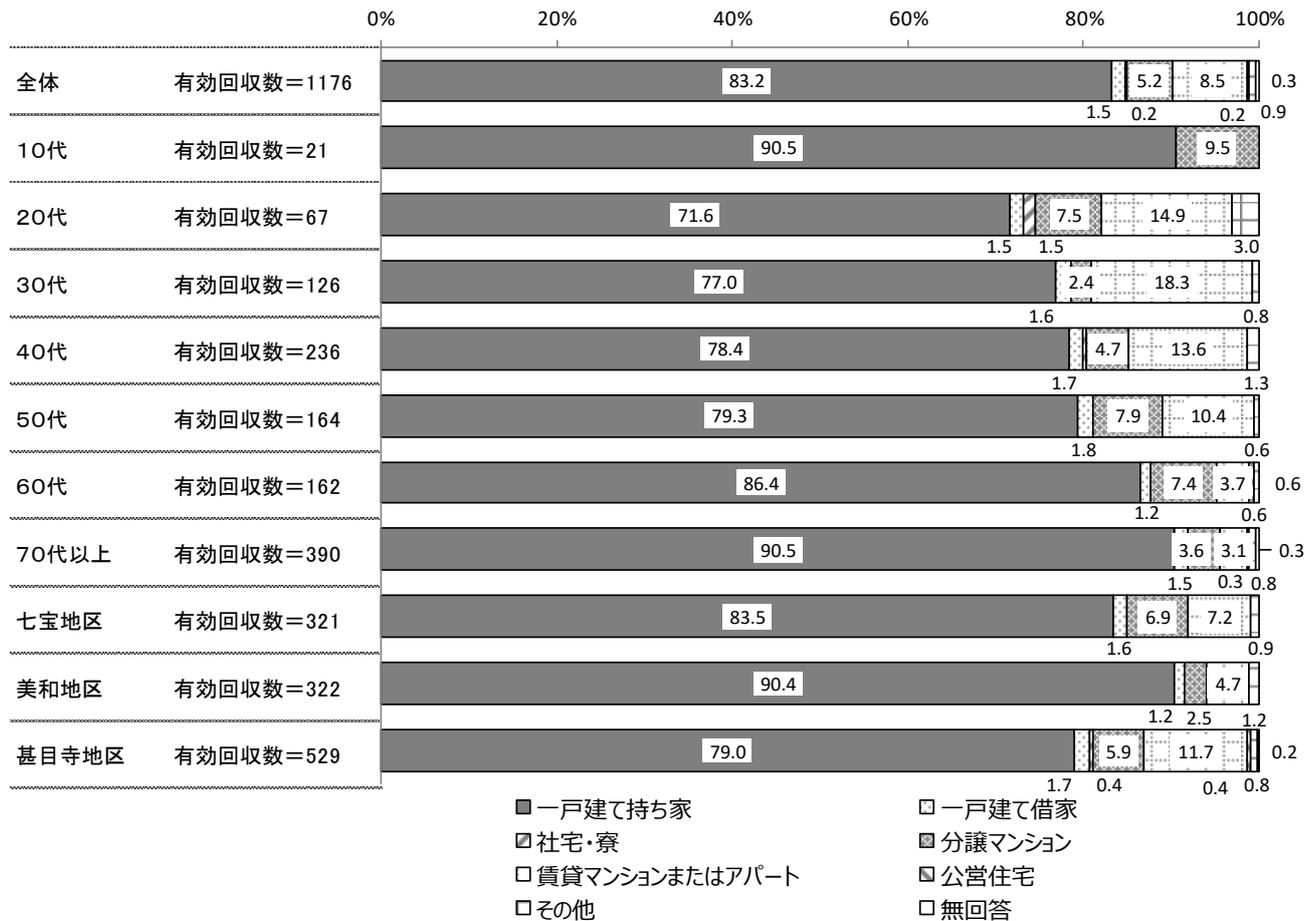


### 問3 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(〇は1つだけ)

居住形態について、全体でみると「一戸建て持ち家」が83.2%と最も多く、次いで「賃貸マンションまたはアパート」が8.5%、「分譲マンション」が5.2%となっています。

年齢別では、20代以降で年齢とともに「一戸建て持ち家」の占める割合が高くなっています。また、20～50代では「賃貸マンションまたはアパート」が10%を超えています。

地区別では、甚目寺地区で「賃貸マンションまたはアパート」が11.7%と、他の地区に比べて多くなっています。



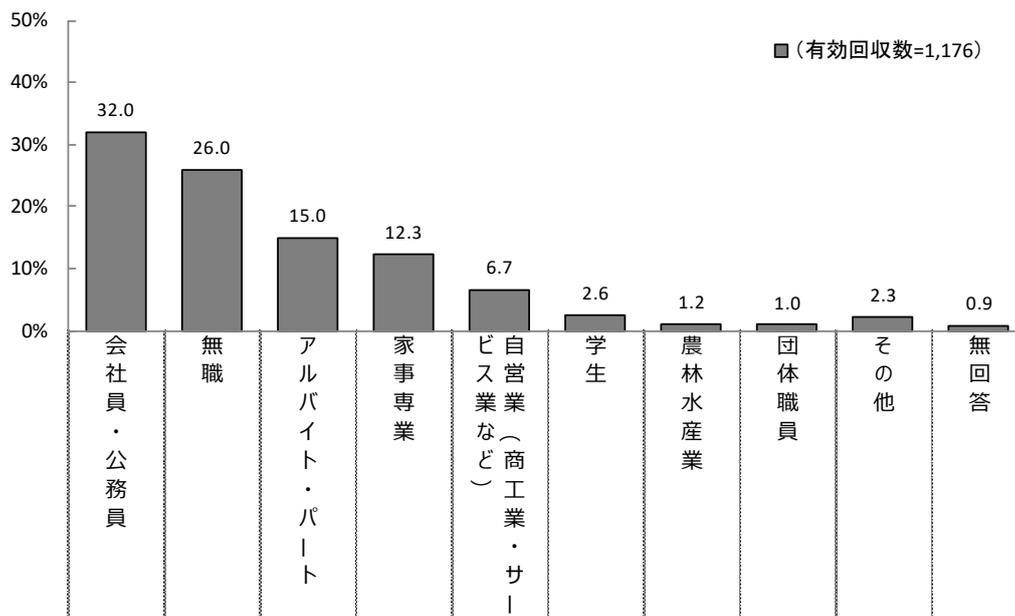
**問4 あなたの職業はどれにあたりますか。**

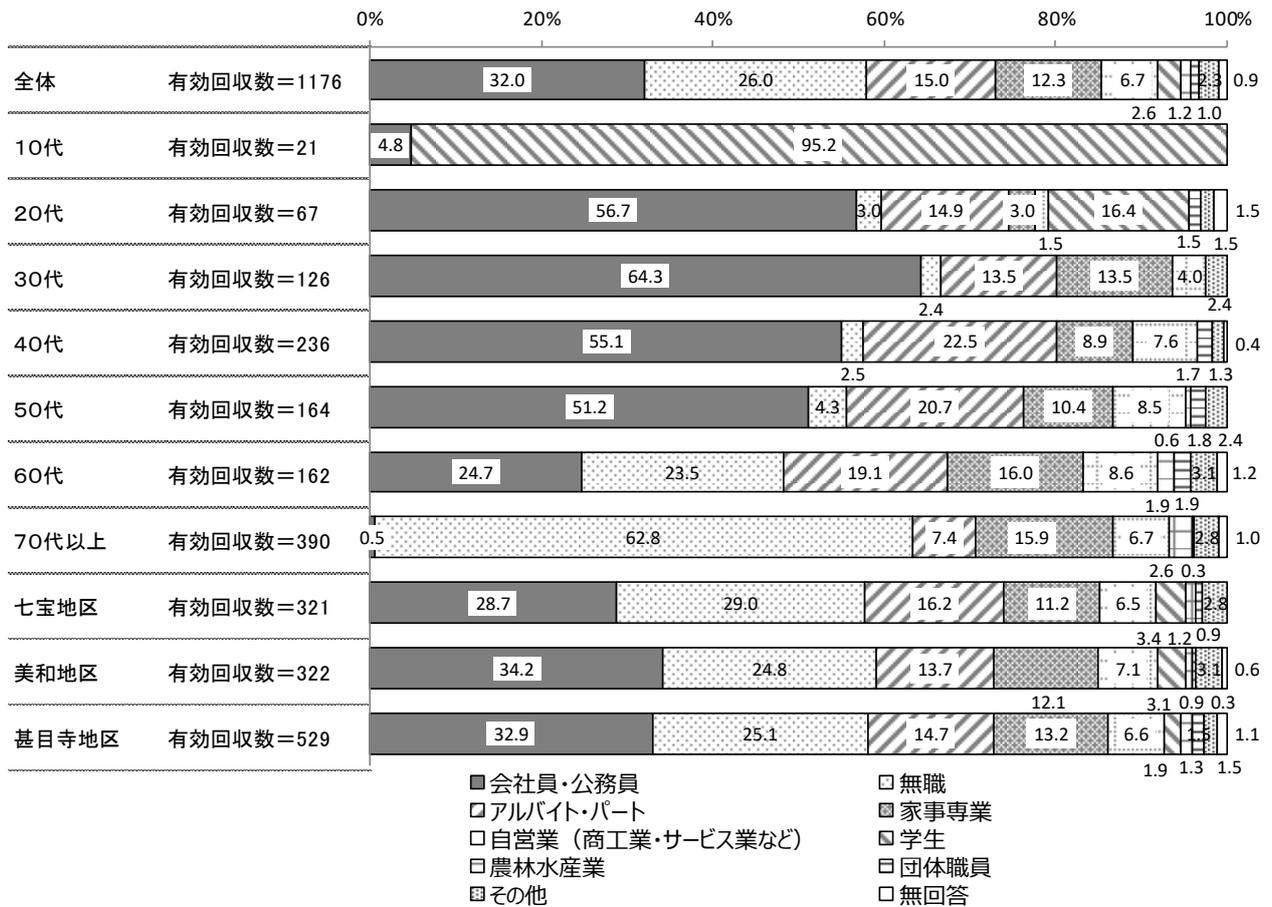
**(兼業の方は主な職業を1つ選んでください。(〇は1つだけ))**

職業について、全体で見ると「会社員・公務員」が32.0%と最も多く、次いで「無職」が26.0%、「アルバイト・パート」が15.0%となっています。

年齢別では、10代は「学生」、20~60代は「会社員・公務員」、70代以上は「無職」が最も多くなっています。また、40~50代で「アルバイト・パート」が20%を超え高くなっています。

地区別では、美和地区や甚目寺地区で「会社員・公務員」が、七宝地区で「無職」が最も多くなっています。



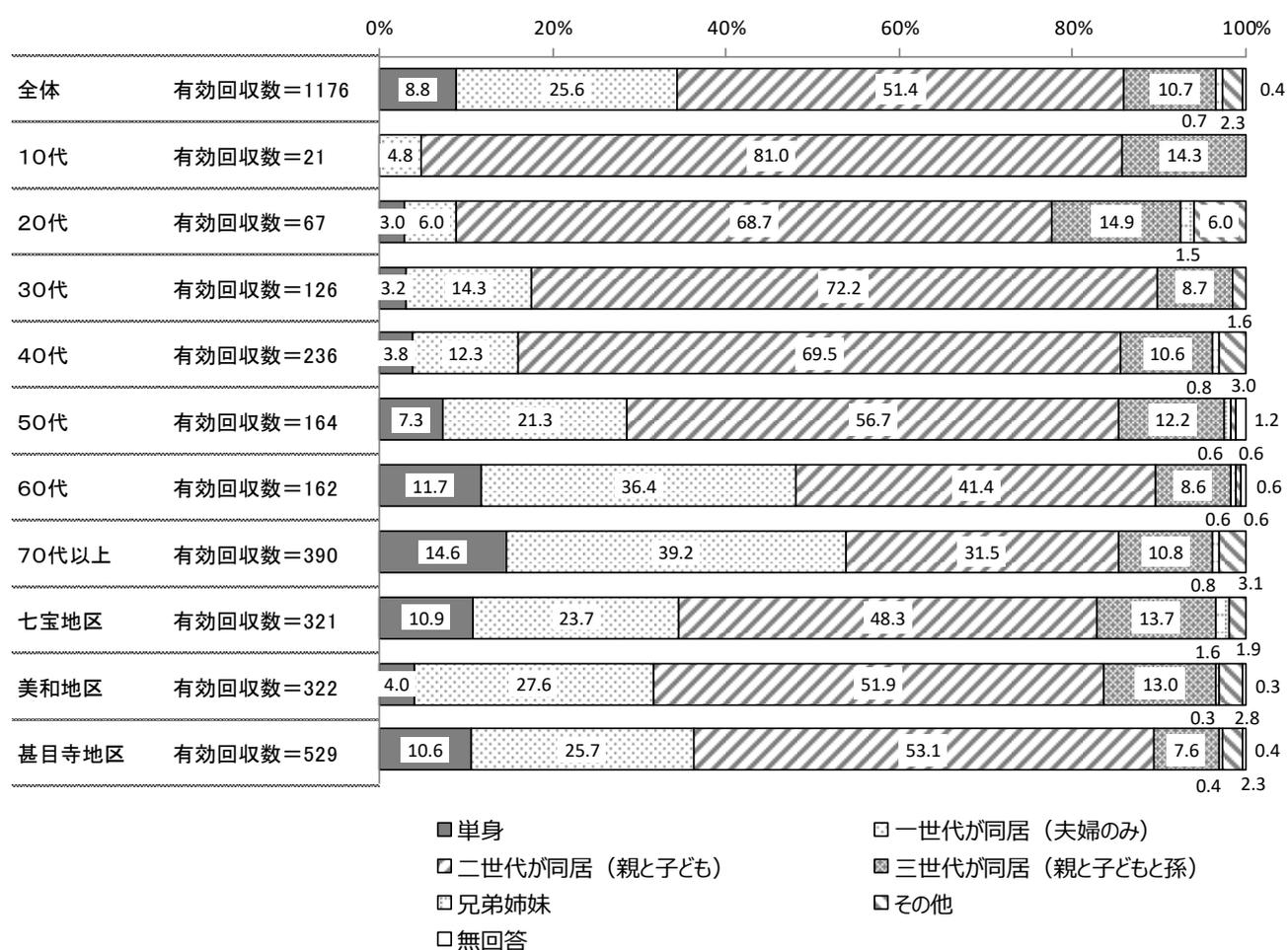


## 問5 家族構成を教えてください。(〇は1つだけ)

家族構成について、全体でみると「二世代が同居（親と子ども）」が 51.4%と最も多く、次いで「一世代が同居（夫婦のみ）」が 25.6%、「三世代が同居（親と子どもと孫）」が 10.7%、「単身」が 8.8%となっています。

年齢別では、10~60代で「二世代が同居（親と子ども）」が、70代以上で「一世代が同居（夫婦のみ）」が最も多くなっています。

地区別では、いずれの地区においても「二世代が同居（親と子ども）」が最も多くなっており、特に大きな違いはみられません。

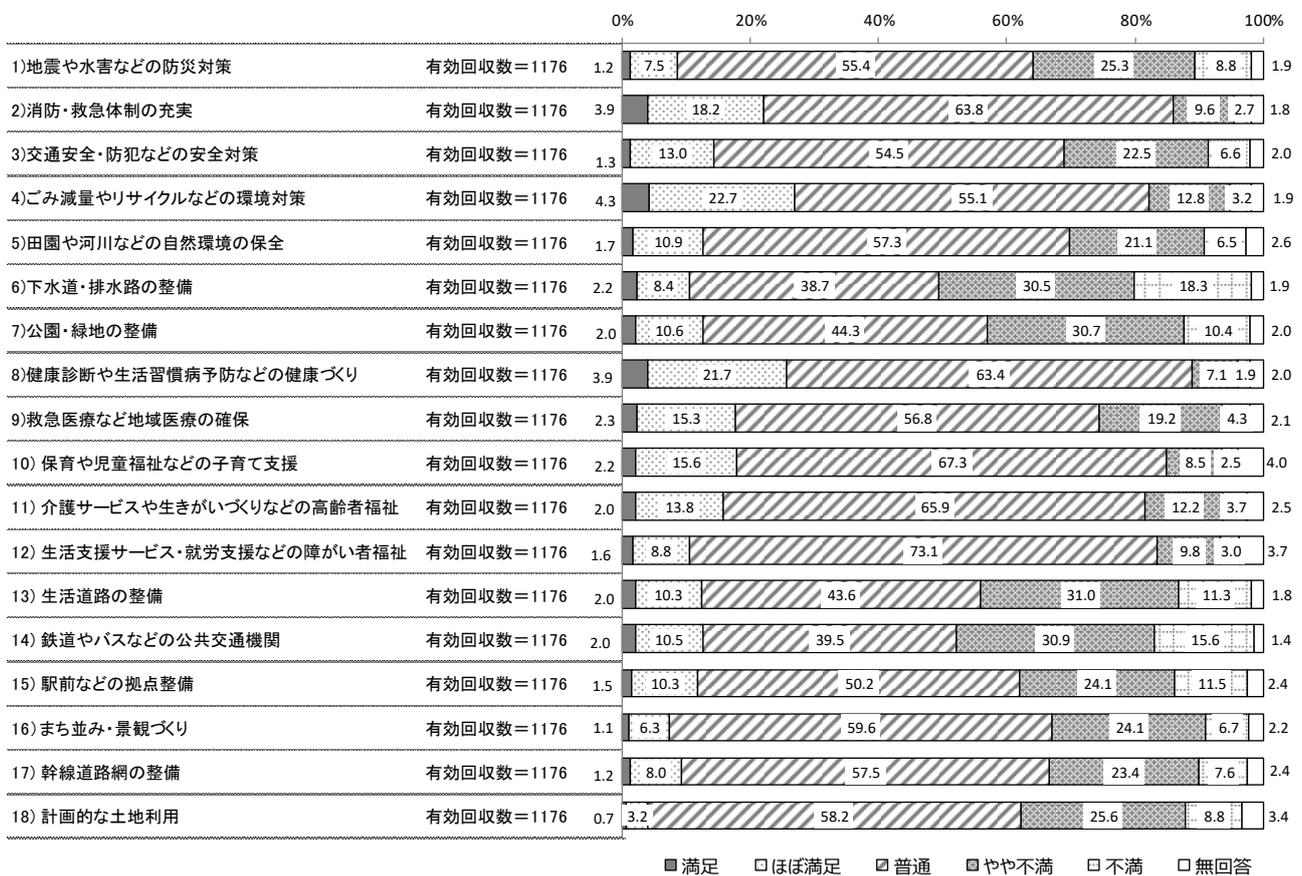


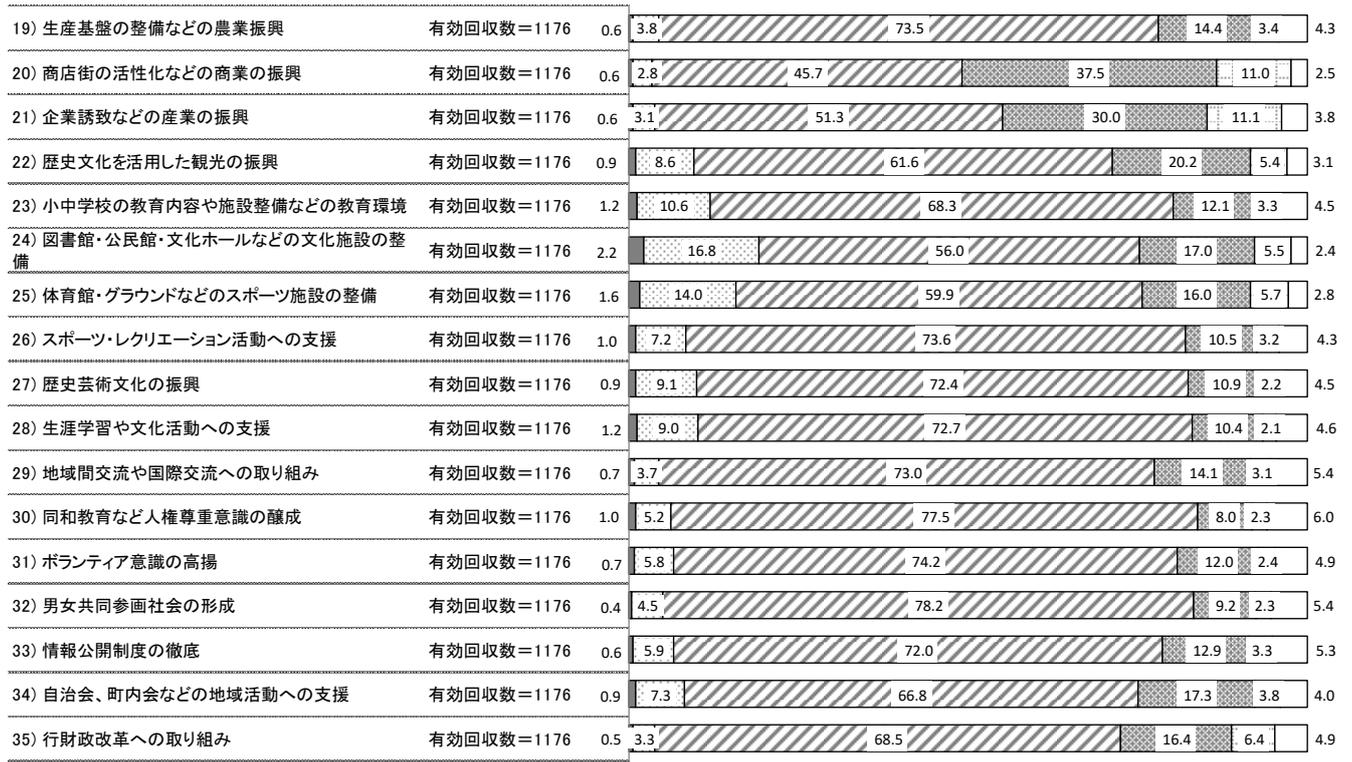
## 2 現在のあま市について

### 問6 現在のまちづくりについて、どの程度満足されていますか。 (それぞれの項目について〇は1つだけ)

現在のまちづくりの満足度については、満足意識（「満足」+「ほぼ満足」）が高かった項目は、「4）ごみ減量やリサイクルなどの環境対策」（27.0%）、「8）健康診断や生活習慣病予防などの健康づくり」（25.6%）、「2）消防・救急体制の充実」（22.1%）などとなっています。

一方で、不満意識（「不満」+「やや不満」）が高かった項目は、「6）下水道・排水路の整備」が48.8%と最も多く、次いで「20）商店街の活性化などの商業の振興」（48.5%）、「14）鉄道やバスなどの公共交通機関」（46.5%）、「13）生活道路の整備」（42.3%）、「7）公園・緑地の整備」「21）企業誘致などの産業の振興」（41.1%）など、6項目で40%を超えています。





■満足 □ほぼ満足 □普通 □やや不満 □不満 □無回答

## ■平成 28 年度調査との比較(満足度比較)

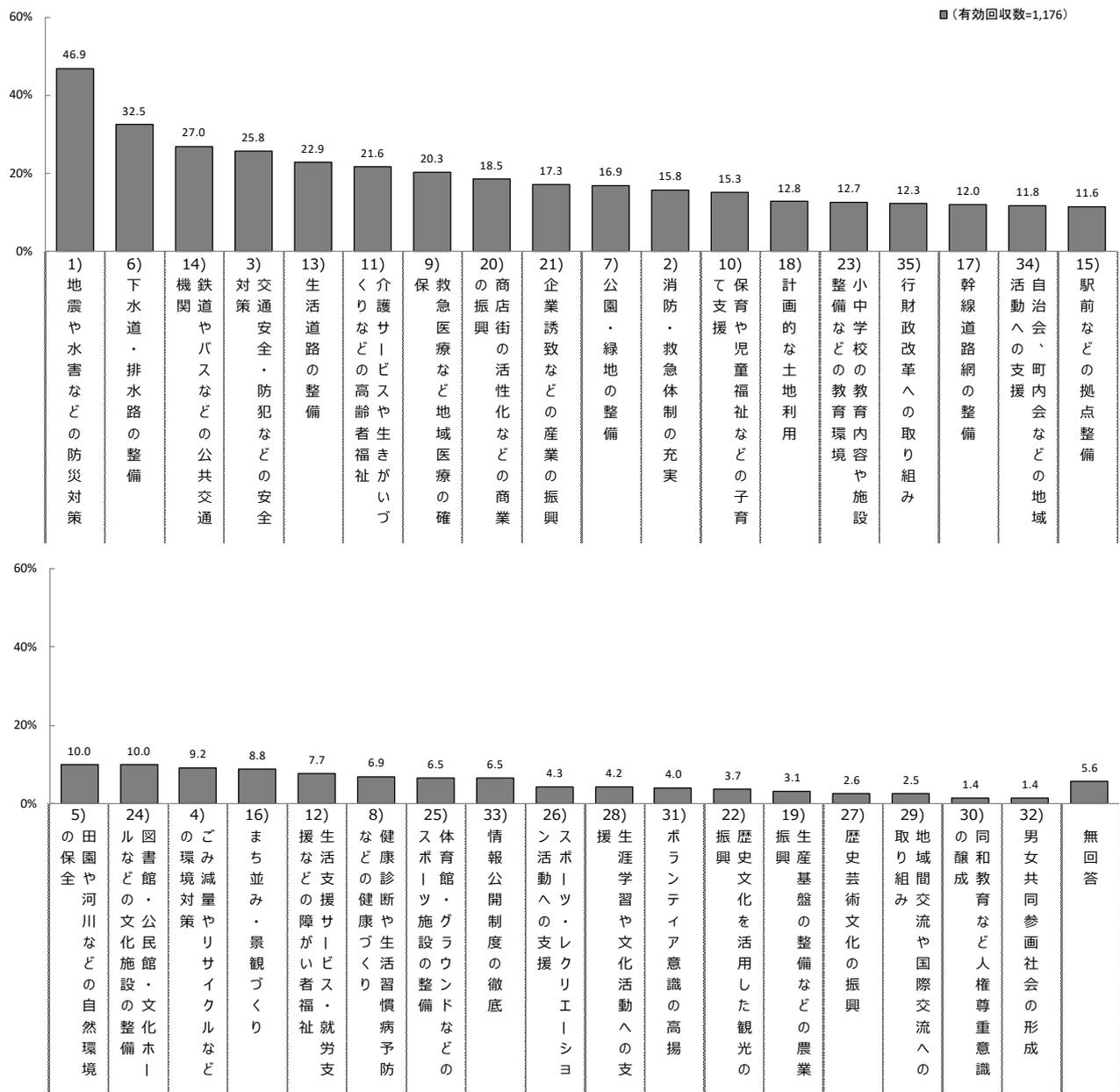
35 項目中 29 項目 (82.9%) は H28 年度と比べて満足度の平均値が高く、2 項目については H28 年度と比べて変化なしとなっています。また、6 項目 (17.1%) は H28 年度と比べて満足度の平均値が低く、特に「09)救急医療など地域医療の確保」「25)体育館・グラウンドなどのスポーツ施設の整備」「03)交通安全・防犯などの安全対策」「14)鉄道やバスなどの公共交通機関」「15)駅前などの拠点整備」など、地域の交通安全対策や生活環境整備に関する項目の満足度が低くなっています。

	R2 年度	H28年度	R2-H28
10) 保育や児童福祉などの子育て支援	3.07	2.94	0.13
21) 企業誘致などの産業の振興	2.50	2.38	0.12
07)公園・緑地の整備	2.63	2.52	0.11
20) 商店街の活性化などの商業の振興	2.43	2.33	0.10
12) 生活支援サービス・就労支援などの障がい者福祉	2.96	2.87	0.09
11) 介護サービスや生きがいづくりなどの高齢者福祉	2.98	2.90	0.08
32) 男女共同参画社会の形成	2.91	2.83	0.08
18)計画的な土地利用	2.60	2.53	0.07
19) 生産基盤の整備などの農業振興	2.83	2.76	0.07
27) 歴史芸術文化の振興	2.95	2.88	0.07
08)健康診断や生活習慣病予防などの健康づくり	3.19	3.12	0.07
22) 歴史文化を活用した観光の振興	2.79	2.72	0.07
31) ボランティア意識の高揚	2.90	2.83	0.07
33) 情報公開制度の徹底	2.87	2.81	0.06
35) 行財政改革への取り組み	2.74	2.69	0.05
29) 地域間交流や国際交流への取り組み	2.84	2.79	0.05
17) 幹線道路網の整備	2.71	2.67	0.04
26) スポーツ・レクリエーション活動への支援	2.92	2.88	0.04
34) 自治会、町内会などの地域活動への支援	2.83	2.79	0.04
30) 同和教育など人権尊重意識の醸成	2.94	2.91	0.03
06)下水道・排水路の整備	2.45	2.43	0.02
16) まち並み・景観づくり	2.70	2.68	0.02
28) 生涯学習や文化活動への支援	2.97	2.95	0.02
01)地震や水害などの防災対策	2.66	2.65	0.01
13) 生活道路の整備	2.60	2.59	0.01
24) 図書館・公民館・文化ホールなどの文化施設の整備	2.93	2.92	0.01
23) 小中学校の教育内容や施設整備などの教育環境	2.94	2.93	0.01
02)消防・救急体制の充実	3.11	3.11	0.00
04)ごみ減量やリサイクルなどの環境対策	3.12	3.12	0.00
05)田園や河川などの自然環境の保全	2.80	2.81	▲ 0.01
03)交通安全・防犯などの安全対策	2.79	2.81	▲ 0.02
14) 鉄道やバスなどの公共交通機関	2.52	2.54	▲ 0.02
15) 駅前などの拠点整備	2.65	2.67	▲ 0.02
25) 体育館・グラウンドなどのスポーツ施設の整備	2.90	2.94	▲ 0.04
09)救急医療など地域医療の確保	2.92	2.98	▲ 0.06

※満足度ポイントについては、P14 参照

**問7 今後のまちづくりに関してあなたが重要だと考える項目はどれですか。前述の問6の項目1～35から5つまで選び、その項目番号を下記回答欄にご記入ください。**

今後のまちづくりに関して重要だと考える項目については、「1)地震や水害などの防災対策」が46.9%と最も多く、次いで、「6)下水道・排水路の整備」が32.5%、「14)鉄道やバスなどの公共交通機関」が27.0%、「3)交通安全・防犯などの安全対策」が25.8%となっています。



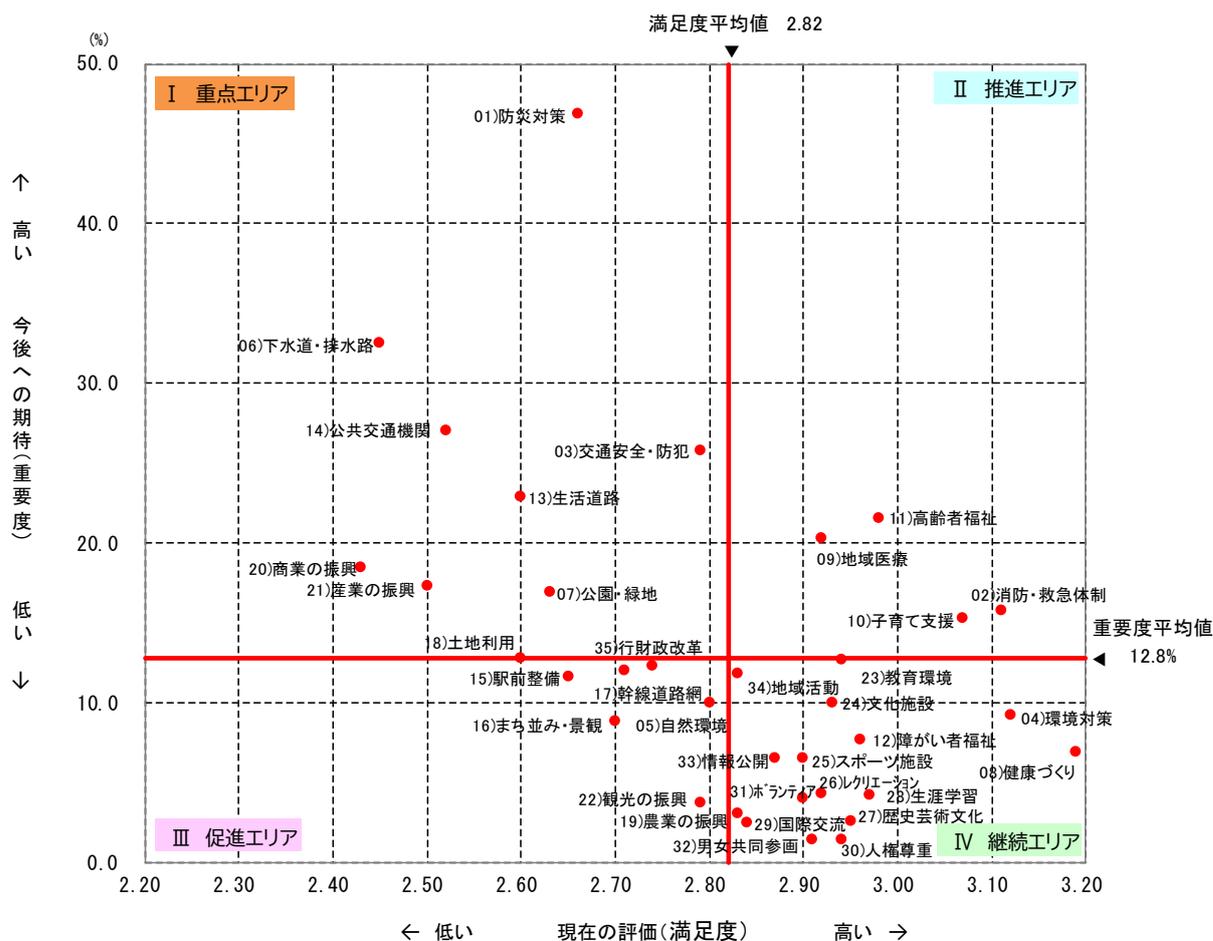
## ■平成 28 年度調査との比較

平成 28 年度と比べて大きな差がみられる項目は、「01) 地震や水害などの防災対策」が 46.9%と 5.3 ポイント増加しています。次いで「02) 消防・救急体制の充実」が 3.9 ポイント、「03) 交通安全・防犯などの安全対策」が 3.6 ポイント、「13) 生活道路の整備」が 3.0 ポイントなど、地域の安全・安心に関する項目の重要度が高くなっています。

	R2年度	H28年度	R2-H28
01)地震や水害などの防災対策	46.9	41.6	5.3
02)消防・救急体制の充実	15.8	11.9	3.9
03)交通安全・防犯などの安全対策	25.8	22.2	3.6
13) 生活道路の整備	22.9	19.9	3.0
12) 生活支援サービス・就労支援などの障がい者福祉	7.7	5.5	2.2
25) 体育館・グラウンドなどのスポーツ施設の整備	6.5	4.4	2.1
09)救急医療など地域医療の確保	20.3	18.3	2.0
26) スポーツ・レクリエーション活動への支援	4.3	2.5	1.8
33) 情報公開制度の徹底	6.5	4.9	1.6
04)ごみ減量やリサイクルなどの環境対策	9.2	7.8	1.4
34) 自治会、町内会などの地域活動への支援	11.8	10.6	1.2
29) 地域間交流や国際交流への取り組み	2.5	1.4	1.1
15) 駅前などの拠点整備	11.6	10.5	1.1
28) 生涯学習や文化活動への支援	4.2	3.3	0.9
27) 歴史芸術文化の振興	2.6	1.7	0.9
21) 企業誘致などの産業の振興	17.3	17.0	0.3
24) 図書館・公民館・文化ホールなどの文化施設の整備	10.0	10.1	▲ 0.1
19) 生産基盤の整備などの農業振興	3.1	3.2	▲ 0.1
31) ボランティア意識の高揚	4.0	4.3	▲ 0.3
30) 同和教育など人権尊重意識の醸成	1.4	1.7	▲ 0.3
32) 男女共同参画社会の形成	1.4	1.7	▲ 0.3
07)公園・緑地の整備	16.9	17.2	▲ 0.3
16) まち並み・景観づくり	8.8	9.2	▲ 0.4
05)田園や河川などの自然環境の保全	10.0	10.5	▲ 0.5
20) 商店街の活性化などの商業の振興	18.5	19.1	▲ 0.6
35) 行財政改革への取り組み	12.3	13.1	▲ 0.8
22) 歴史文化を活用した観光の振興	3.7	4.6	▲ 0.9
11) 介護サービスや生きがいづくりなどの高齢者福祉	21.6	22.7	▲ 1.1
14) 鉄道やバスなどの公共交通機関	27.0	28.1	▲ 1.1
06)下水道・排水路の整備	32.5	34.0	▲ 1.5
23) 小中学校の教育内容や施設整備などの教育環境	12.7	14.3	▲ 1.6
18)計画的な土地利用	12.8	14.9	▲ 2.1
17) 幹線道路網の整備	12.0	14.3	▲ 2.3
08)健康診断や生活習慣病予防などの健康づくり	6.9	10.5	▲ 3.6
10) 保育や児童福祉などの子育て支援	15.3	19.3	▲ 4.0

### 3 市の現状評価と今後の重視する取り組み

現在（令和2年11月の住民意向調査実施時）のまちづくりにおいて、重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い傾向がある項目として、「01 地震や水害などの防災対策」などの安全・安心に関する項目や、「03 交通安全・防犯などの安全対策」などの項目があげられています。また、「06 下水道・排水路の整備」「14 鉄道やバスなどの公共交通機関」「20 商店街の活性化などの商業の振興」など、居住環境やまちの活力に関わる項目があげられています。



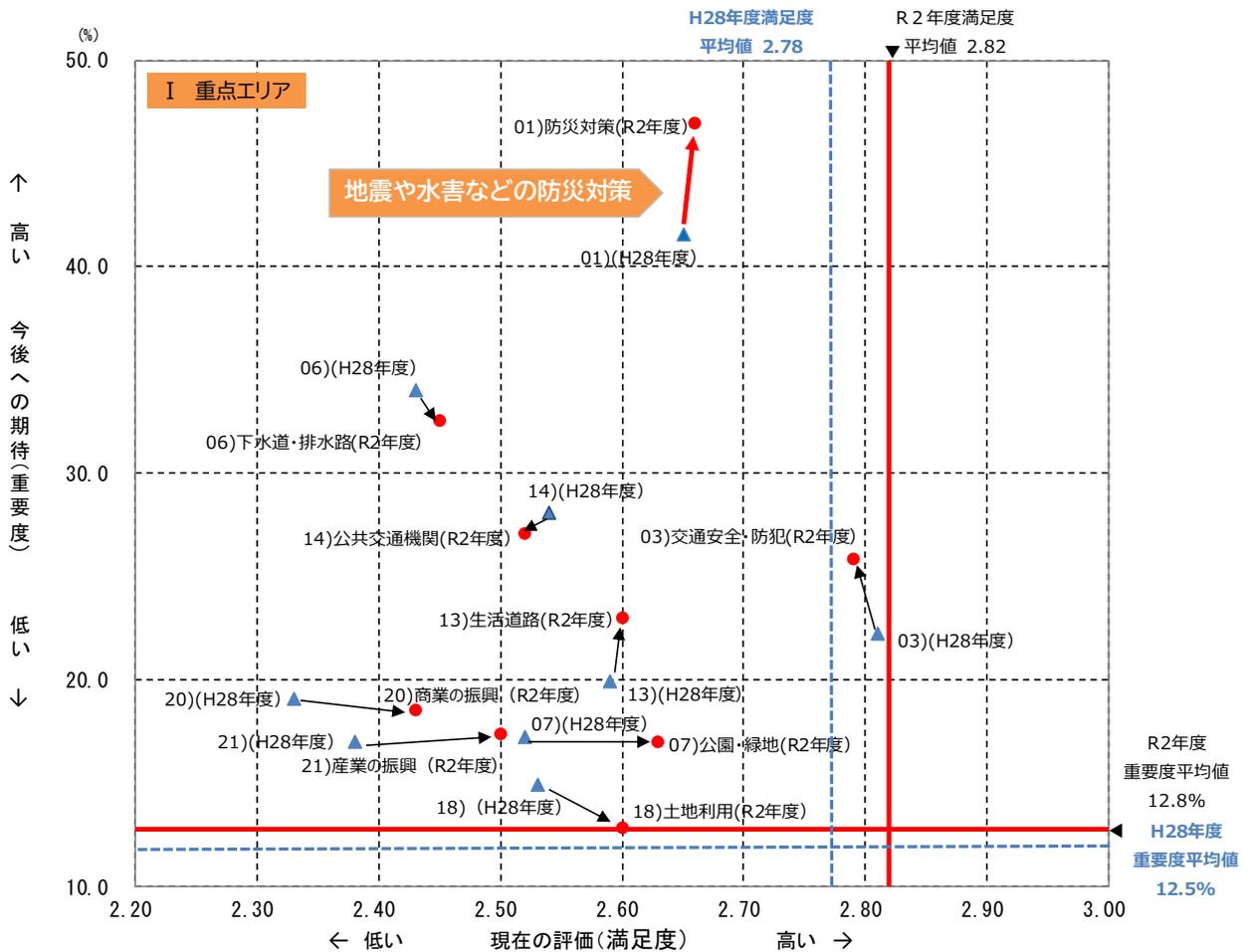
※満足度については、1人1項目あたりの満足度のポイント全体の平均を算出し、それぞれの評価の指標とします。算出された平均ポイントは、5に近いほど満足であることを表し、1に近いほど不満であることを表しています。重要度については、問7で回答された項目の構成比を指標とします。

$$\text{満足度ポイント} = \frac{\text{「満足」の回答者} \times (5 \text{点}) + \text{「ほぼ満足」の回答者} \times (4 \text{点}) + \text{「普通」の回答者} \times (3 \text{点}) + \text{「やや不満」の回答者} \times (2 \text{点}) + \text{「不満」の回答者} \times (1 \text{点})}{\text{総回答者数}}$$

エリア	内容
I 重点エリア	重要度は高いが、満足度は低い ⇒特に取り組むべき施策の分野
II 推進エリア	重要度が高く、満足度も高い ⇒引き続き推進して取り組む施策の分野
III 促進エリア	重要度が低く、満足度も低い ⇒施策についての理解を促進していく分野
IV 継続エリア	重要度は低く、満足度が高い ⇒現在の施策を継続して取り組む分野

(1) 重点エリアにおける経年比較分析

重点エリアの項目については、重要度が高く、満足度が低いことから、特に重点的に取り組む必要があります。重点エリアの項目のうち、「01 地震や水害などの防災対策」については、H28 年度調査に比べ満足度に変化はみられず、より重要度が高まっていることから、本市の最重要課題と位置づけ、最優先で取り組みを進めていく必要があります。また、「03 交通安全・防犯などの安全対策」についても前回調査時は「促進エリア」に位置していたものの、満足度が減少したことにより、「重点エリア」に移行していることから、さらに取り組みを進めていく必要があります。その他の項目についても重要度が平均値よりも高く、満足度が平均値よりも低い重点エリアにある項目であることから改善の必要性が高い項目と考えられます。

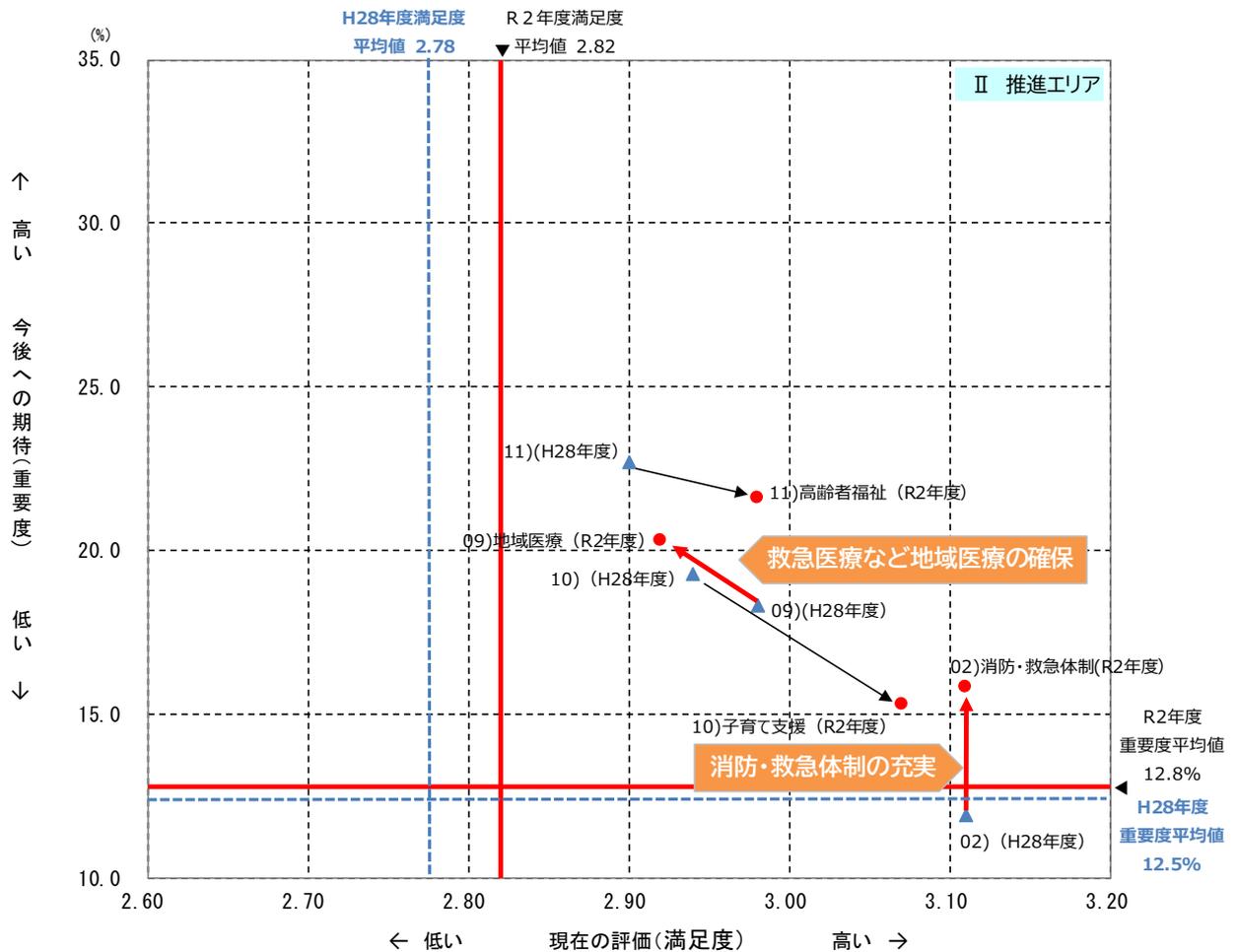


【重点エリアに該当する項目】

項目	満足度		満足度の差	重要度		重要度の差
	R2	H28		R2	H28	
01)地震や水害などの防災対策	2.66	2.65	0.01	46.9	41.6	5.3
03)交通安全・防犯などの安全対策	2.79	2.81	-0.02	25.8	22.2	3.6
06)下水道・排水路の整備	2.45	2.43	0.02	32.5	34.0	-1.5
07)公園・緑地の整備	2.63	2.52	0.11	16.9	17.2	-0.3
13)生活道路の整備	2.60	2.59	0.01	22.9	19.9	3.0
14)鉄道やバスなどの公共交通機関	2.52	2.54	-0.02	27.0	28.1	-1.1
18) 計画的な土地利用	2.60	2.53	0.07	12.8	14.9	-2.1
20) 商店街の活性化などの商業の振興	2.43	2.33	0.10	18.5	19.1	-0.6
21) 企業誘致などの産業の振興	2.50	2.38	0.12	17.3	17.0	0.3

## (2) 推進エリアにおける経年比較分析

推進エリアの項目については、重要度・満足度ともに高いことから、市の施策の強みとして引き続き推進して取り組む必要があります。「09 救急医療など地域医療の確保」については前回調査時に比べて満足度が減少し、重要度が増加したことから、優先的に取り組むべき施策と考えられます。また、「02 消防・救急体制の充実」についても前回調査時は「継続エリア」に位置していたものの、重要度が増加したことにより、「推進エリア」に移行していることから、引き続き取り組みを推進していく必要があります。

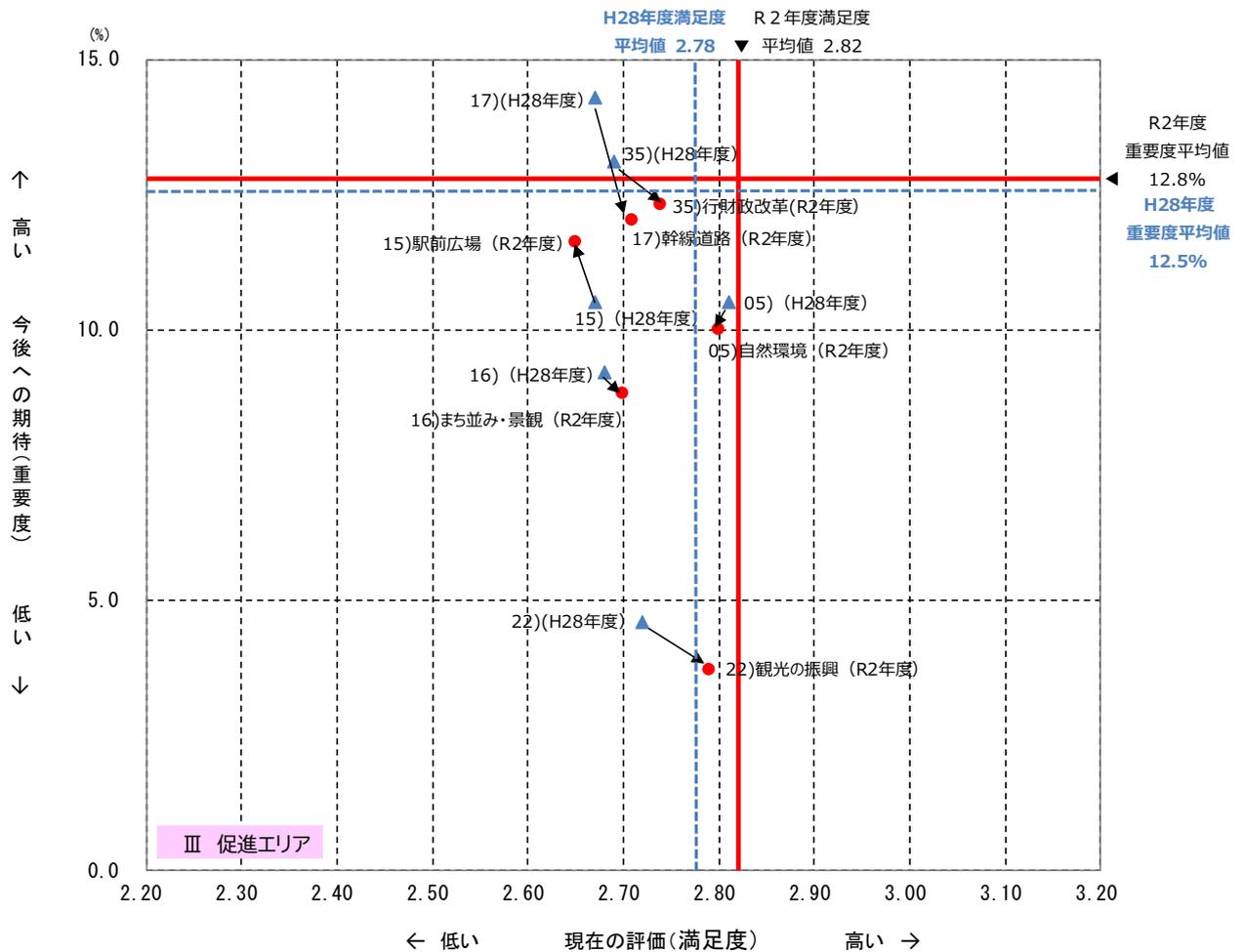


### 【推進エリアに該当する項目】

項目	満足度		満足度の差	重要度		重要度の差
	R2	H28		R2	H28	
02)消防・救急体制の充実	3.11	3.11	0.00	15.8	11.9	3.9
09)救急医療など地域医療の確保	2.92	2.98	-0.06	20.3	18.3	2.0
10) 保育や児童福祉などの子育て支援	3.07	2.94	0.13	15.3	19.3	-4.0
11) 介護サービスや生きがいづくりなどの高齢者福祉	2.98	2.9	0.08	21.6	22.7	-1.1

### (3) 促進エリアにおける経年比較分析

促進エリアの項目については、施策の重要性について市民の理解を促進していく必要があります。促進エリアの項目は、概ね前回調査から満足度が増加しており、重要度も減少しています。「17 幹線道路網の整備」や「35 行財政改革への取り組み」については、前回調査時は「重点エリア」に位置していたものの、重要度が減少して、「促進エリア」に移行していることから施策の取り組みの効果を検証するとともに、市民の理解を促進していく必要があります。

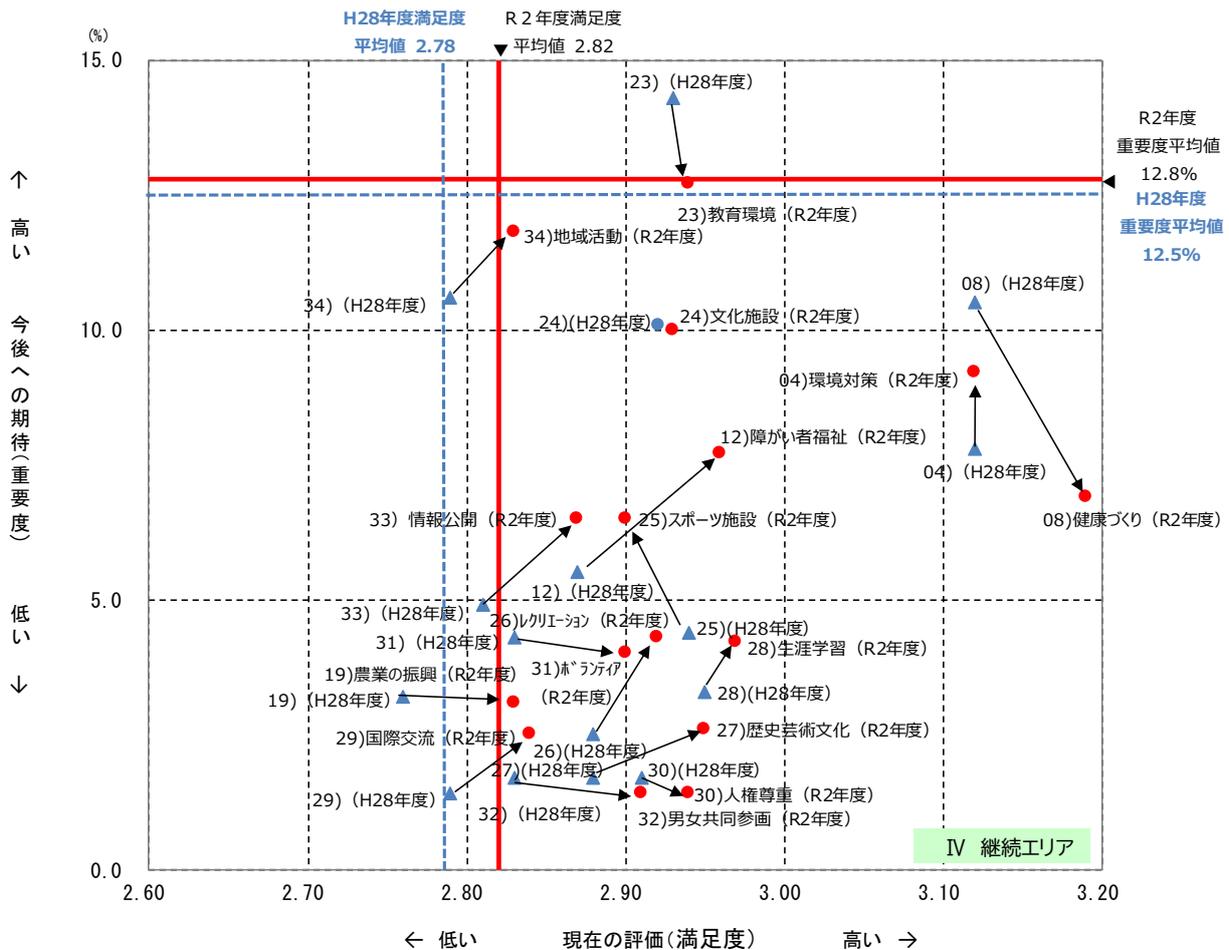


#### 【促進エリアに該当する項目】

項目	満足度		満足度の差	重要度		重要度の差
	R2	H28		R2	H28	
05)田園や河川などの自然環境の保全	2.80	2.81	-0.01	10.0	10.5	-0.5
15) 駅前などの拠点整備	2.65	2.67	-0.02	11.6	10.5	1.1
16) まち並み・景観づくり	2.70	2.68	0.02	8.8	9.2	-0.4
17) 幹線道路網の整備	2.71	2.67	0.04	12.0	14.3	-2.3
22) 歴史文化を活用した観光の振興	2.79	2.72	0.07	3.7	4.6	-0.9
35) 行財政改革への取り組み	2.74	2.69	0.05	12.3	13.1	-0.8

#### (4) 継続エリアにおける経年比較分析

継続エリアの項目については、重要度が低いものの、満足度は高いことから、現在の施策を継続して取り組むことが必要です。継続エリアの項目のうち、「25 体育館・グラウンドなどのスポーツ施設の整備」以外は、前回調査から満足度が増加しています。また、「23 小中学校の教育内容や施設整備などの教育環境」「19 生産基盤の整備などの農業振興」については、前回調査時は「推進エリア」や「促進エリア」に位置していたものの、満足度が増加もしくは重要度が減少したことから「継続エリア」に移行しています。しかしながら、いずれも「推進エリア」や「促進エリア」付近に位置するため、市民の理解・協力を促進しながら継続していくことが必要です。



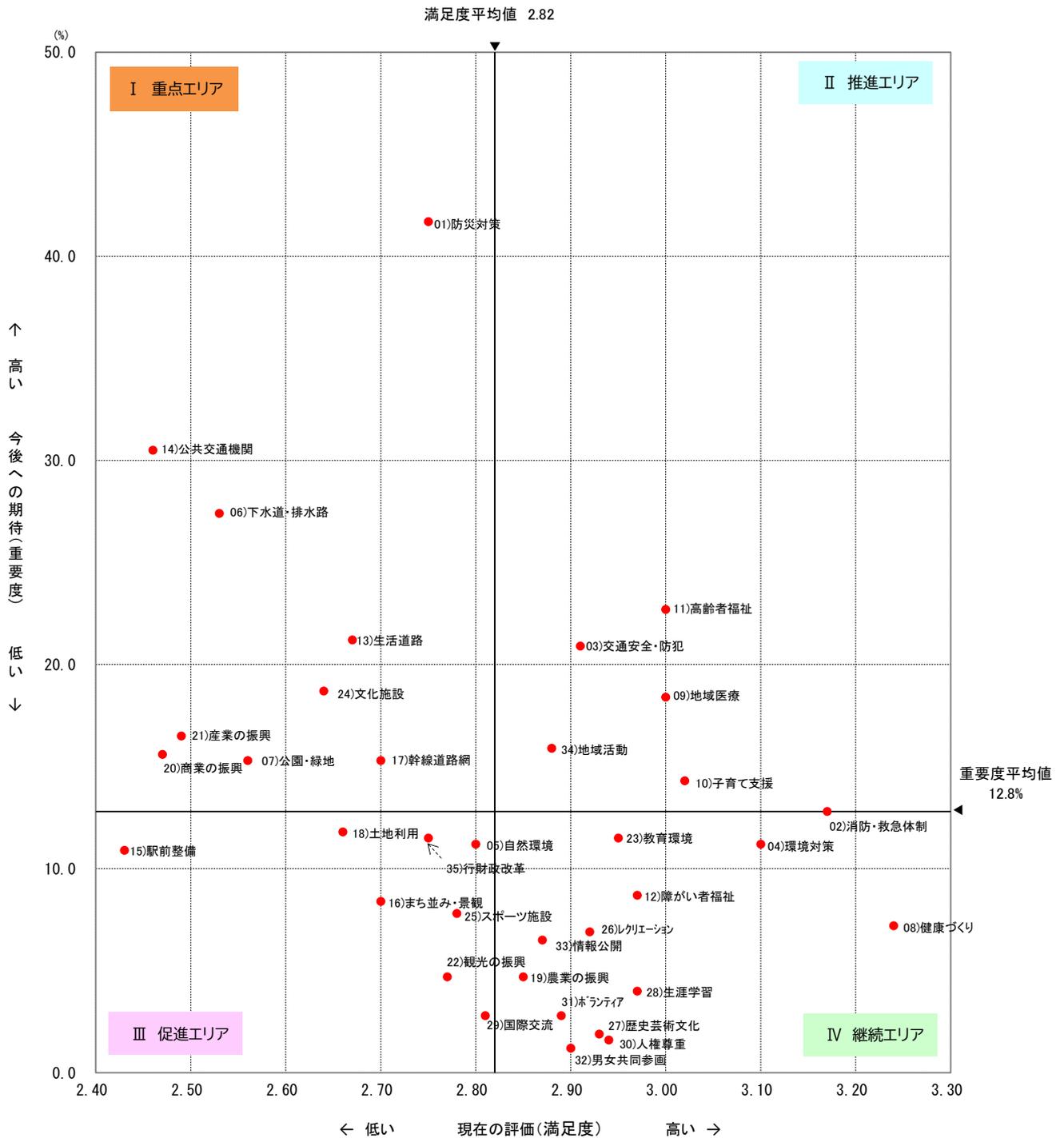
【継続エリアに該当する項目】

項目	満足度		満足度の差	重要度		重要度の差
	R2	H28		R2	H28	
04)ごみ減量やリサイクルなどの環境対策	3.12	3.12	0.00	9.2	7.8	1.4
08)健康診断や生活習慣病予防などの健康づくり	3.19	3.12	0.07	6.9	10.5	-3.6
12)生活支援サービス・就労支援などの障がい者福祉	2.96	2.87	0.09	7.7	5.5	2.2
19)生産基盤の整備などの農業振興	2.83	2.76	0.07	3.1	3.2	-0.1
23)小中学校の教育内容や施設整備などの教育環境	2.94	2.93	0.01	12.7	14.3	-1.6
24)図書館・公民館・文化ホールなどの文化施設の整備	2.93	2.92	0.01	10.0	10.1	-0.1
25)体育館・グラウンドなどのスポーツ施設の整備	2.90	2.94	-0.04	6.5	4.4	2.1
26)スポーツ・レクリエーション活動への支援	2.92	2.88	0.04	4.3	2.5	1.8
27)歴史芸術文化の振興	2.95	2.88	0.07	2.6	4.6	-2.0
28)生涯学習や文化活動への支援	2.97	2.95	0.02	4.2	3.3	0.9
29)地域間交流や国際交流への取り組み	2.84	2.79	0.05	2.5	1.4	1.1
30)同和教育など人権尊重意識の醸成	2.94	2.91	0.03	1.4	1.7	-0.3
31)ボランティア意識の高揚	2.90	2.83	0.07	4.0	4.3	-0.3
32)男女共同参画社会の形成	2.91	2.83	0.08	1.4	1.7	-0.3
33)情報公開制度の徹底	2.87	2.81	0.06	6.5	4.9	1.6
34)自治会、町内会などの地域活動への支援	2.83	2.79	0.04	11.8	10.6	1.2

(5) 満足度・重要度の分布図（地区別）

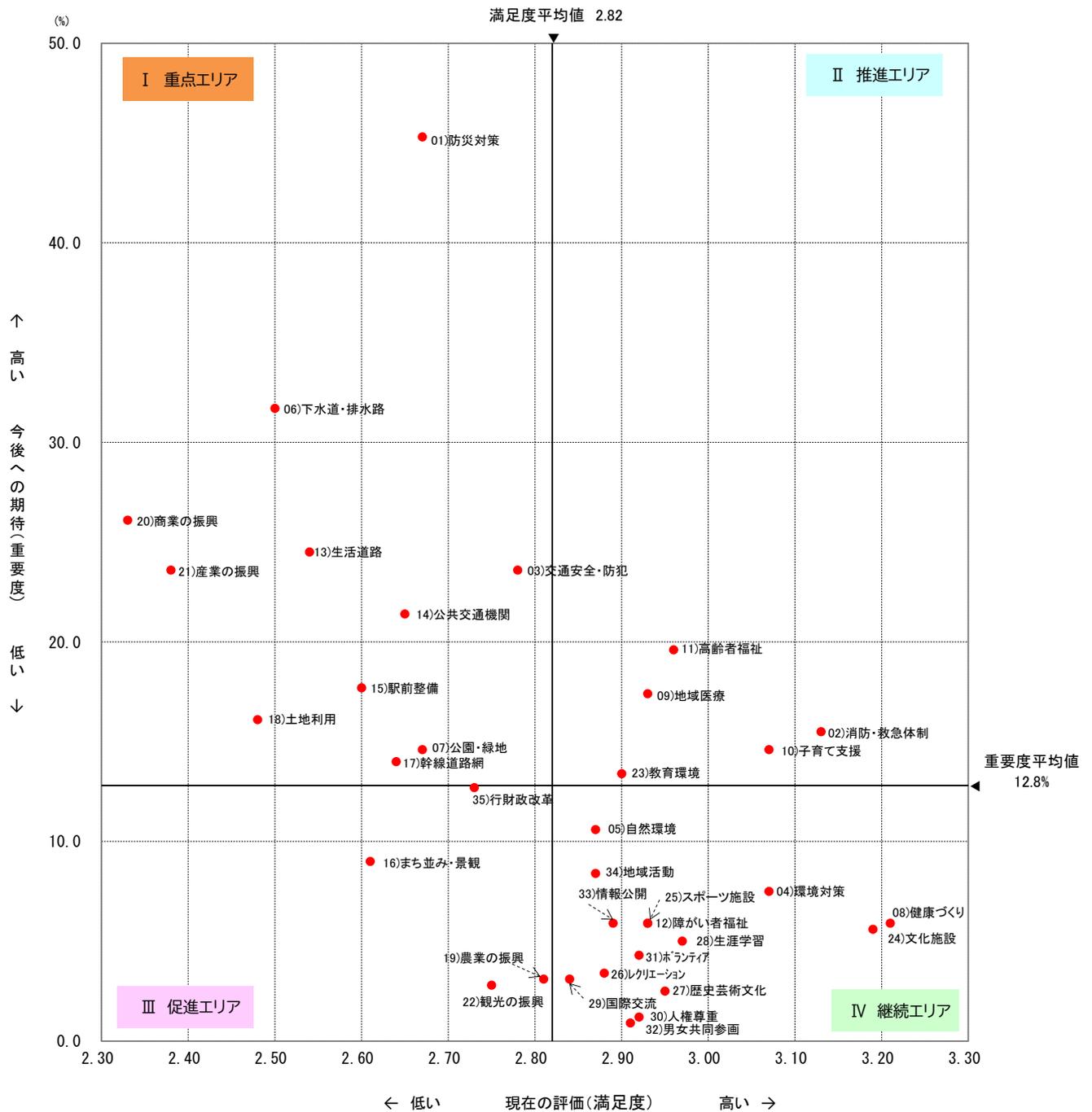
満足度・重要度の分布図を地区別でみると、七宝地区では、重点エリアに該当する項目として、「01 地震や水害などの防災対策」「06 下水道・排水路の整備」「07 公園・緑地の整備」「13 生活道路の整備」「14 鉄道やバスなどの公共交通機関」「17 幹線道路網の整備」「20 商店街の活性化などの商業の振興」「21 企業誘致などの産業の振興」「24 図書館・公民館・文化ホールなどの文化施設の整備」などが該当しています。

【七宝地区】



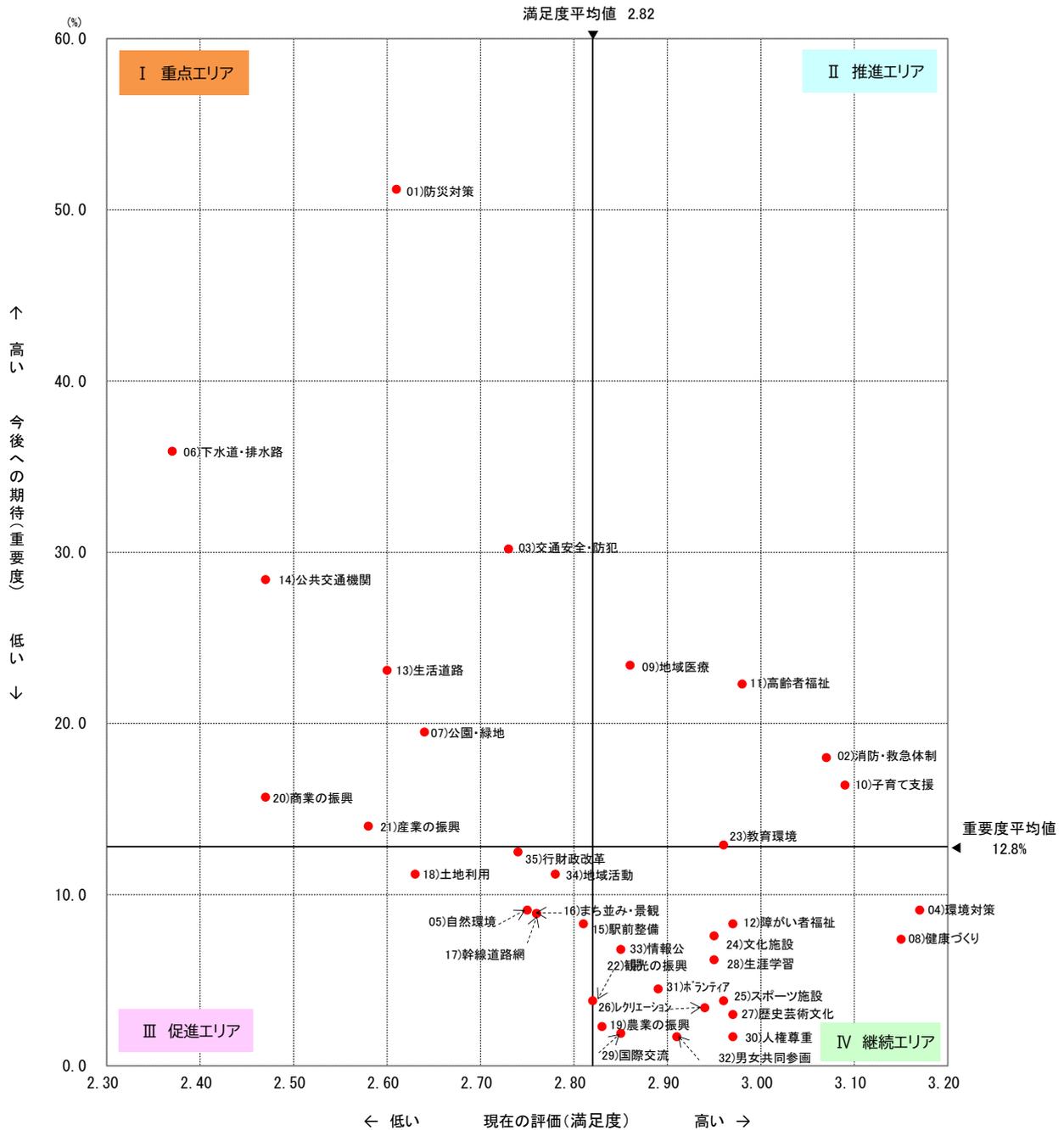
美和地区では、重点エリアに該当する項目として、「01 地震や水害などの防災対策」「03 交通安全・防犯などの安全対策」「06 下水道・排水路の整備」「07 公園・緑地の整備」「13 生活道路の整備」「14 鉄道やバスなどの公共交通機関」「15 駅前などの拠点整備」「17 幹線道路網の整備」「18 計画的な土地利用」「20 商店街の活性化などの商業の振興」「21 企業誘致などの産業の振興」などが該当しています。

【美和地区】



甚目寺地区では、重点エリアに該当する項目として、「01 地震や水害などの防災対策」「03 交通安全・防犯などの安全対策」「06 下水道・排水路の整備」「07 公園・緑地の整備」「13 生活道路の整備」「14 鉄道やバスなどの公共交通機関」「20 商店街の活性化などの商業の振興」「21 企業誘致などの産業の振興」などが該当しています。

【甚目寺地区】

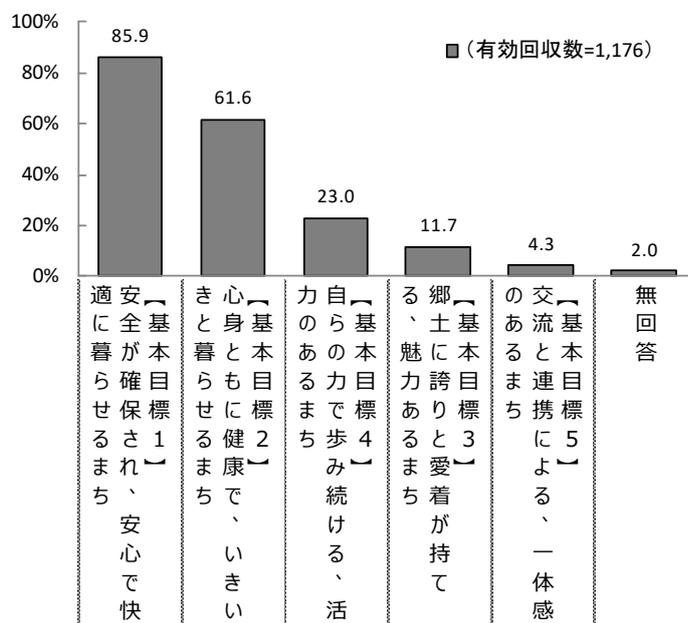


#### 4 あま市の将来像について

**問8 第1次あま市総合計画では、以下の基本目標を掲げていました。この中で、どの目標に今後一層、力を入れて取り組んでいくべきだと思いますか。**  
**(主なもの2つまで○)**

今後一層、力を入れて取り組んでいくべきと思う基本項目については、「【基本目標1】安全が確保され、安心して快適に暮らせるまち」が85.9%と最も多く、次いで「【基本目標2】心身ともに健康で、いきいきと暮らせるまち」が61.6%、「【基本目標4】自らの力で歩み続ける、活力のあるまち」が23.0%となっています。

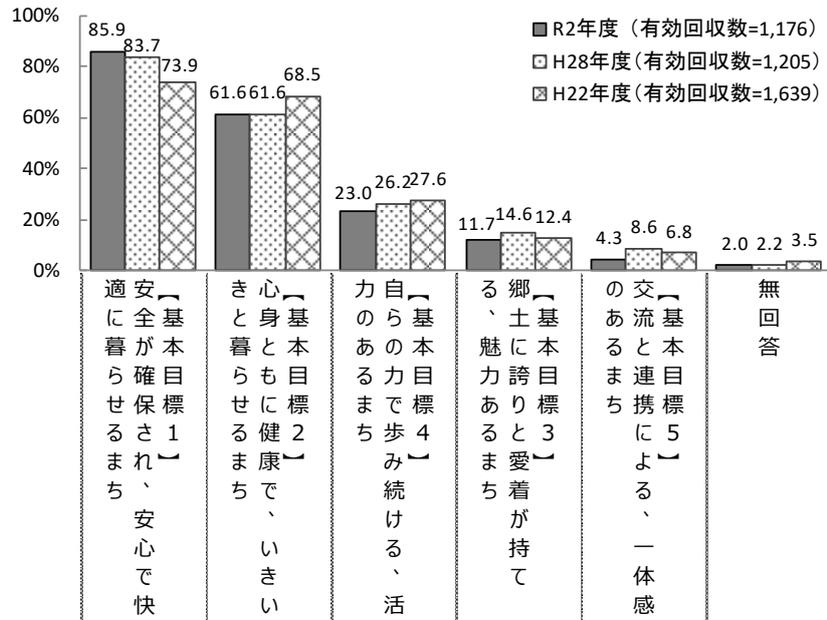
年齢別、地区別のいずれにおいても、「【基本目標1】安全が確保され、安心して快適に暮らせるまち」が最も多く、次いで「【基本目標2】心身ともに健康で、いきいきと暮らせるまち」の順となっており、特に大きな違いはみられません。



		調査数	問8 今後一層力を入れて取り組んでいくべき基本目標					無回答
			【基本目標1】安全が確保され、安心して快適に暮らせるまち	【基本目標2】心身ともに健康で、いきいきと暮らせるまち	【基本目標4】自らの力で歩み続ける、活力のあるまち	【基本目標3】郷土に誇りと愛着が持てる、魅力あるまち	【基本目標5】交流と連携による、一体感のあるまち	
調査数		1176	85.9	61.6	23.0	11.7	4.3	2.0
年齢	10代	21	95.2	47.6	19.0	28.6	4.8	-
	20代	67	82.1	52.2	32.8	10.4	3.0	1.5
	30代	126	84.1	55.6	31.7	8.7	4.8	1.6
	40代	236	86.4	59.3	28.4	12.3	3.0	0.4
	50代	164	88.4	65.2	17.7	11.0	4.3	0.6
	60代	162	85.2	59.3	23.5	14.2	3.7	2.5
	70代以上	390	86.4	66.7	17.7	10.8	5.4	3.1
地区	七宝地区	321	84.7	59.5	20.9	15.0	4.4	2.2
	美和地区	322	83.5	62.7	26.4	10.6	4.7	2.5
	菟目寺地区	529	88.3	62.4	22.5	10.6	3.8	1.1

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

今後一層、力を入れて取り組んでいけばと思う基本項目については、R2 年度では「【基本目標 1】安全が確保され、安心して快適に暮らせるまち」が 85.9%と最も多くなっており、H28 年度と比較して 2.2 ポイント増加しています。また、H22 年度からの 10 年間では 12.0 ポイント増加しています。



## 5 土地利用について

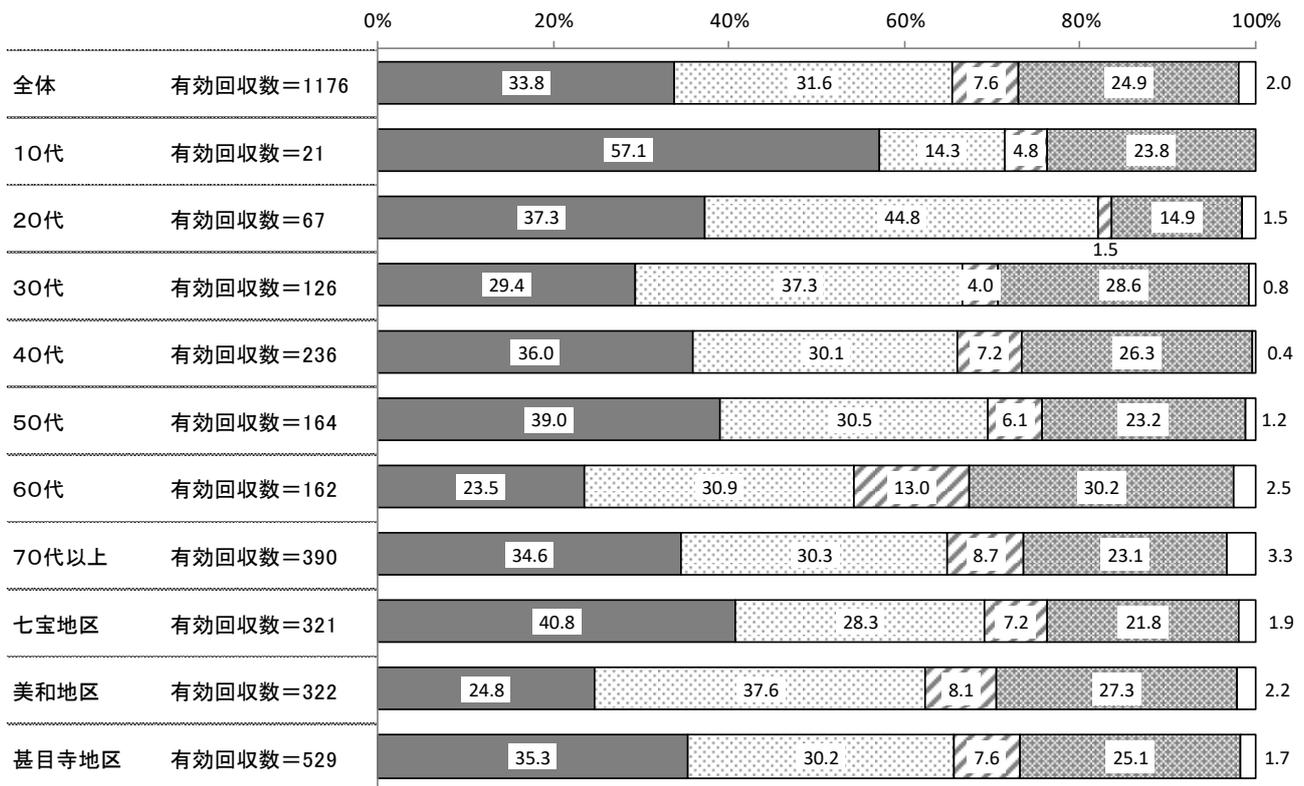
**問9 あま市全体の土地利用について、何を重点的に進めていくことが望ましいと思いますか。次に示すそれぞれの項目ごとにお答えください。**

### (1) 住宅地の土地利用について (○は1つだけ)

住宅地の土地利用については、「鉄道やバスなどの利用しやすい交通環境の充実を図る」が 33.8%と最も多く、次いで「スーパーマーケットなどの商業施設や病院などの生活利便施設の立地を促す」が 31.6%、「市街地内の空き家・空き地など未利用地等の利活用を図る」が 24.9%となっています。

年齢別では、10代、40～50代、70代以上で「鉄道やバスなどの利用しやすい交通環境の充実を図る」が、20～30代、60代で「スーパーマーケットなどの商業施設や病院などの生活利便施設の立地を促す」が最も多くなっています。

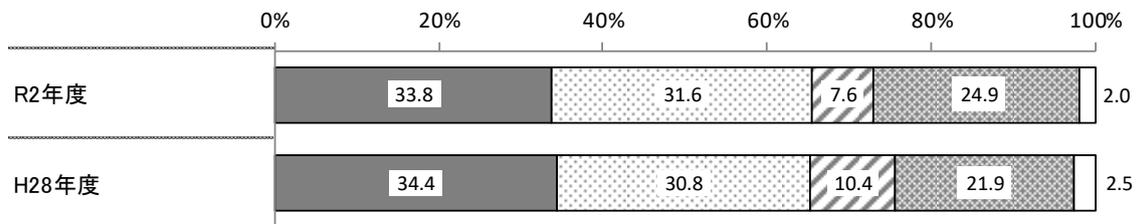
地区別では、七宝地区や甚目寺地区で「鉄道やバスなどの利用しやすい交通環境の充実を図る」が、美和地区で「スーパーマーケットなどの商業施設や病院などの生活利便施設の立地を促す」が、それぞれ約4割を占めています。



- 鉄道やバスなどの利用しやすい交通環境の充実を図る
- スーパーマーケットなどの商業施設や病院などの生活利便施設の立地を促す
- 今の住環境の維持を図る
- 市街地内の空き家・空き地など未利用地等の利活用を図る
- 無回答

## ■平成 28 年度調査との比較

R2 年度においても「鉄道やバスなどの利用しやすい交通環境の充実を図る」「スーパーマーケットなどの商業施設や病院などの生活利便施設の立地を促す」の上位 2 項目の順位に変化はないものの、「市街地内の空き家・空き地など未利用地等の利活用を図る」が 24.9%と H28 年度に比べて 3.0 ポイント増加しています。



R2年度（有効回収数=1,176）  
H28年度（有効回収数=1,205）

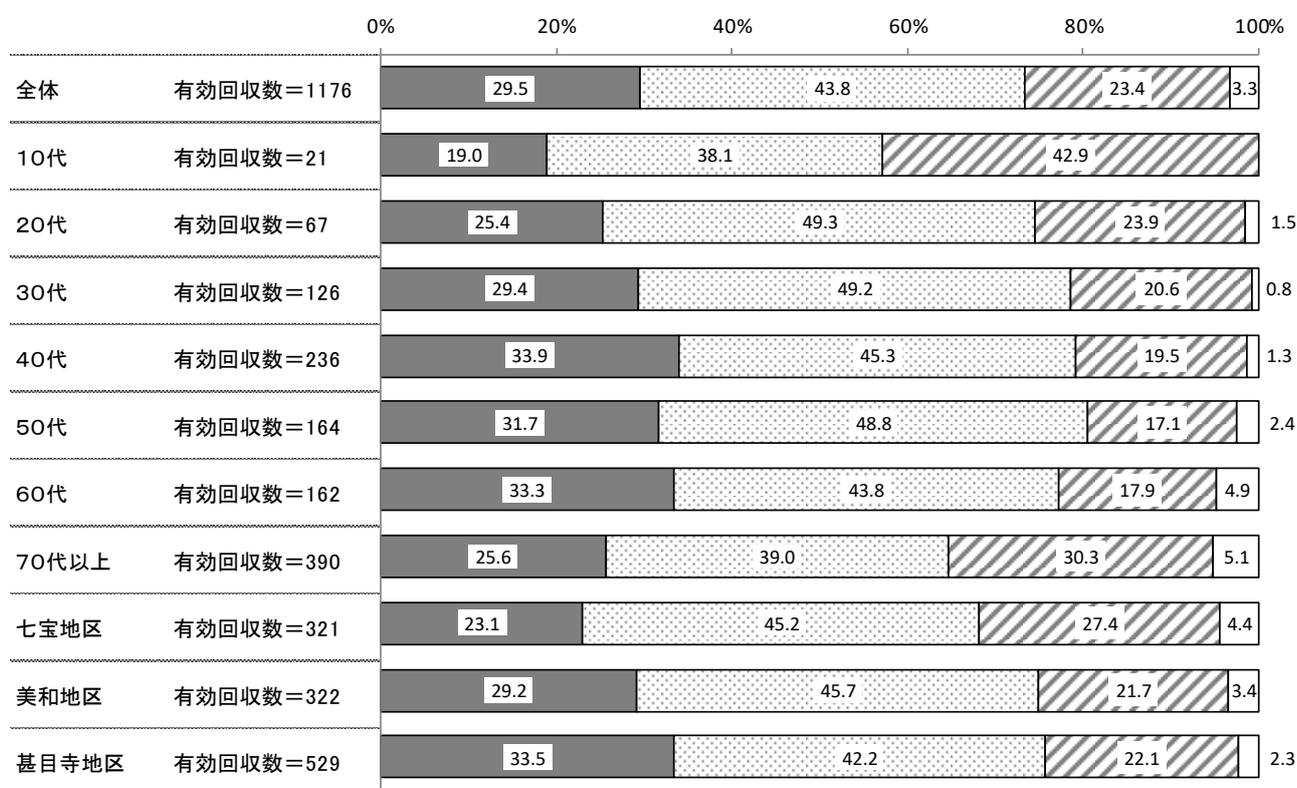
- 鉄道やバスなどの利用しやすい交通環境の充実を図る
- スーパーマーケットなどの商業施設や病院などの生活利便施設の立地を促す
- 今の住環境の維持を図る
- 市街地内の空き家・空き地など未利用地等の利活用を図る
- 無回答

## (2) 商業地の土地利用について (〇は1つだけ)

商業地の土地利用については、「新たな商業施設が立地できる商業用地の拡大を図る」が43.8%と最も多く、次いで「駅前や幹線道路沿道の今ある商店街などの維持や活性化を図る」が29.5%、「日用品を扱う地域型の商店や、身近なコンビニエンスストアがあれば十分である」が23.4%となっています。

年齢別では、20代以上で「新たな商業施設が立地できる商業用地の拡大を図る」が、10代で「日用品を扱う地域型の商店や、身近なコンビニエンスストアがあれば十分である」が最も多くなっています。

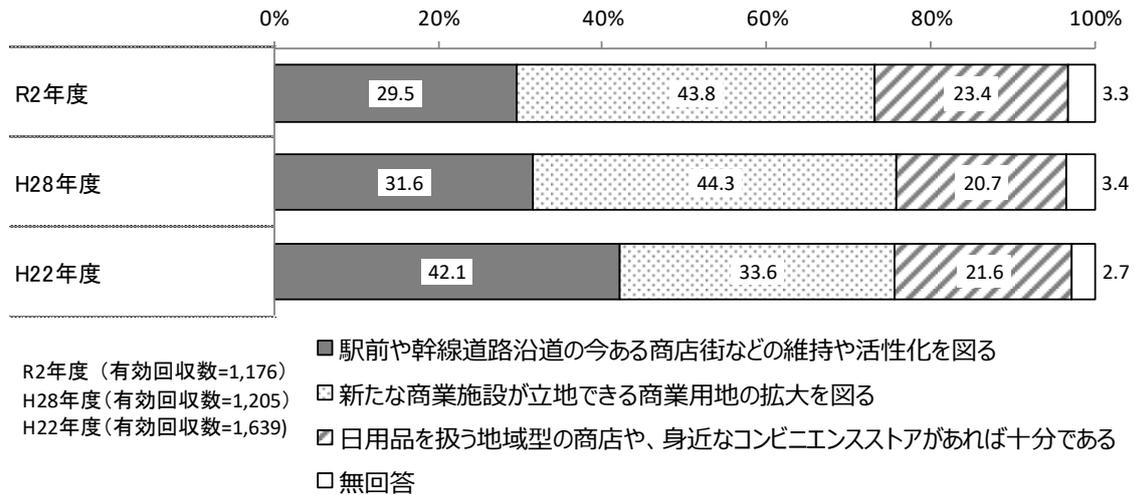
地区別では、いずれの地区においても「新たな商業施設が立地できる商業用地の拡大を図る」が最も多くなっています。また、甚目寺地区では「駅前や幹線道路沿道の今ある商店街などの維持や活性化を図る」が33.5%と、他の地区に比べて多くなっています。



- 駅前や幹線道路沿道の今ある商店街などの維持や活性化を図る
- 新たな商業施設が立地できる商業用地の拡大を図る
- 日用品を扱う地域型の商店や、身近なコンビニエンスストアがあれば十分である
- 無回答

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2 年度は「日用品を扱う地域型の商店や、身近なコンビニエンスストアがあれば十分である」が 23.4%と H28 年度に比べて 2.7 ポイント増加しています。また、「新たな商業施設が立地できる商業用地の拡大を図る」は H22 年度からの 10 年間では 10.2 ポイント増加しているのに対し、「駅前や幹線道路沿道の今ある商店街などの維持や活性化を図る」は 12.6 ポイント減少しています。

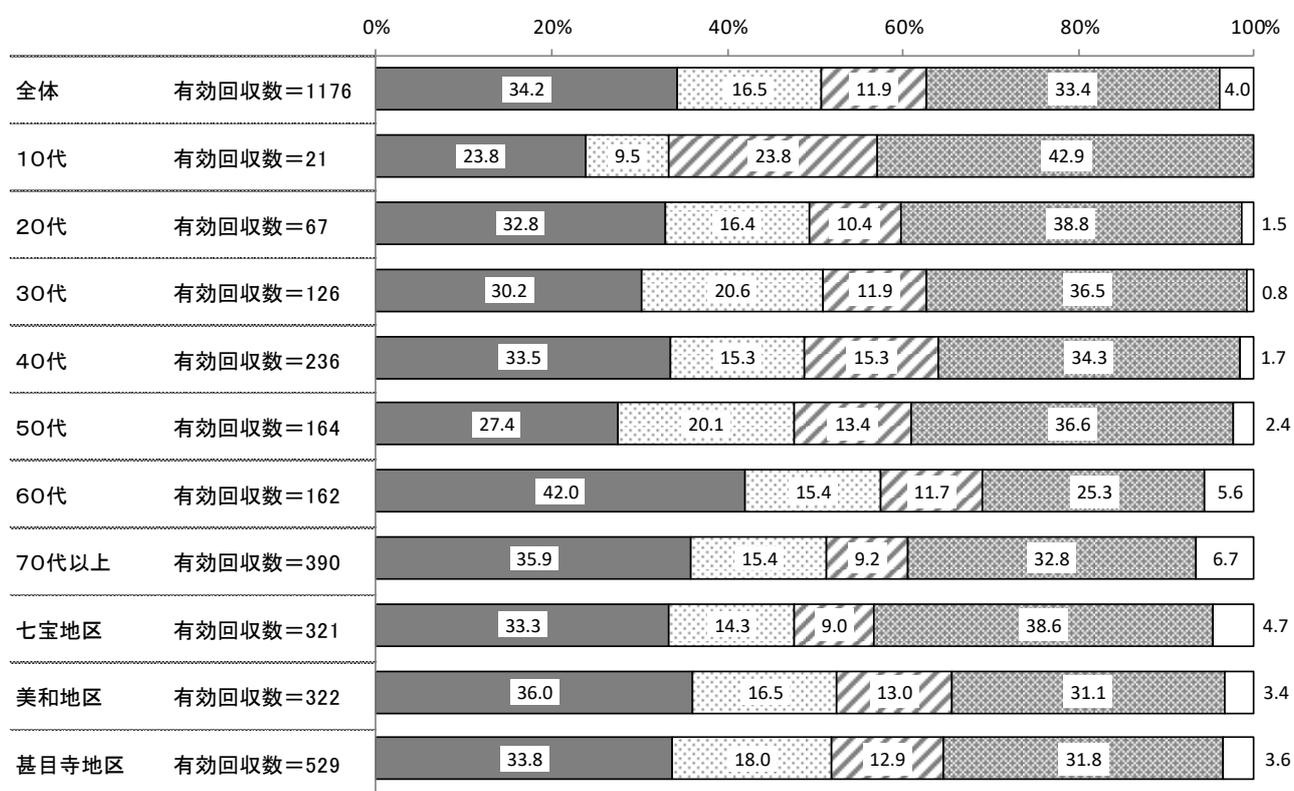


### (3) 工業地の土地利用について (〇は1つだけ)

工業地の土地利用については、「環境に配慮したうえで、新たな工業地を計画的に配置し、積極的に企業誘致を進める」が 34.2%と最も多く、次いで「周辺との調和を考慮して、既存の工場が操業しやすい環境を向上させる」が 33.4%、「インターチェンジ周辺や幹線道路沿道など、工業立地に適した場所に工場を集積させる」が 16.5%、「現状の工業地を維持する」が 11.9%となっています。

年齢別では、10～50代で「周辺との調和を考慮して、既存の工場が操業しやすい環境を向上させる」が、60代以上で「環境に配慮したうえで、新たな工業地を計画的に配置し、積極的に企業誘致を進める」が最も多くなっています。

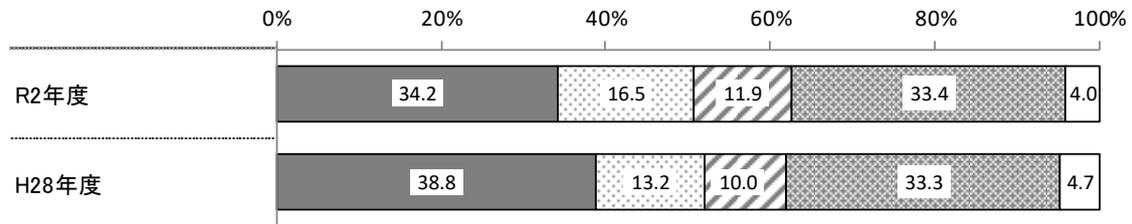
地区別では、七宝地区で「周辺との調和を考慮して、既存の工場が操業しやすい環境を向上させる」が 38.6%と、他の地区に比べて多くなっています。



- 環境に配慮したうえで、新たな工業地を計画的に配置し、積極的に企業誘致を進める
- インターチェンジ周辺や幹線道路沿道など、工業立地に適した場所に工場を集積させる
- 現状の工業地を維持する
- ▨ 周辺との調和を考慮して、既存の工場が操業しやすい環境を向上させる
- 無回答

## ■平成 28 年度調査との比較

R2年度は「環境に配慮したうえで、新たな工業地を計画的に配置し、積極的に企業誘致を進める」が34.2%とH28年度に比べて4.6ポイント減少しているのに対し、「インターチェンジ周辺や幹線道路沿道など、工業立地に適した場所に工場を集積させる」は3.3ポイント増加しています。

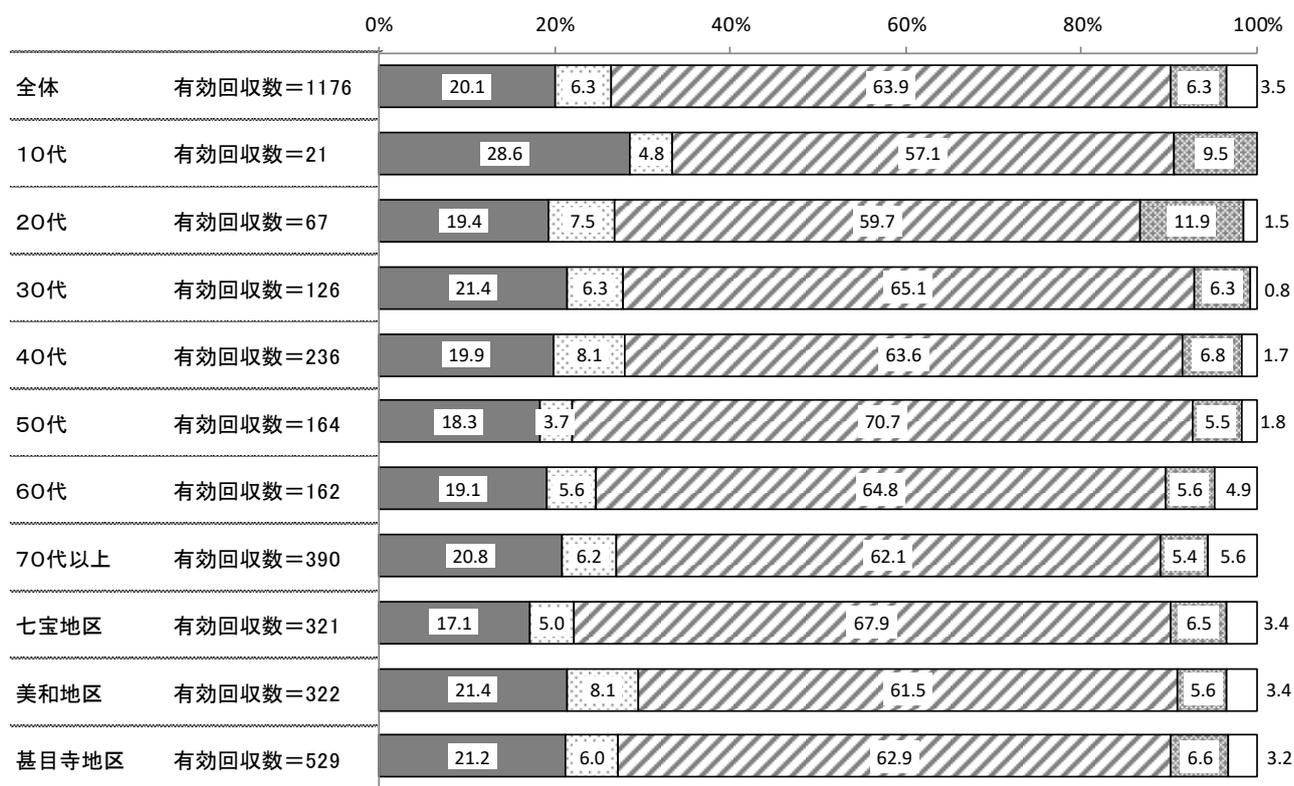


- 環境に配慮したうえで、新たな工業地を計画的に配置し、積極的に企業誘致を進める
  - インターチェンジ周辺や幹線道路沿道など、工業立地に適した場所に工場を集積させる
  - 現状の工業地を維持する
  - 周辺との調和を考慮して、既存の工場が操業しやすい環境を向上させる
  - 無回答
- R2年度（有効回収数=1,176）  
H28年度（有効回収数=1,205）

#### (4) 農地などについて (〇は1つだけ)

農地などについては、「開発をすところと、保全する農地を明確に区別して、バランスの取れた土地利用を行う」が 63.9%と最も多く、次いで「農地は食料の供給等、防災上で重要な機能を担うため、開発は行わず、積極的に保全する」が 20.1%となっています。

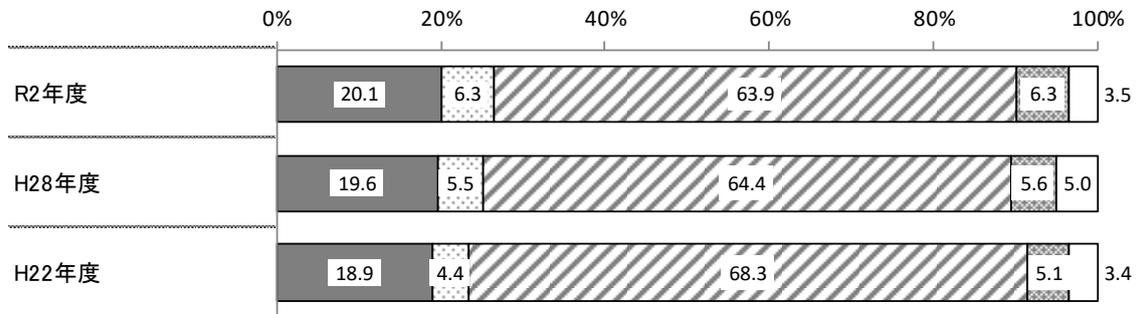
年齢別、地区別のいずれにおいても、「開発をすところと、保全する農地を明確に区別して、バランスの取れた土地利用を行う」が最も多く、次いで「農地は食料の供給等、防災上で重要な機能を担うため、開発は行わず、積極的に保全する」の順となっており、特に大きな違いはみられません。



- 農地は食料の供給等、防災上で重要な機能を担うため、開発は行わず、積極的に保全する
- 工業や商業などの産業振興を優先し、景観や環境が悪くなっても積極的な農地転用を行う
- 開発をすところと、保全する農地を明確に区別して、バランスの取れた土地利用を行う
- 特に何もせずに、現状を維持する
- 無回答

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

いずれの調査時においても、「開発をすところと、保全する農地を明確に区別して、バランスの取れた土地利用を行う」が6割を超え最も高くなっており、特に大きな変化は見られません。



- 農地は食料の供給等、防災上で重要な機能を担うため、開発は行わず、積極的に保全する
- 工業や商業などの産業振興を優先し、景観や環境が悪くなくても積極的な農地転用を行う
- 開発をすところと、保全する農地を明確に区別して、バランスの取れた土地利用を行う
- 特に何もせずに、現状を維持する
- 無回答

## 6 都市の基盤整備について

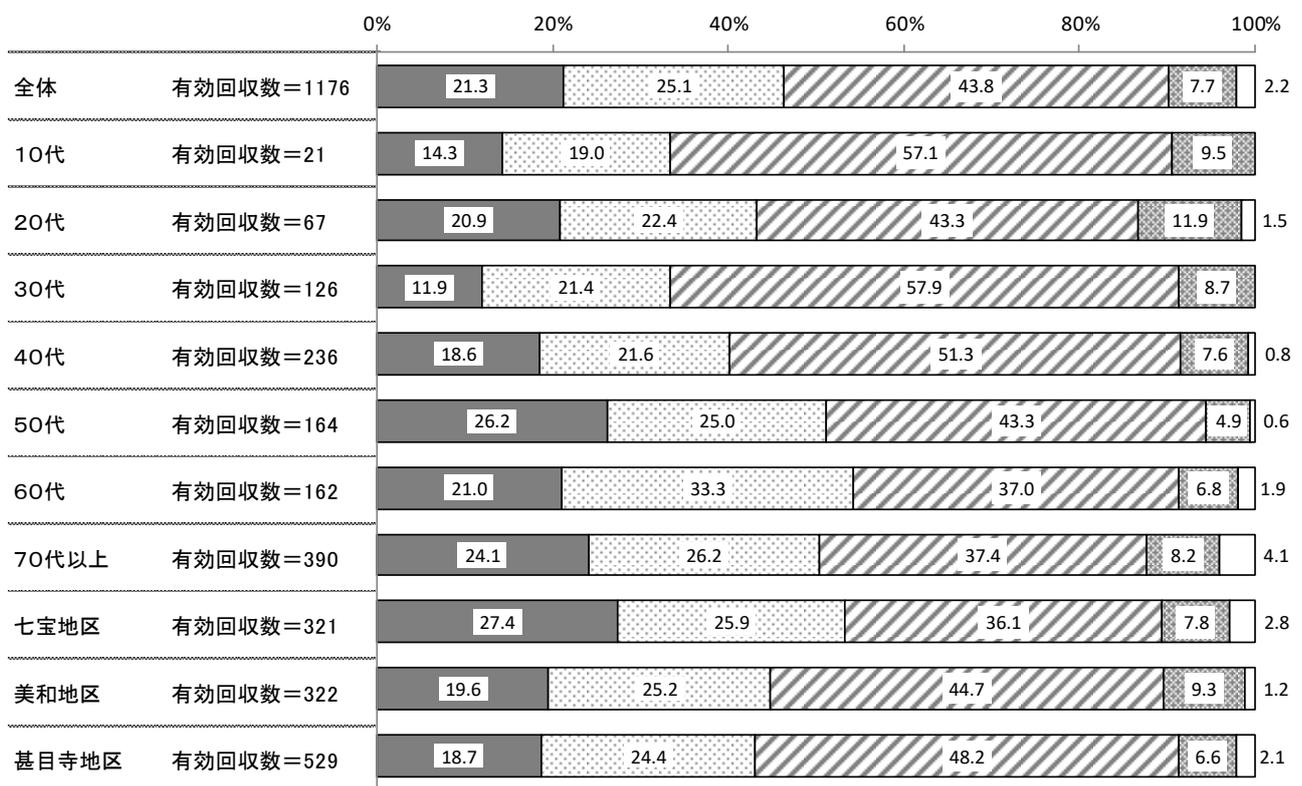
問10 これからのあま市のまちづくりについて、何が重要だと思いますか。次に示すそれぞれの分野ごとにお答えください。

### (1) 道路などの整備について (○は1つだけ)

道路などの整備については、「幹線道路よりも、住宅地内の生活道路や鉄道駅までの道路を改善する」が43.8%と最も多く、次いで「市で計画している道路に優先順位を付けて、計画道路の見直しを行う」が25.1%、「周辺都市や市内各地を連絡する幹線道路の整備を一層進める」が21.3%となっています。

年齢別では、いずれの年代においても「幹線道路よりも、住宅地内の生活道路や鉄道駅までの道路を改善する」が最も多く、特に10代、30~40代で5割を超えています。

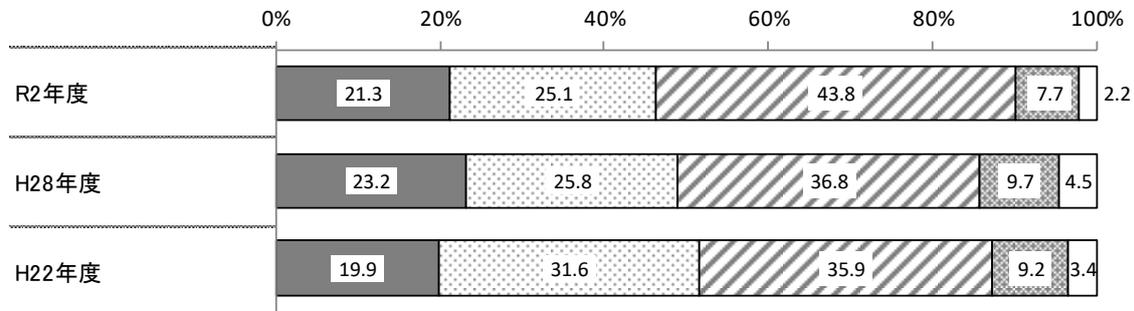
地区別では、いずれの地区においても「幹線道路よりも、住宅地内の生活道路や鉄道駅までの道路を改善する」が最も多く、特に甚目寺地区では48.2%と、他の地区に比べて多くなっています。



- 周辺都市や市内各地を連絡する幹線道路の整備を一層進める
- 市で計画している道路に優先順位を付けて、計画道路の見直しを行う
- ▨ 幹線道路よりも、住宅地内の生活道路や鉄道駅までの道路を改善する
- ▩ 今のままで十分である
- 無回答

■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R 2 年度は「幹線道路よりも、住宅地内の生活道路や鉄道駅までの道路を改善する」が43.8%とH28年度に比べて7.0ポイント増加しています。



R2年度（有効回収数=1,176）  
H28年度（有効回収数=1,205）  
H22年度（有効回収数=1,639）

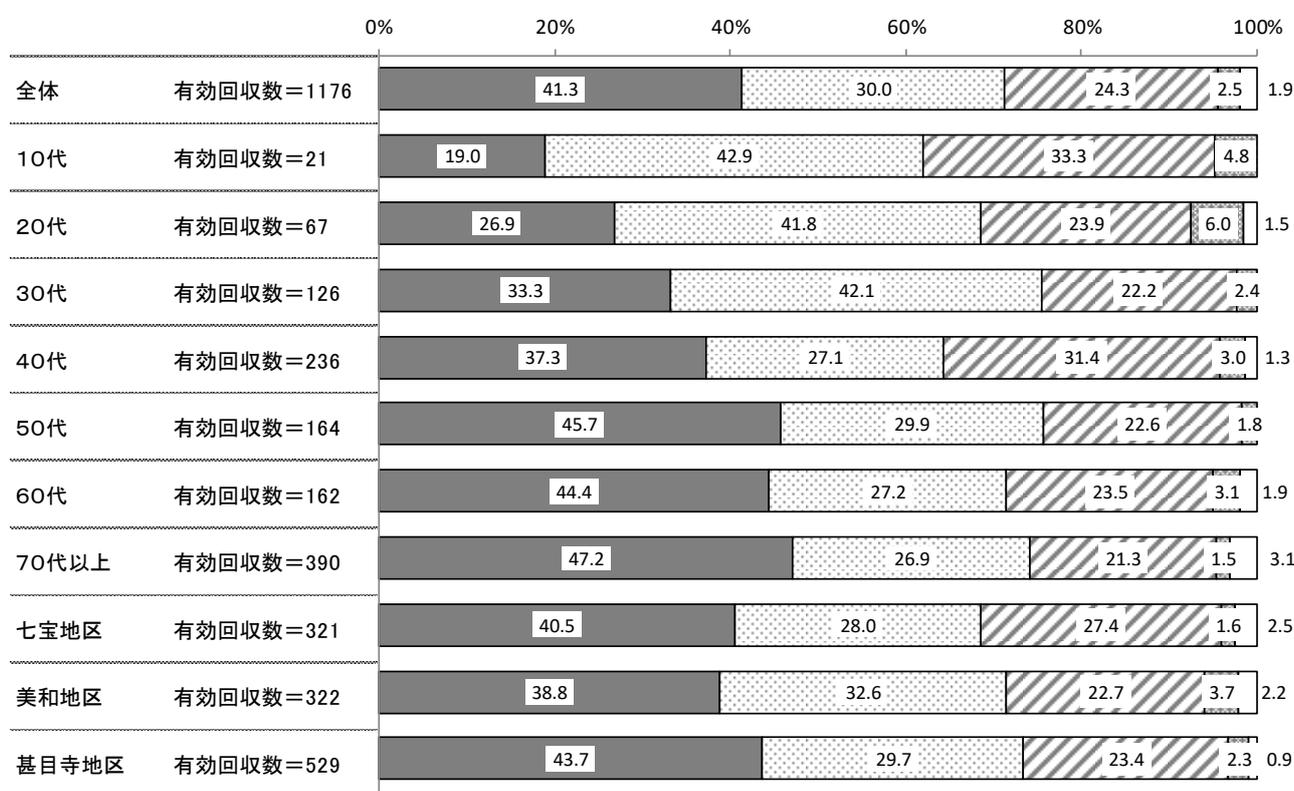
- 周辺都市や市内各地を連絡する幹線道路の整備を一層進める
- 市で計画している道路に優先順位を付けて、計画道路の見直しを行う
- 幹線道路よりも、住宅地内の生活道路や鉄道駅までの道路を改善する
- 今のままで十分である
- 無回答

## (2) 交通施設の整備について (〇は1つだけ)

交通施設の整備については、「高齢化により、自動車を利用できない人も増えるので、公共交通機関の充実を進める」が41.3%と最も多く、次いで「公共交通施設などのバリアフリー化や、歩行者の安全性の確保に向けた整備を進める」が30.0%、「自動車に過度に頼らないよう、公共交通機関同士の連携を高め、利便性を向上させる」が24.3%となっています。

年齢別では、30代以下の若年層で「公共交通施設などのバリアフリー化や、歩行者の安全性の確保に向けた整備を進める」が、40代以上で「高齢化により、自動車を利用できない人も増えるので、公共交通機関の充実を進める」が最も多くなっています。

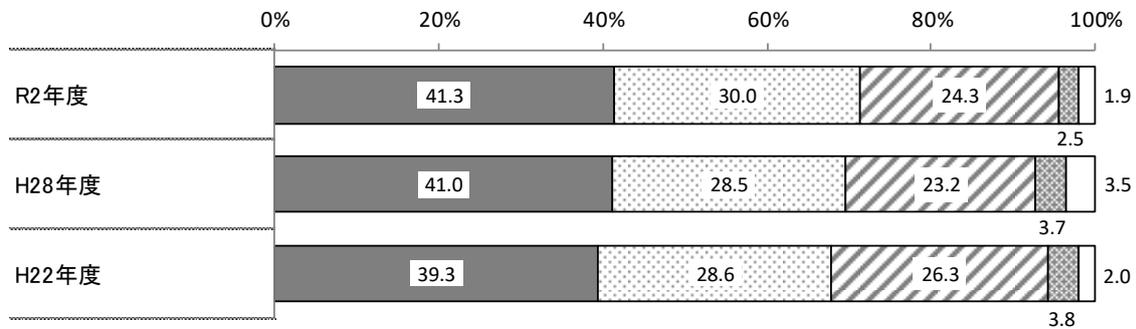
地区別では、七宝地区で「自動車に過度に頼らないよう、公共交通機関同士の連携を高め、利便性を向上させる」が27.4%と、他の地区に比べて多くなっています。



- 高齢化により、自動車を利用できない人も増えるので、公共交通機関の充実を進める
- 公共交通施設などのバリアフリー化や、歩行者の安全性の確保に向けた整備を進める
- 自動車に過度に頼らないよう、公共交通機関同士の連携を高め、利便性を向上させる
- 今のままで十分である
- 無回答

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

いずれの調査時においても、「高齢化により、自動車を利用できない人も増えるので、公共交通機関の充実を進める」が約 4 割を占め最も高くなっており、特に大きな変化は見られません。



R2年度 (有効回収数=1,176)

H28年度 (有効回収数=1,205)

H22年度 (有効回収数=1,639)

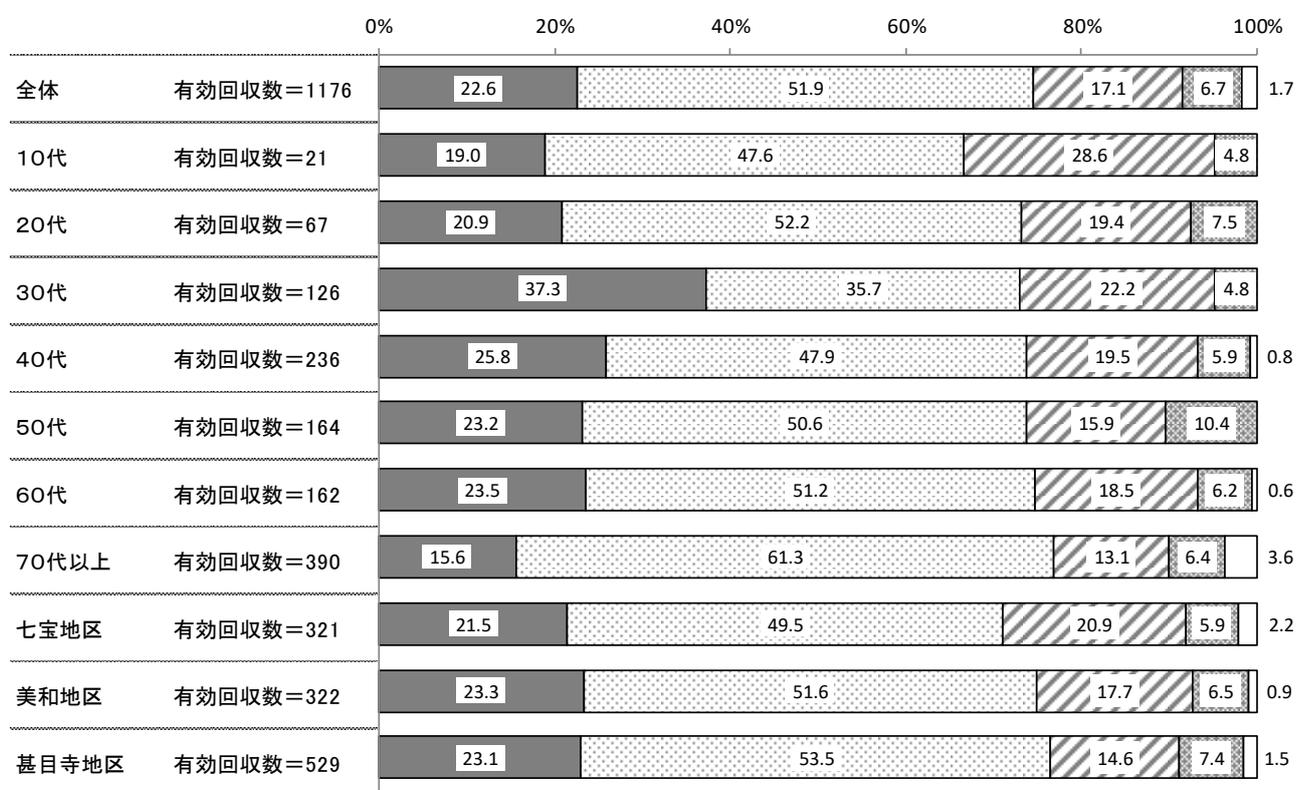
- 高年齢化により、自動車を利用できない人も増えるので、公共交通機関の充実を進める
- 公共交通施設などのバリアフリー化や、歩行者の安全性の確保に向けた整備を進める
- ▨ 自動車に過度に頼らないよう、公共交通機関同士の連携を高め、利便性を向上させる
- ▩ 今のままで十分である
- 無回答

### (3) 公園・緑地などの整備について（〇は1つだけ）

公園・緑地などの整備については、「新たな公園・緑地を確保するよりも、今ある公園・緑地を再整備する」が51.9%と最も多く、次いで「気軽に利用できる小さな公園・緑地の確保や、身近な緑を積極的に確保する」が22.6%、「小さな公園・緑地を確保するよりも、大きな公園・緑地を充実・確保する」が17.1%となっています。

年齢別では、30代で「気軽に利用できる小さな公園・緑地の確保や、身近な緑を積極的に確保する」が37.3%と、他の年代に比べて多くなっています。

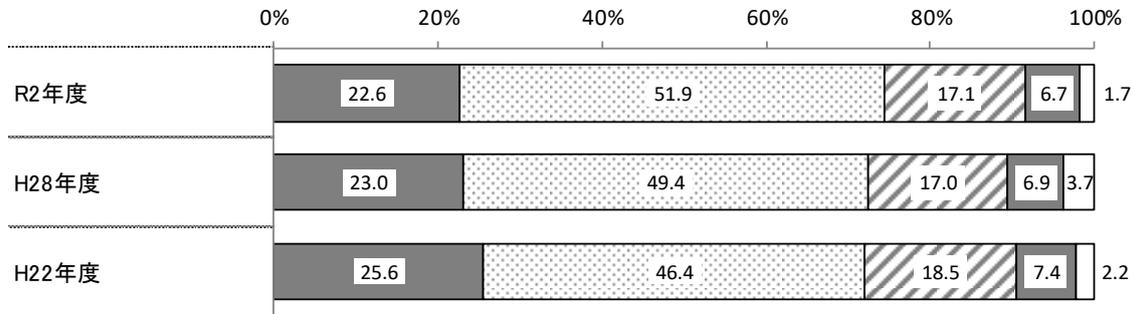
地区別では、いずれの地区においても「新たな公園・緑地を確保するよりも、今ある公園・緑地を再整備する」が最も多く、5割前後を占めています。



- 気軽に利用できる小さな公園・緑地の確保や、身近な緑を積極的に確保する
- 新たな公園・緑地を確保するよりも、今ある公園・緑地を再整備する
- ▣ 小さな公園・緑地を確保するよりも、大きな公園・緑地を充実・確保する
- ▤ 今のままで十分である
- 無回答

■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は「新たな公園・緑地を確保するよりも、今ある公園・緑地を再整備する」が 51.9%と H28 年度に比べて 2.5 ポイント増加しています。



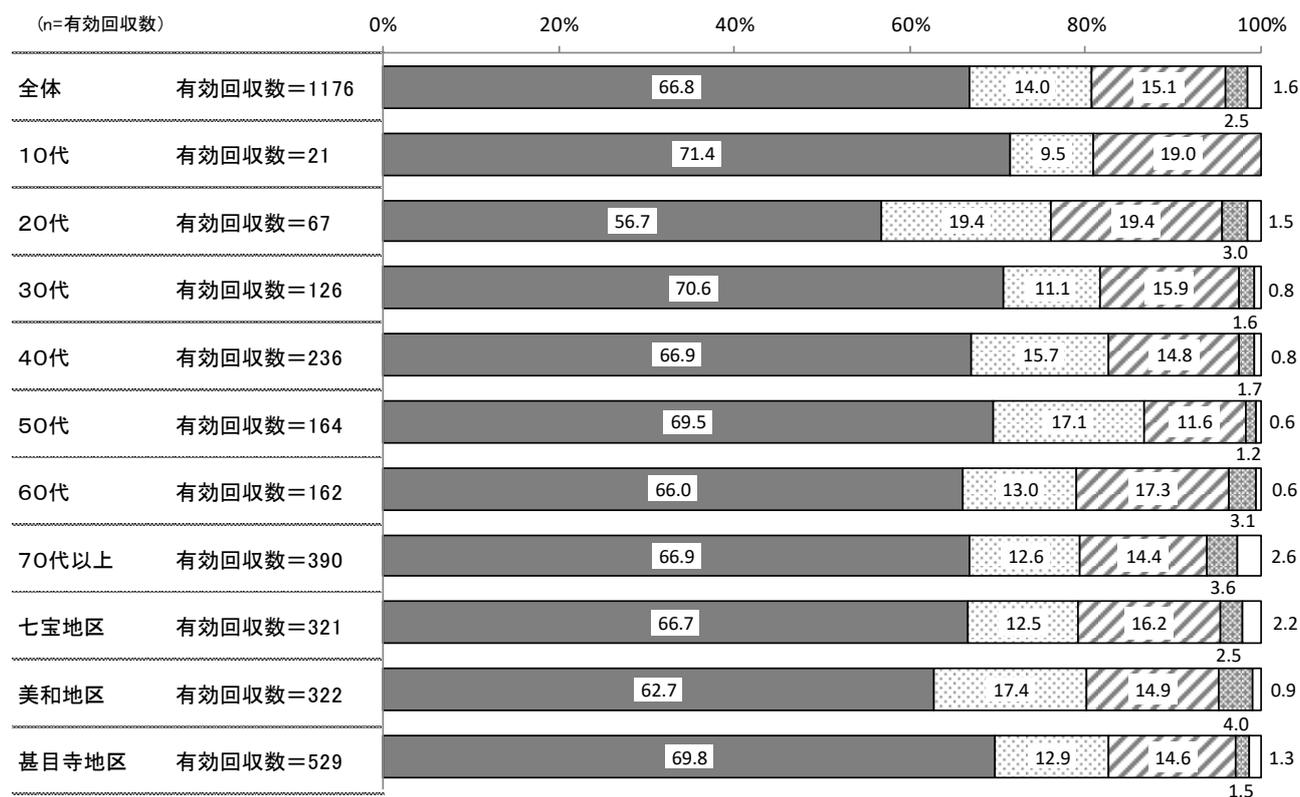
R2年度 (有効回収数=1,176)  
H28年度 (有効回収数=1,205)  
H22年度 (有効回収数=1,639)

- 気軽に利用できる小さな公園・緑地の確保や、身近な緑を積極的に確保する
- 新たな公園・緑地を確保するよりも、今ある公園・緑地を再整備する
- ▣ 小さな公園・緑地を確保するよりも、大きな公園・緑地を充実・確保する
- 今のままで十分である
- 無回答

#### (4) 河川などの整備について (〇は1つだけ)

河川などの整備については、「災害が起こらないように治水に重点を置いた河川改修、整備を行う」が 66.8%と最も多く、次いで「水質の向上に向けて、環境への配慮を最優先とした河川の整備を行う」が 15.1%、「自然環境と調和しながら、レクリエーションの場となるような親水空間として整備を行う」が 14.0%となっています。

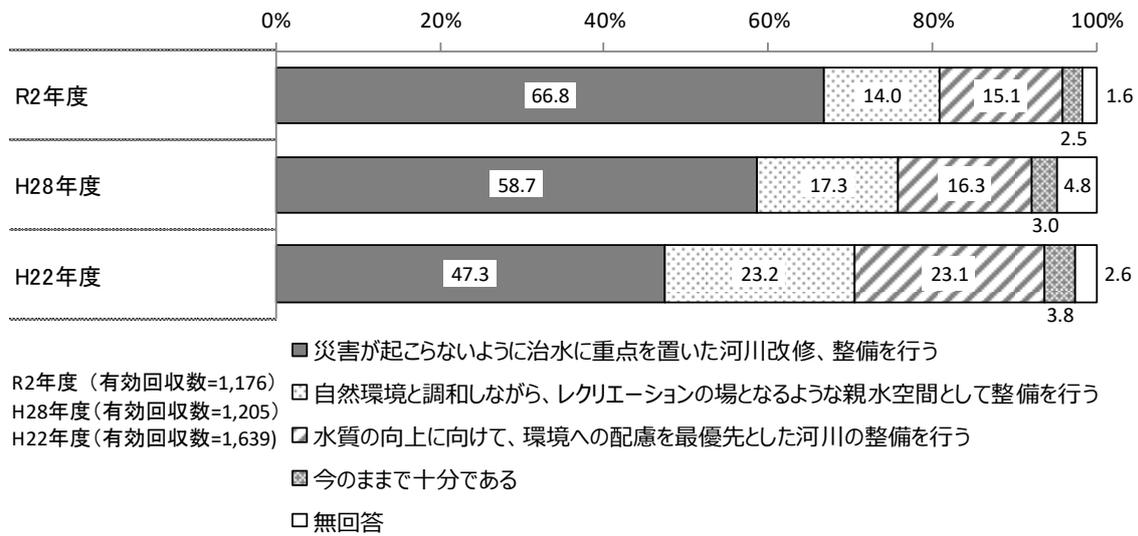
年齢別、地区別のいずれにおいても、「災害が起こらないように治水に重点を置いた河川改修、整備を行う」が最も多くなっており、特に大きな違いはみられません。



- 災害が起こらないように治水に重点を置いた河川改修、整備を行う
- 自然環境と調和しながら、レクリエーションの場となるような親水空間として整備を行う
- 水質の向上に向けて、環境への配慮を最優先とした河川の整備を行う
- 今のままで十分である
- 無回答

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は「災害が起こらないように治水に重点を置いた河川改修、整備を行う」が66.8%とH28年度に比べて8.1ポイント増加しているのに対し、「自然環境と調和しながら、レクリエーションの場となるような親水空間として整備を行う」は3.3ポイント減少しています。



R2年度（有効回収数=1,176）  
 H28年度（有効回収数=1,205）  
 H22年度（有効回収数=1,639）

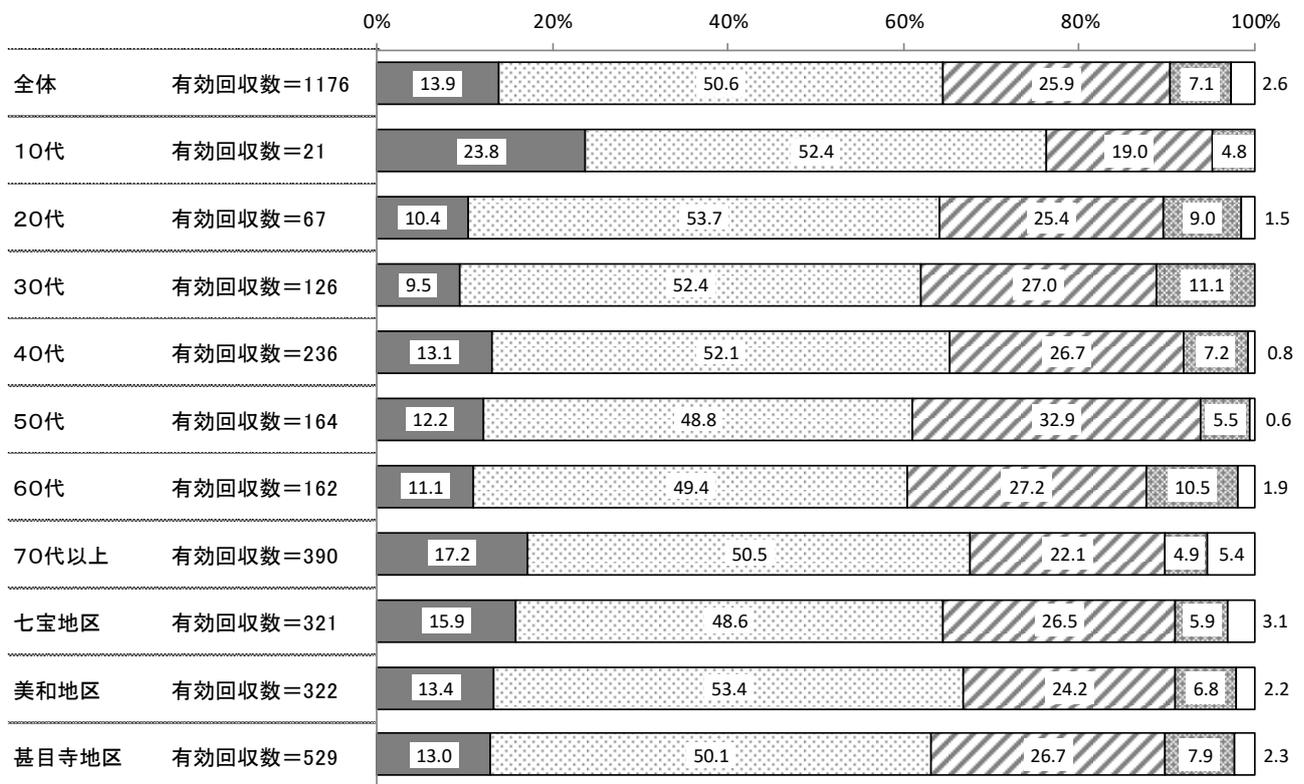
## 7 市の印象（イメージ）について

### 問 11 あま市に誇りや愛着を持っていますか。（○は1つだけ）

あま市に対する誇りや愛着を持っているかについては、「やや持っている」が50.6%と最も多く、これに「とても持っている」（13.9%）を合わせた、“愛着を持っている人”が約6割（64.5%）を占めています。一方で、“愛着持っていない人”（「持っていない」+「あまり持っていない」）は約3割（33.0%）を占めています。

年齢別では、30代、50～60代で“愛着持っていない人”が約4割を占め、他の年代に比べて高くなっています。

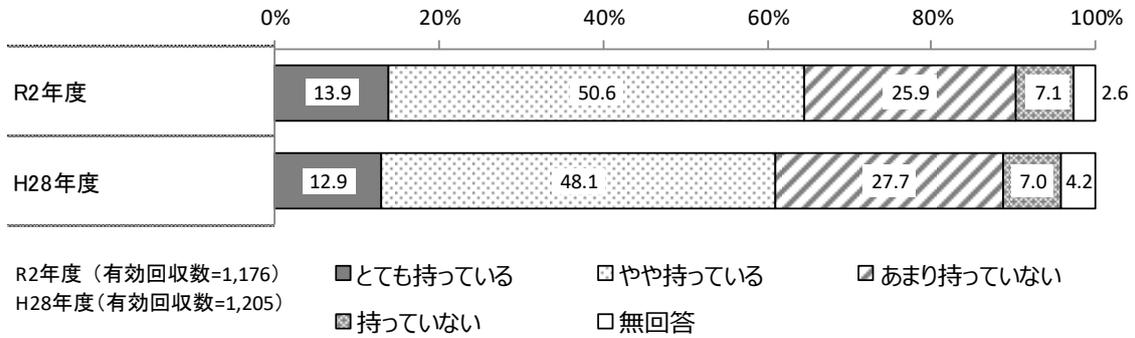
地区別では、特に大きな違いは見られません。



■とても持っている □やや持っている ▨あまり持っていない ▩持っていない □無回答

## ■平成 28 年度調査との比較

R2 年度では、あま市に“誇りや愛着を持っている人”（「とても持っている」+「やや持っている」）は 64.5%となっており、H28 年度に比べて 3.5 ポイント増加しています。



問 12 あま市の良いところとして思い浮かぶものを具体的にお答えください。  
(場所、物、店など何でも結構です。)

内容
<b>名古屋に近いなど交通の利便性について</b>
名鉄を利用して近くに行きやすい。高速の I C が近いので遠出がしやすい
名古屋や一宮に行きやすい
市街地への幹線道路へのつながりがよい
<b>自然豊かな住環境について</b>
割と静かで住みよい地域である
のんびりしている、田畑が多く稲の成長を身近に感じる
名古屋中心部から近いにもかかわらず自然が豊かで穏やかに暮らしやすい
<b>市民の雰囲気について</b>
人柄が良い人が多い
人とのつながりを大事にするところ
思いやりのある人が多いところ
<b>神社仏閣、歴史について</b>
歴史を感じる落ち着いた町
長い歴史のある所の物を大切にしていきたい
戦国武将が誕生したところで、歴史文化の豊かな点
<b>具体的な建物、名産、景観について</b>
七宝焼アートヴィレッジ、甚目寺観音
美和文化会館の図書館
人口の割には公民館、体育館等が充実している
<b>子育て環境について</b>
のどかな場所が多いので、子どもものびのびと過ごすことができる。乳幼児が遊べる場所があるので、子育てがしやすく感じる
子どもの医療費が 15 歳まで無料であること
子育て支援センターや児童館がたくさんあるところ
<b>商業施設など買い物環境について</b>
日常の買い物に便利です
ドラッグストアが増えて買い物がしやすくなった
スーパー、薬局、コンビニ等の生活環境が良い
<b>安全・安心(防犯・防災)について</b>
自然災害が起きにくいこと
防災施設等の完備
近所の見守り隊の活動が安心で助かっている
<b>お祭り、イベントについて</b>
美和文化の杜のイルミネーション
全国で唯一の香の物祭り
あまつり
<b>行政について</b>
役場のサービスセンターの人が親切
広報紙の配布が業務委託になり、今回地区の班長としてとても楽になった

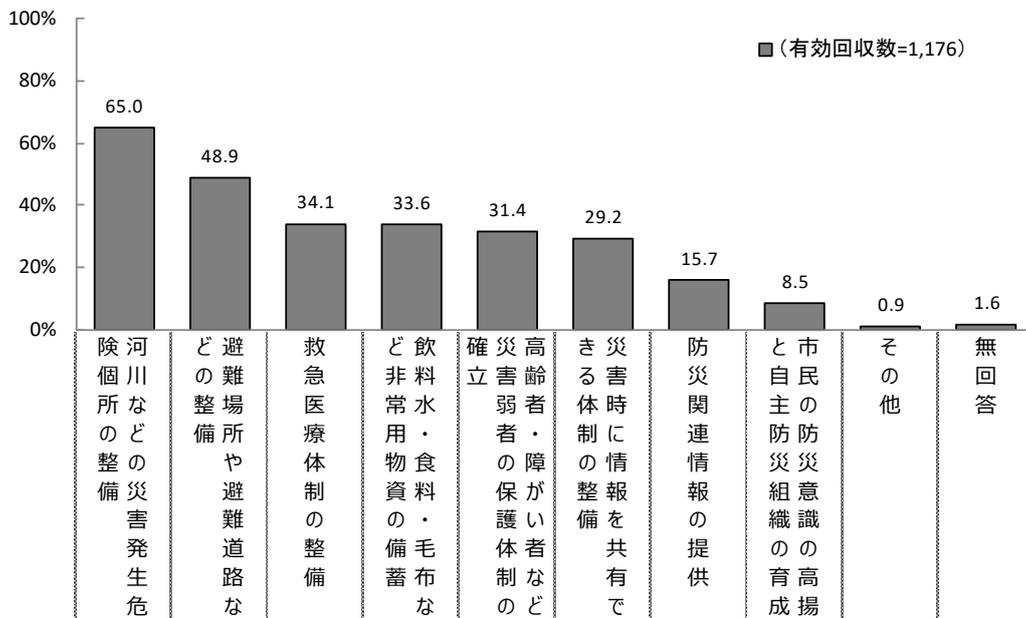
## 8 防災について

**問 13 市の防災対策について、どの項目に一層力を入れて取り組むべきだと思いますか。（主なもの3つまで○）**

市の防災対策で一層力を入れて取り組むべき項目については、「河川などの災害発生危険個所の整備」が65.0%と最も多く、次いで「避難場所や避難道路などの整備」が48.9%、「救急医療体制の整備」が34.1%、「飲料水・食料・毛布など非常用物資の備蓄」が33.6%、「高齢者・障がい者など災害弱者の保護体制の確立」が31.4%となっています。

年齢別では、10代で「災害時に情報を共有できる体制の整備」が、20代で「飲料水・食料・毛布など非常用物資の備蓄」が、30代で「避難場所や避難道路などの整備」が、他の年代に比べて多くなっています。

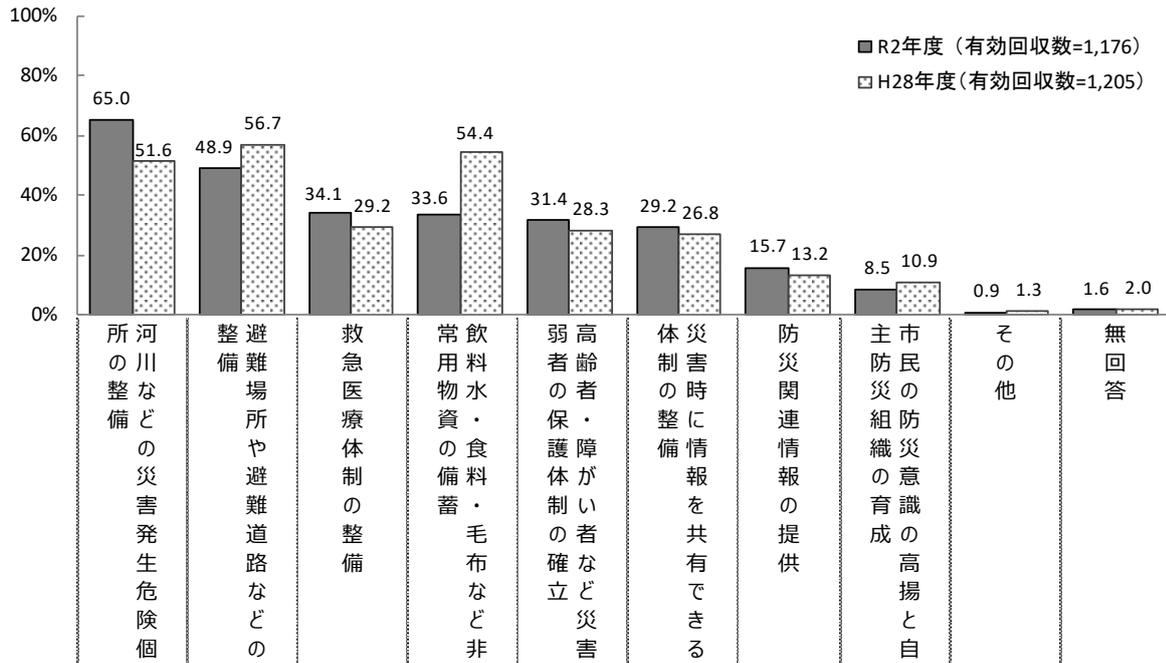
地区別では、甚目寺地区で「救急医療体制の整備」が、七宝地区で「高齢者・障がい者など災害弱者の保護体制の確立」「市民の防災意識の高揚と自主防災組織の育成」が、他の地区に比べて多くなっています。



	調査数	問13 市の防災対策で一層力を入れて取り組むべきこと										
		河川などの災害発生危険個所の整備	避難場所や避難道路などの整備	救急医療体制の整備	飲料水・食料・毛布など非常用物資の備蓄	高齢者・障がい者など災害弱者の保護体制の確立	災害時に情報を共有できる体制の整備	防災関連情報の提供	市民の防災意識の高揚と自主防災組織の育成	その他	無回答	
調査数	1176	65.0	48.9	34.1	33.6	31.4	29.2	15.7	8.5	0.9	1.6	
年齢	10代	21	57.1	42.9	9.5	42.9	9.5	61.9	9.5	19.0	-	-
	20代	67	67.2	47.8	35.8	62.7	22.4	16.4	11.9	9.0	1.5	-
	30代	126	62.7	64.3	38.1	42.9	19.0	21.4	19.0	8.7	1.6	-
	40代	236	69.1	48.7	41.9	33.5	26.3	31.4	15.7	8.9	0.4	0.8
	50代	164	64.0	50.6	38.4	36.6	32.3	32.9	13.4	5.5	1.2	0.6
	60代	162	64.8	45.7	30.9	30.9	31.5	35.2	16.7	10.5	1.2	0.6
	70代以上	390	64.4	45.4	29.5	24.9	40.5	27.4	16.7	8.2	0.5	3.1
地区	七宝地区	321	64.8	48.3	29.3	35.5	35.5	24.6	11.8	12.5	0.6	2.5
	美和地区	322	61.8	50.6	34.2	33.9	28.3	31.1	18.3	7.8	1.9	0.6
	甚目寺地区	529	67.1	48.4	37.2	32.3	30.8	30.8	16.6	6.6	0.4	1.3

## ■平成 28 年度調査との比較

市の防災対策で一層力を入れて取り組むべき項目については、R2 年度では「河川などの災害発生危険個所の整備」が 65.0%と最も多くなっており、H28 年度と比較して 13.4 ポイント増加しています。それに対し、「飲料水・食料・毛布など非常用物資の備蓄」や「避難場所や避難道路などの整備」は、それぞれ 20.8 ポイント、7.8 ポイント減少しています。



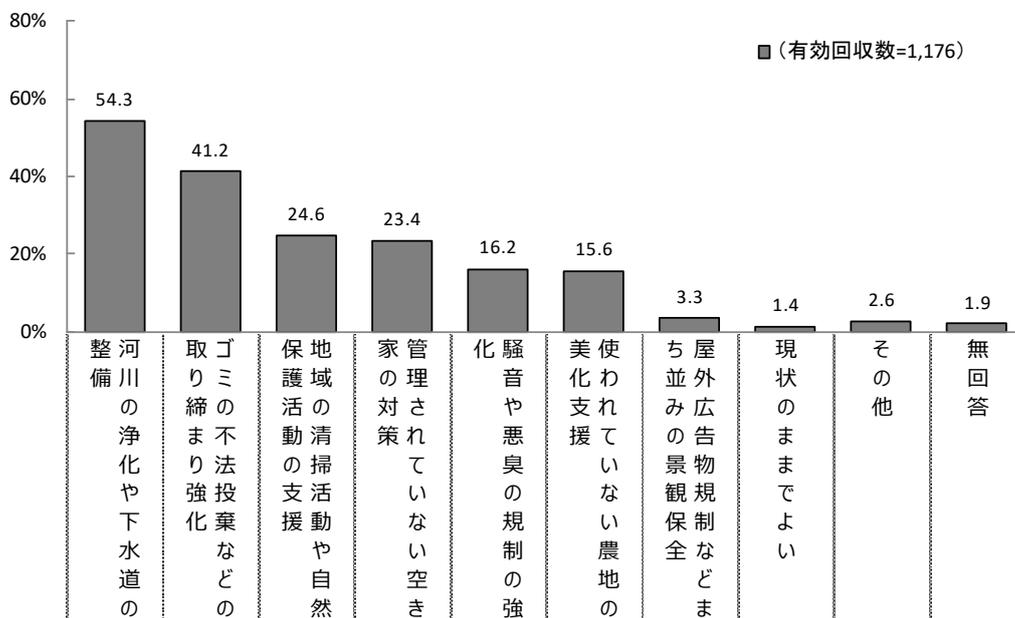
## 9 生活環境について

### 問 14 地域の自然環境や生活環境を美しくするため、どの項目に一層力を入れて取り組むべきだと思いますか。(主なもの2つまで○)

地域の自然環境や生活環境を美しくするために一層力を入れて取り組むべき項目については、「河川の浄化や下水道の整備」が 54.3%と最も多く、次いで「ゴミの不法投棄などの取り締まり強化」が 41.2%、「地域の清掃活動や自然保護活動の支援」が 24.6%、「管理されていない空き家の対策」が 23.4%となっています。

年齢別では、いずれの年代においても「河川の浄化や下水道の整備」が最も多く、特に 40 代以上では 5 割を超えています。また、10 代で「騒音や悪臭の規制の強化」が、10 代、30~40 代で「管理されていない空き家の対策」が、他の年代に比べて多くなっています。

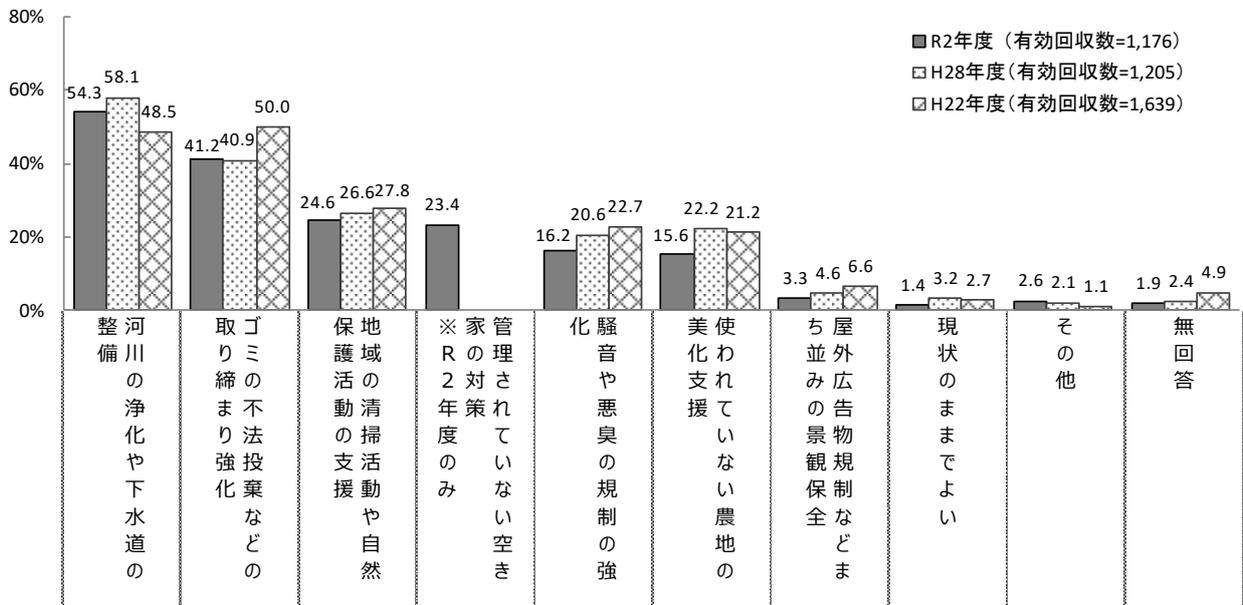
地区別では、美和地区で「管理されていない空き家の対策」が、他の地区に比べて多くなっています。



	調査数	問14 地域の自然環境や生活環境を美しくするために、一層力を入れて取り組むべきこと										
		河川の浄化や下水道の整備	ゴミの不法投棄などの取り締まり強化	地域の清掃活動や自然保護活動の支援	管理されていない空き家の対策	騒音や悪臭の規制の強化	使われていない農地の美化支援	屋外広告物規制などまち並みの景観保全	現状のままでよい	その他	無回答	
調査数	1176	54.3	41.2	24.6	23.4	16.2	15.6	3.3	1.4	2.6	1.9	
年齢	10代	21	42.9	23.8	19.0	33.3	28.6	19.0	4.8	-	9.5	-
	20代	67	49.3	47.8	29.9	16.4	20.9	11.9	4.5	1.5	4.5	-
	30代	126	42.1	35.7	20.6	38.1	22.2	16.7	7.1	3.2	1.6	0.8
	40代	236	54.7	37.7	19.9	30.1	14.8	18.2	4.7	1.7	5.5	0.8
	50代	164	54.3	42.1	25.6	24.4	19.5	12.2	1.8	1.8	2.4	1.2
	60代	162	57.4	48.8	28.4	17.3	16.0	14.2	1.2	1.2	2.5	0.6
	70代以上	390	58.7	41.5	26.4	17.7	12.1	16.4	2.6	0.5	0.5	3.3
地区	七宝地区	321	54.8	41.4	28.0	20.2	13.4	16.8	2.8	1.2	2.8	2.2
	美和地区	322	50.0	37.9	23.0	30.7	13.0	19.6	3.7	1.6	2.2	1.2
	菟目寺地区	529	56.7	43.3	23.4	21.0	19.8	12.5	3.4	1.3	2.6	1.7

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は H28 年度より割合が大きく増加した項目はみられませんでした。その一方で「使われていない農地の美化支援」「騒音や悪臭の規制の強化」「河川の浄化や下水道の整備」などが、それぞれ 6.6 ポイント、4.4 ポイント、3.8 ポイント減少しています。



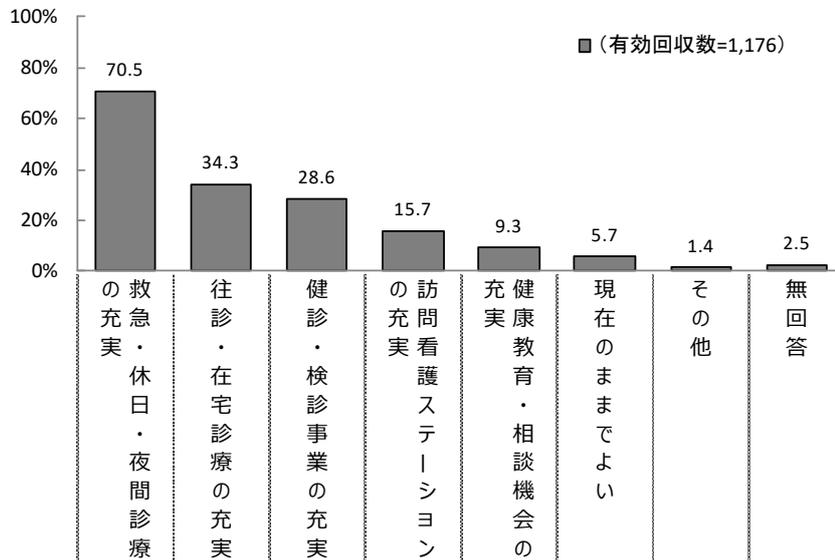
## 10 健康、保健、医療、福祉について

**問 15 保健・医療対策について、どの項目に一層力を入れて取り組むべきだと思いますか。（主なもの2つまで○）**

保健・医療対策で一層力を入れて取り組むべき項目については、「救急・休日・夜間診療の充実」が 70.5%と最も多く、次いで「往診・在宅診療の充実」が 34.3%、「健診・検診事業の充実」が 28.6%となっています。

年齢別では、いずれの年代においても「救急・休日・夜間診療の充実」が最も多く、特に30代では8割を超えています。また、30代で「健診・検診事業の充実」が、70代以上で「往診・在宅診療の充実」「訪問看護ステーションの充実」が、他の年代に比べて多くなっています。

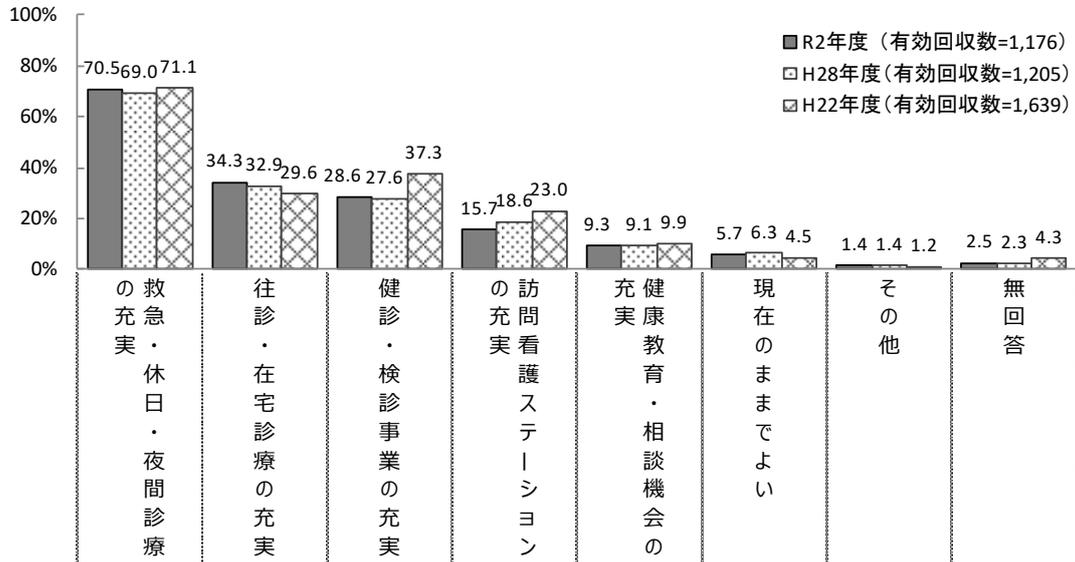
地区別では、いずれにおいても、「救急・休日・夜間診療の充実」が最も多くなっており、特に大きな違いはみられません。



		調査数	問15 保健・医療対策について、一層力を入れて取り組むべきこと							
			救急・休日・夜間診療の充実	往診・在宅診療の充実	健診・検診事業の充実	訪問看護ステーションの充実	健康教育・相談機会の充実	現在のままでよい	その他	無回答
調査数		1176	70.5	34.3	28.6	15.7	9.3	5.7	1.4	2.5
年齢	10代	21	66.7	23.8	33.3	-	9.5	19.0	-	-
	20代	67	70.1	19.4	31.3	4.5	17.9	10.4	1.5	4.5
	30代	126	83.3	19.8	46.0	7.1	6.3	6.3	1.6	-
	40代	236	75.4	31.4	36.4	10.2	5.9	4.7	2.5	1.3
	50代	164	76.2	32.3	25.0	12.8	12.2	6.7	1.2	0.6
	60代	162	72.2	31.5	29.0	18.5	10.5	6.2	1.9	1.2
	70代以上	390	61.3	45.6	18.7	24.9	9.2	3.8	0.5	4.6
地区	七宝地区	321	67.6	35.8	28.3	16.8	7.8	7.8	1.9	1.9
	美和地区	322	71.1	30.4	31.4	16.8	9.6	5.0	1.2	1.9
	基目寺地区	529	72.0	35.9	27.2	14.4	10.0	4.9	1.1	2.8

■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は「訪問看護ステーションの充実」が 15.7%と H28 年度に比べて 2.9 ポイント減少しています。

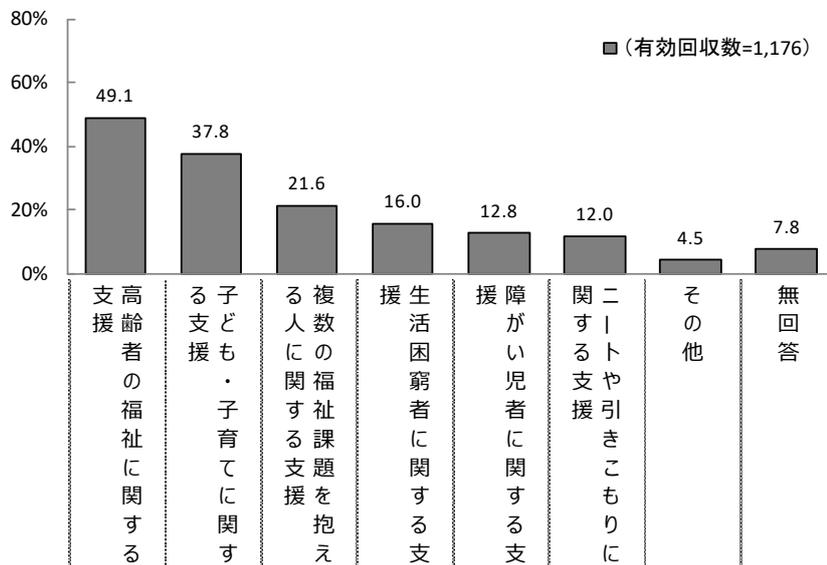


**問 16 福祉対策について、特に支援が不足していると感じるものは何ですか。**  
(主なもの2つまで〇)

福祉対策で、特に支援が不足していると感じるものについては、「高齢者の福祉に関する支援」が 49.1%と最も多く、次いで「子ども・子育てに関する支援」が 37.8%、「複数の福祉課題を抱える人に関する支援」が 21.6%となっています。

年齢別では、10～40代で「子ども・子育てに関する支援」が、50代以上で「高齢者の福祉に関する支援」が最も多くなっています。また、10代で「障がい児者に関する支援」が、10～20代で「複数の福祉課題を抱える人に関する支援」が、他の年代に比べて多くなっています。

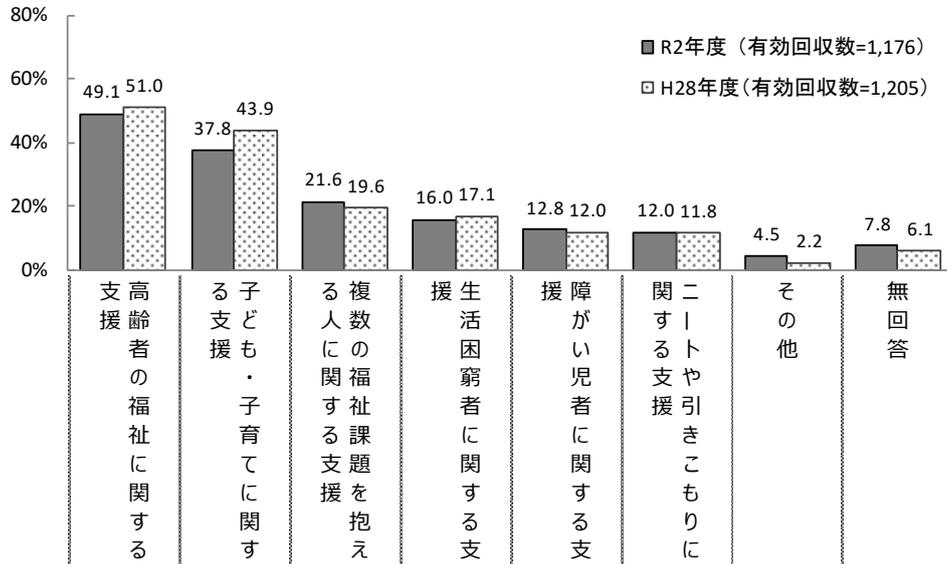
地区別では、七宝地区で「複数の福祉課題を抱える人に関する支援」が、他の地区に比べて多くなっています。



		調査数	問16 福祉対策で特に支援が不足していると感じるもの							無回答
			高齢者の福祉に関する支援	子ども・子育てに関する支援	複数の福祉課題を抱える人に関する支援	生活困窮者に関する支援	障がい児者に関する支援	二つ以上の支援	その他	
調査数		1176	49.1	37.8	21.6	16.0	12.8	12.0	4.5	7.8
年齢	10代	21	9.5	61.9	33.3	-	28.6	4.8	9.5	4.8
	20代	67	31.3	41.8	31.3	13.4	13.4	14.9	4.5	11.9
	30代	126	31.7	60.3	17.5	7.9	12.7	11.1	7.1	6.3
	40代	236	41.1	50.4	17.8	15.3	15.3	10.6	6.8	5.1
	50代	164	51.2	35.4	23.2	15.2	10.4	14.6	6.7	6.7
	60代	162	58.0	30.2	24.7	19.1	8.0	14.8	2.5	8.0
	70代以上	390	60.0	25.1	21.5	19.5	12.8	11.0	2.1	9.5
地区	七宝地区	321	47.4	38.0	24.9	16.5	12.1	11.2	4.4	7.8
	美和地区	322	50.0	41.0	18.3	14.9	14.3	13.0	4.3	7.8
	榎目寺地区	529	50.1	35.9	21.7	16.4	12.3	11.9	4.7	7.2

■平成 28 年度調査との比較

R2年度は「子ども・子育てに関する支援」が 37.8%と H28 年度に比べて 6.1 ポイント減少しています。



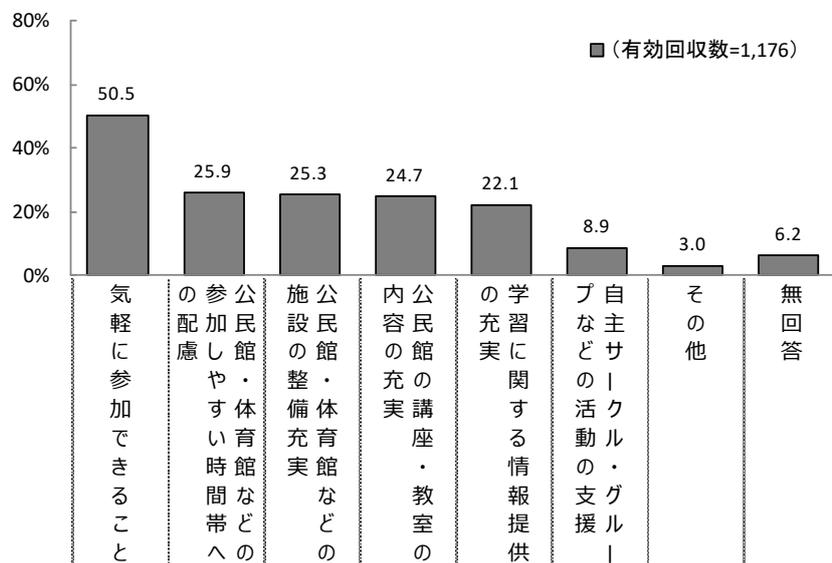
11 生涯学習、教育環境について

**問 17 生涯学習活動、スポーツ活動について、どの項目に今後一層力を入れて取り組むべきだと思いますか。(主なもの2つまで○)**

生涯学習活動、スポーツ活動で一層力を入れて取り組むべき項目については、「気軽に参加できること」が50.5%と最も多く、次いで「公民館・体育館などの参加しやすい時間帯への配慮」が25.9%、「公民館・体育館などの施設の整備充実」が25.3%、「公民館の講座・教室の内容の充実」が24.7%、「学習に関する情報提供の充実」が22.1%となっています。

年齢別では、10代で「公民館・体育館などの参加しやすい時間帯への配慮」「自主サークル・グループなどの活動の支援」が、10～20代で「公民館・体育館などの施設の整備充実」が、他の年代に比べて多くなっています。

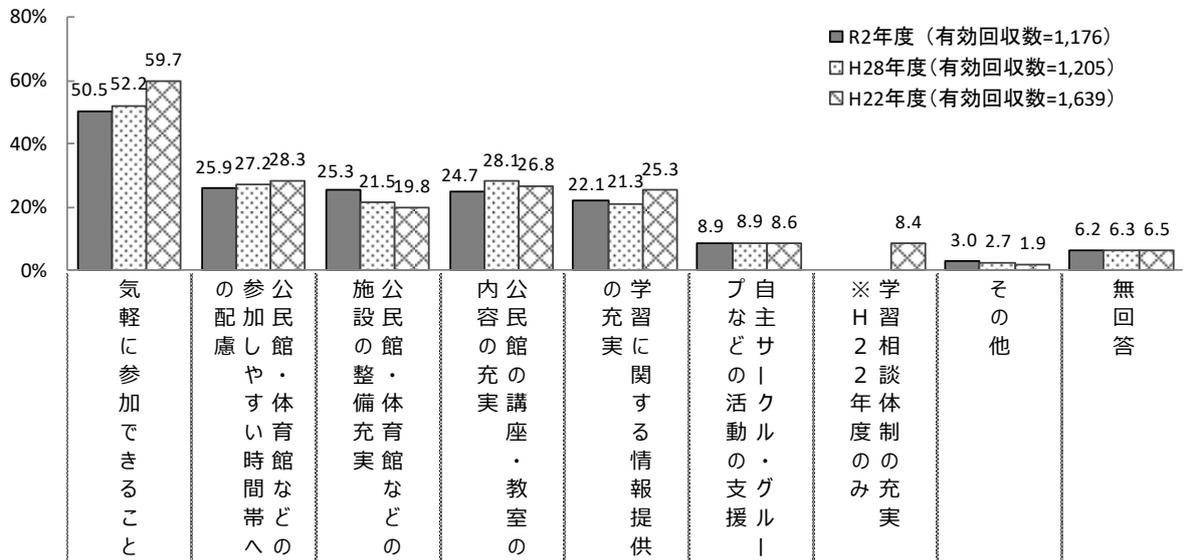
地区別では、七宝地区で「公民館・体育館などの施設の整備充実」が、他の地区に比べて多くなっています。



		調査数	問17 生涯学習活動・スポーツ活動について、一層力を入れて取り組むべきこと							無回答
			気軽に参加できること	公民館・体育館などの参加しやすい時間帯への配慮	公民館・体育館などの施設の整備充実	公民館の講座・教室の内容の充実	学習に関する情報提供の充実	自主サークル・グループなどの活動の支援	その他	
調査数		1176	50.5	25.9	25.3	24.7	22.1	8.9	3.0	6.2
年齢	10代	21	52.4	47.6	42.9	9.5	4.8	23.8	-	-
	20代	67	55.2	31.3	41.8	17.9	13.4	4.5	1.5	4.5
	30代	126	45.2	23.8	32.5	23.8	27.8	9.5	4.0	2.4
	40代	236	50.0	25.8	27.5	27.1	20.8	8.9	4.2	2.5
	50代	164	48.8	25.6	23.2	28.0	24.4	9.1	3.7	2.4
	60代	162	55.6	17.9	25.3	25.3	24.1	10.5	2.5	8.0
	70代以上	390	50.5	27.9	19.5	24.4	22.1	7.9	2.3	10.3
地区	七宝地区	321	50.5	29.0	30.2	21.8	21.2	10.0	2.8	5.0
	美和地区	322	50.6	21.7	26.4	26.4	19.3	8.7	2.8	8.1
	基目寺地区	529	50.7	26.7	21.9	25.5	24.4	8.5	3.2	5.5

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2 年度は「公民館・体育館などの施設の整備充実」が 25.3%と H28 年度に比べて 3.8 ポイント増加しているのに対し、「公民館の講座・教室の内容の充実」は 3.4 ポイント減少しています。

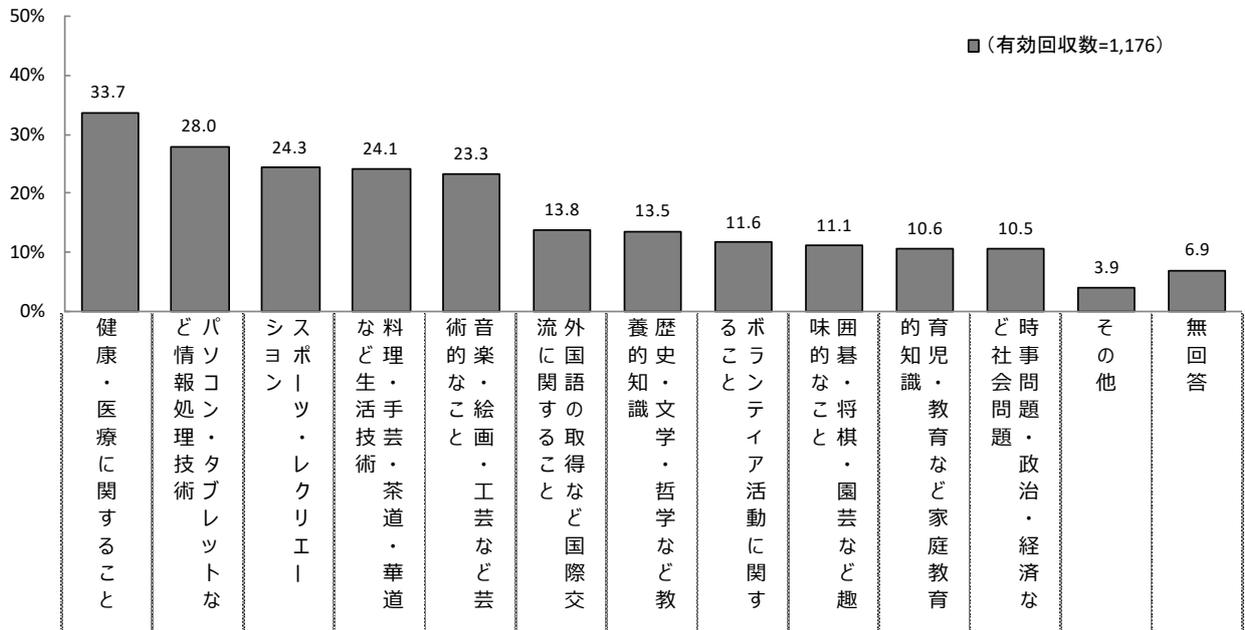


**問 18 現在どのようなことを特に学んだり、参加してみたいと思われませんか。  
(あてはまるものすべてに○)**

現在、学んだり、参加してみたいと思うものについては、「健康・医療に関すること」が 33.7%と最も多く、次いで「パソコン・タブレットなど情報処理技術」が 28.0%、「スポーツ・レクリエーション」が 24.3%、「料理・手芸・茶道・華道など生活技術」が 24.1%、「音楽・絵画・工芸など芸術的なこと」が 23.3%となっています。

年齢別では、10~40 代の若年層で「スポーツ・レクリエーション」が、年齢とともに「健康・医療に関すること」が多くなっています。また、50 代で「音楽・絵画・工芸など芸術的なこと」が、10 代や 60 代で「パソコン・タブレットなど情報処理技術」が、10~20 代で「料理・手芸・茶道・華道など生活技術」が、30 代で「育児・教育など家庭教育的知識」が、他の年代に比べて多くなっています。

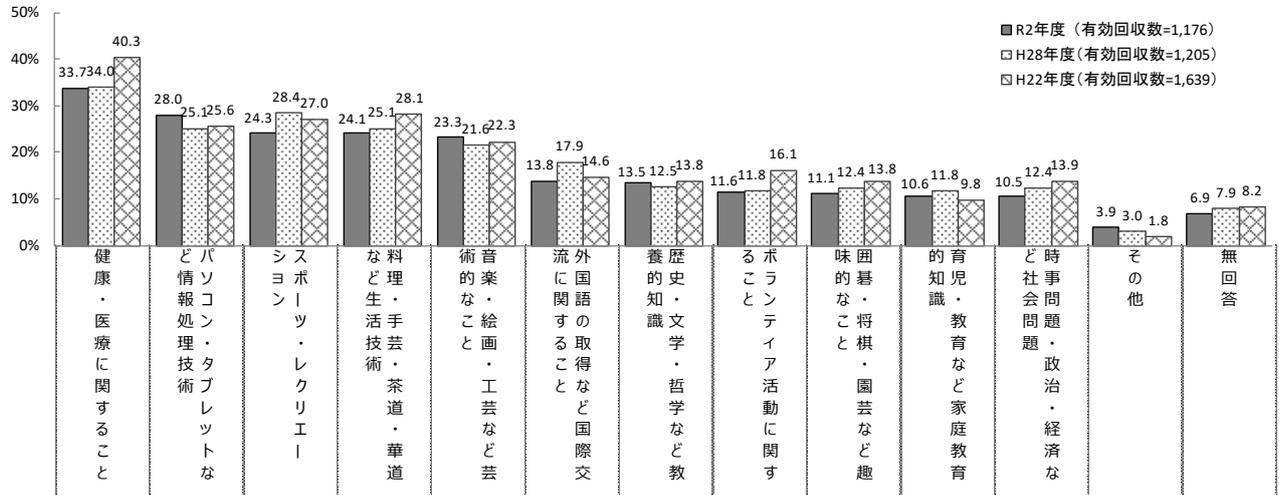
地区別では、七宝地区で「パソコン・タブレットなど情報処理技術」が、他の地区に比べて多くなっています。



	調査数	問18 現在、学んだり参加してみたいと思う活動													
		健康・医療に関すること	パソコン・タブレットなど情報処理技術	スポーツ・レクリエーション	料理・手芸・茶道・華道など生活技術	音楽・絵画・工芸など芸術的なこと	外国語の取得など国際交流に関すること	歴史・文学・哲学など教育的知識	ボランティア活動に関すること	囲碁・将棋・園芸など趣味的なこと	育児・教育など家庭教育的知識	時事問題・政治・経済など社会問題	その他	無回答	
調査数	1176	33.7	28.0	24.3	24.1	23.3	13.8	13.5	11.6	11.1	10.6	10.5	3.9	6.9	
年齢	10代	21	9.5	38.1	52.4	42.9	28.6	33.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	-	
	20代	67	20.9	25.4	31.3	34.3	25.4	22.4	10.4	9.0	9.0	16.4	6.0	6.0	
	30代	126	24.6	23.8	30.2	29.4	24.6	27.0	8.7	9.5	4.0	33.3	9.5	7.9	
	40代	236	30.5	27.5	34.7	25.4	24.6	19.5	10.6	14.0	6.4	19.5	11.9	3.0	
	50代	164	31.1	34.1	23.8	30.5	34.8	17.7	13.4	11.6	11.0	3.7	5.5	3.0	
	60代	162	32.7	38.9	21.0	22.2	24.1	13.0	19.1	12.3	11.7	4.3	9.9	1.2	
	70代以上	390	44.1	22.8	15.6	17.4	16.4	2.3	14.9	10.8	16.4	2.3	12.8	4.4	
地区	七宝地区	321	33.0	33.0	25.5	25.9	24.0	11.8	13.7	14.0	14.0	10.3	11.8	5.3	
	美和地区	322	31.1	25.5	23.9	25.2	27.6	15.8	13.7	11.5	9.6	9.0	7.8	4.0	
	菟目寺地区	529	35.9	26.7	24.0	22.5	20.2	13.8	13.2	10.4	10.4	11.9	11.3	3.0	

## ■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は「外国語の取得など国際交流に関すること」「スポーツ・レクリエーション」が H28 年度に比べて 4.1 ポイント減少しています。



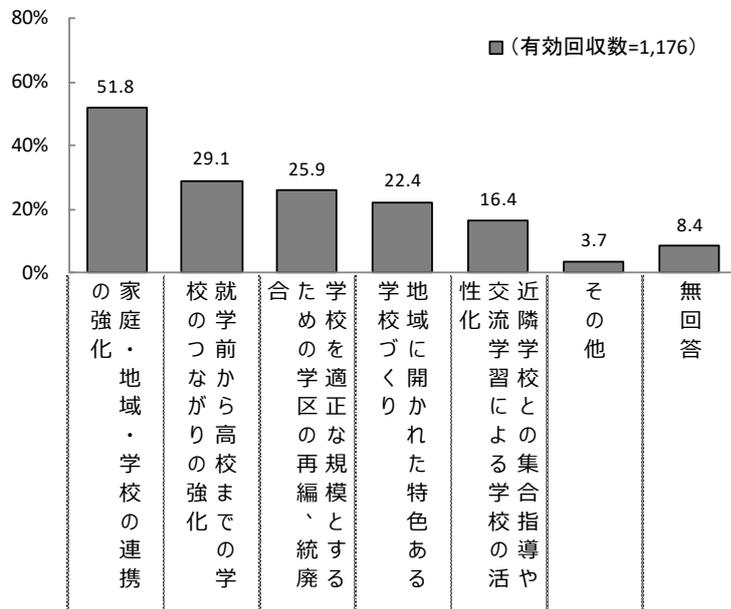
問 19 学校について、特にどのようなことが必要だと思いますか。

(主なもの2つまで〇)

学校で必要なことについては、「家庭・地域・学校の連携の強化」が 51.8%と最も多く、次いで「就学前から高校までの学校のつながりの強化」が 29.1%、「学校を適正な規模とするための学区の再編、統廃合」が 25.9% となっています。

年齢別では、10代で「就学前から高校までの学校のつながりの強化」が、20代以上で「家庭・地域・学校の連携の強化」が最も多くなっています。また、50代で「学校を適正な規模とするための学区の再編、統廃合」が、他の年代に比べて多くなっています。

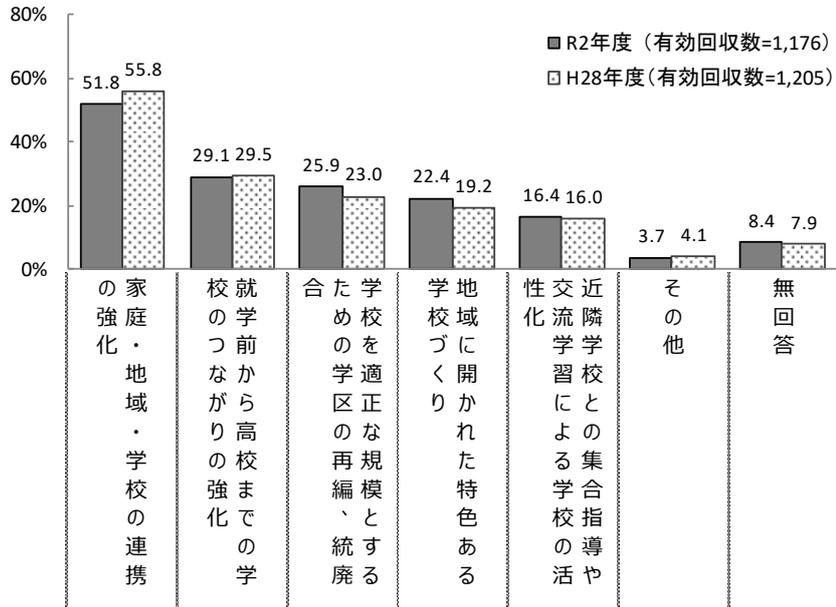
地区別では、七宝地区で「学校を適正な規模とするための学区の再編、統廃合」が、他の地区に比べて多くなっています。



		調査数	問19 学校について、特に必要なこと						
			家庭・地域・学校の連携の強化	就学前から高校までの学校のつながりの強化	学校を適正な規模とするための学区の再編、統廃合	地域に開かれた特色ある学校づくり	近隣学校との集合指導や交流学習による学校の活性化	その他	無回答
調査数		1176	51.8	29.1	25.9	22.4	16.4	3.7	8.4
年齢	10代	21	33.3	47.6	28.6	28.6	28.6	-	-
	20代	67	62.7	37.3	16.4	23.9	19.4	6.0	3.0
	30代	126	53.2	37.3	27.0	20.6	15.9	6.3	3.2
	40代	236	54.7	33.5	26.3	18.6	19.5	4.2	2.5
	50代	164	52.4	25.6	34.8	22.0	9.8	3.0	5.5
	60代	162	50.6	24.1	28.4	26.5	16.0	4.3	8.0
	70代以上	390	49.2	24.9	22.3	23.6	16.4	2.3	15.9
地区	七宝地区	321	52.6	28.7	31.5	23.4	14.6	4.0	6.9
	美和地区	322	48.4	29.5	27.0	20.5	18.3	4.0	9.9
	菟目寺地区	529	53.3	29.1	22.1	23.1	16.4	3.2	8.1

## ■平成 28 年度調査との比較

R2年度は「地域に開かれた特色ある学校づくり」が22.4%とH28年度に比べて3.2ポイント増加しているのに対し、「家庭・地域・学校の連携の強化」は4.0ポイント減少しています。



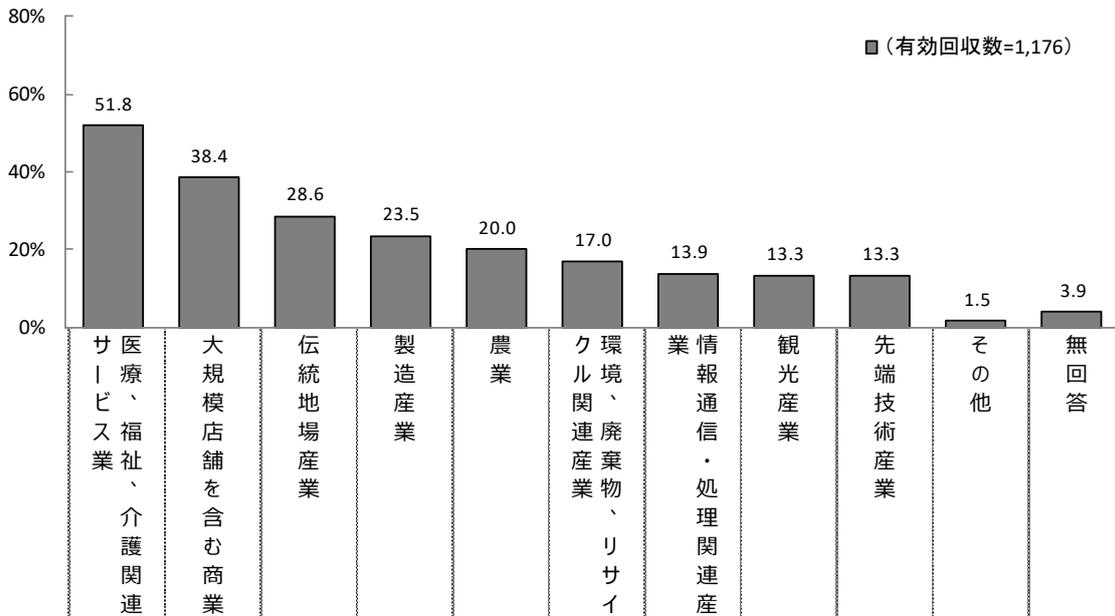
## 12 産業振興について

**問 20 これからのあま市は特にどのような産業を伸ばす必要があると思いますか。  
(主なもの3つまで○)**

これからのあま市で産業を伸ばすために必要なものについては、「医療、福祉、介護関連サービス業」が51.8%と最も多く、次いで「大規模店舗を含む商業」が38.4%、「伝統地場産業」が28.6%、「製造産業」が23.5%となっています。

年齢別では、10代で「大規模店舗を含む商業」が、20代以上で「医療、福祉、介護関連サービス業」が最も多くなっています。また、10~20代で「情報通信・処理関連産業」が、40代で「伝統地場産業」が、他の年代に比べて多くなっています。

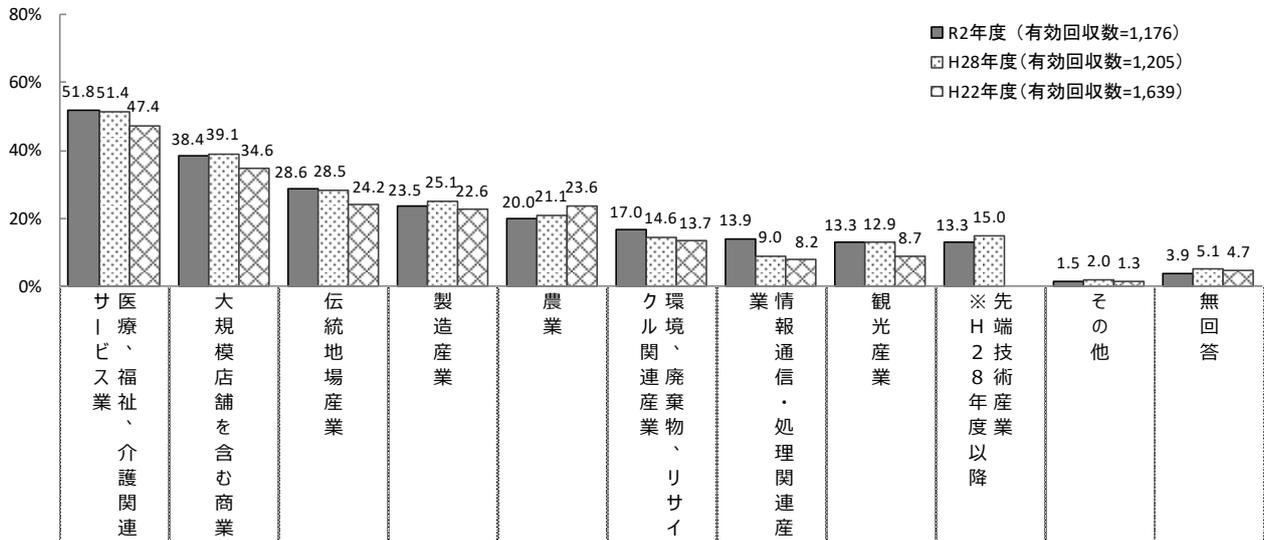
地区別では、七宝地区で「伝統地場産業」が、他の地区に比べて多くなっています。



		問20 これからあま市で伸ばすべき産業について											
		調査数	医療、福祉、介護関連サービス業	大規模店舗を含む商業	伝統地場産業	製造産業	農業	環境、廃棄物、リサイクル関連産業	情報通信・処理関連産業	観光産業	先端技術産業	その他	無回答
調査数		1176	51.8	38.4	28.6	23.5	20.0	17.0	13.9	13.3	13.3	1.5	3.9
年齢	10代	21	23.8	52.4	23.8	23.8	23.8	14.3	23.8	33.3	-	4.8	-
	20代	67	47.8	40.3	17.9	23.9	20.9	17.9	20.9	20.9	19.4	-	4.5
	30代	126	55.6	46.0	25.4	23.0	23.8	15.9	11.9	13.5	7.1	2.4	1.6
	40代	236	50.0	43.2	35.2	21.2	19.1	15.3	13.1	15.7	16.9	2.1	1.3
	50代	164	53.0	36.0	28.0	27.4	20.1	15.2	13.4	14.6	9.1	1.2	2.4
	60代	162	46.3	39.5	28.4	21.0	21.0	21.6	19.8	8.6	13.0	1.9	3.7
	70代以上	390	55.1	33.1	28.5	24.1	18.5	17.2	11.3	11.0	14.9	1.0	6.7
地区	七宝地区	321	51.7	37.4	38.9	23.4	18.7	17.1	12.1	14.6	14.6	0.9	2.8
	美和地区	322	46.6	42.9	24.5	23.6	23.0	16.5	12.4	10.2	12.7	2.5	4.7
	碓目寺地区	529	55.0	36.7	25.0	23.6	19.1	17.4	15.9	14.4	12.9	1.3	3.8

■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は「情報通信・処理関連産業」が 13.9%と H28 年度に比べて 4.9 ポイント増加しています。

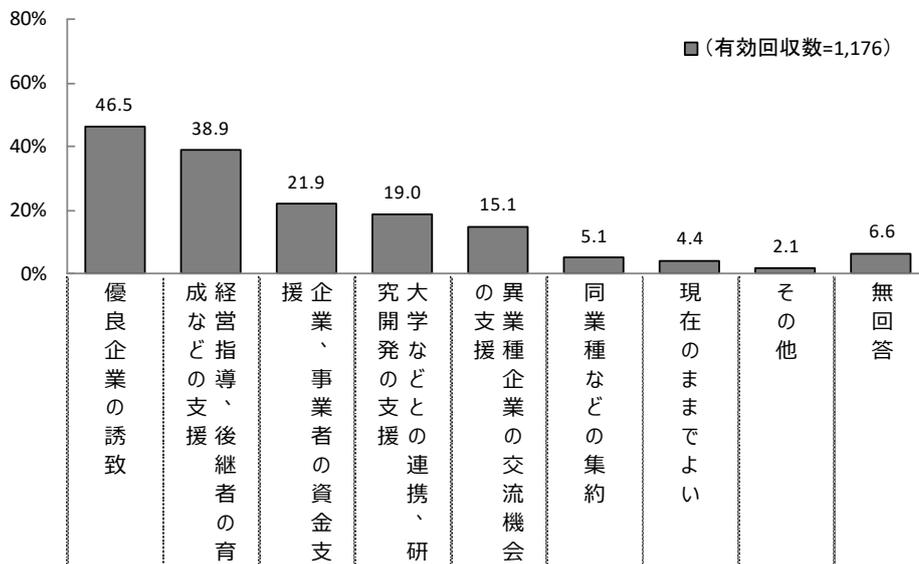


**問 21 産業を振興するために、特にどんなところに力を入れる必要があると思いますか。(主なもの2つまで○)**

産業を振興するために、力を入れる必要があるものについては、「優良企業の誘致」が 46.5%と最も多く、次いで「経営指導、後継者の育成などの支援」が 38.9%、「企業、事業者の資金支援」が 21.9%となっています。

年齢別では、いずれの年代においても「優良企業の誘致」が最も多くなっています。また、10代で「大学などの連携、研究開発の支援」「異業種企業の交流機会の支援」「同業種などの集約」が、他の年代に比べて多くなっています。

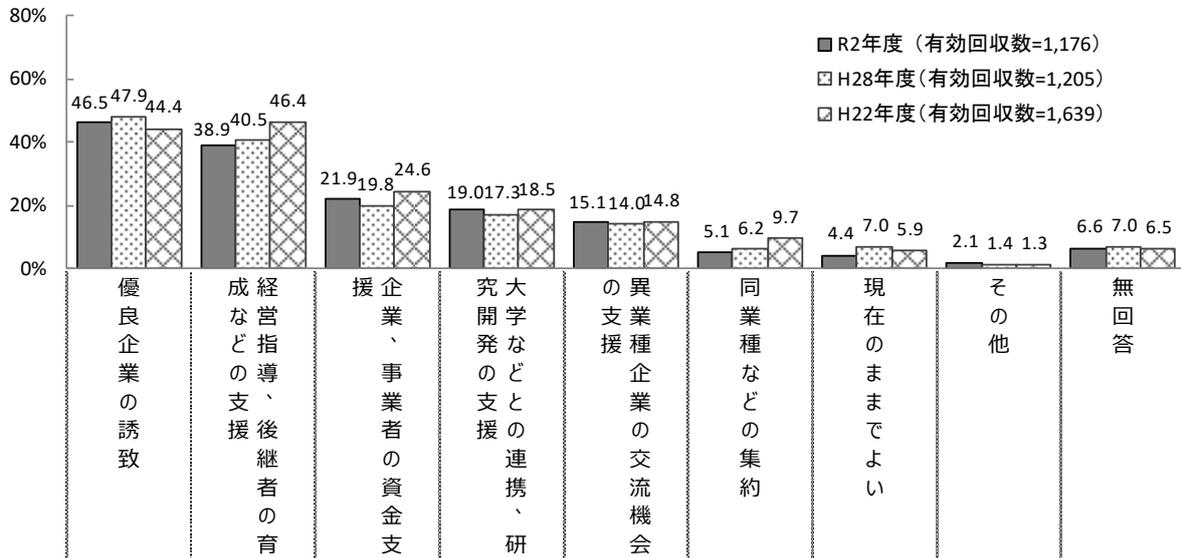
地区別では、七宝地区で「経営指導、後継者の育成などの支援」が、他の地区に比べて多くなっています。



	調査数	問21 産業を振興するために力を入れる必要があるところ									
		優良企業の誘致	経営指導、後継者の育成などの支援	企業、事業者の資金支援	大学などの連携、研究開発の支援	異業種企業の交流機会の支援	同業種などの集約	現在のままでよい	その他	無回答	
調査数	1176	46.5	38.9	21.9	19.0	15.1	5.1	4.4	2.1	6.6	
年齢	10代	21	33.3	23.8	14.3	33.3	33.3	14.3	9.5	-	-
	20代	67	47.8	35.8	22.4	22.4	11.9	6.0	11.9	1.5	3.0
	30代	126	43.7	36.5	33.3	19.8	15.9	3.2	4.8	3.2	4.8
	40代	236	46.6	37.3	22.0	25.0	14.8	6.4	3.0	2.1	3.4
	50代	164	46.3	39.6	25.0	21.3	14.0	4.3	3.0	1.8	3.7
	60代	162	45.7	39.5	21.0	14.2	19.8	5.6	7.4	2.5	5.6
	70代以上	390	48.5	41.3	17.2	15.1	13.6	4.6	3.1	2.1	11.3
地区	七宝地区	321	46.4	43.0	22.4	18.4	17.1	4.0	4.4	2.5	5.3
	美和地区	322	48.4	36.3	22.0	18.6	14.3	4.7	5.0	2.8	5.9
	曇目寺地区	529	45.6	38.2	21.6	19.8	14.4	6.0	4.2	1.5	7.6

■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2 年度は「企業、事業者の資金支援」が 21.9%と H28 年度に比べて 2.1 ポイント増加しているのに対し、「現在のままでよい」は 2.6 ポイント減少しています。



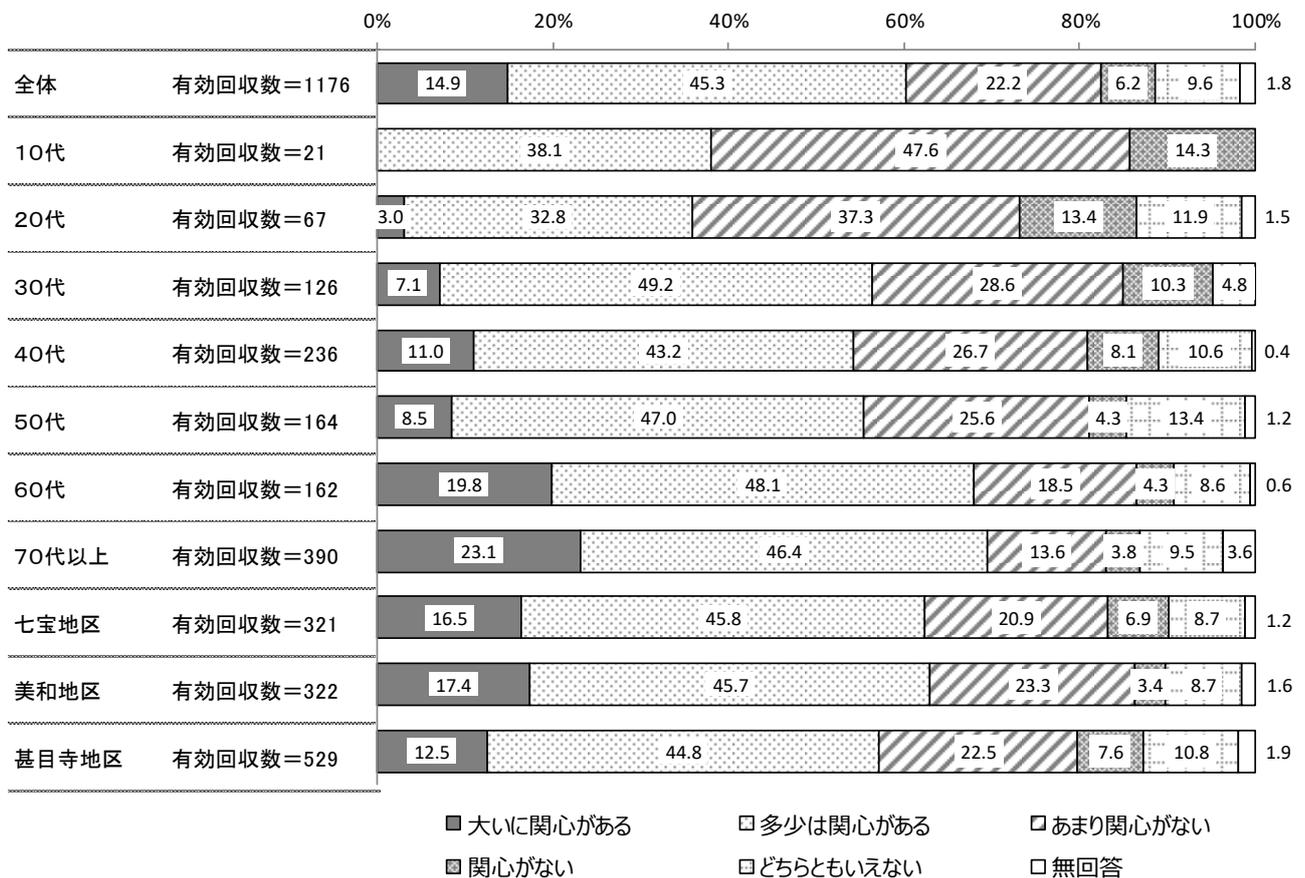
### 13 市政、行財政について

**問 22 市政について、どの程度の関心をお持ちですか。(〇は1つだけ)**

市政への関心については、「多少は関心がある」が 45.3%と最も多く、これに「大いに関心がある」(14.9%)を合わせた、“関心がある人”が約 6 割 (60.2%)を占めています。一方で、“関心がない人”(「関心がない」+「あまり関心がない」)は約 3 割 (28.4%)を占めています。

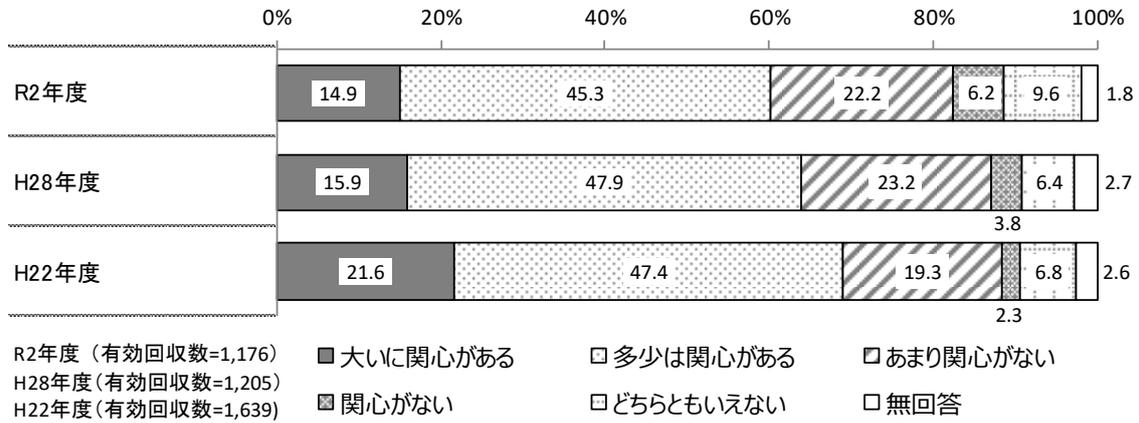
年齢別では、“関心がある人”は年齢とともに高くなっており、60代以上で6割を超えています。一方で、“関心がない人”は10~20代で高く5割を超えています。

地区別では、七宝地区や美和地区で“関心がある人”は6割を超えているのに対し、甚目寺地区で57.3%と低くなっています。



■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2 年度では、“市政に関心がある人”（「大いに関心がある」+「多少は関心がある」）は 60.2%となっており、H28 年度に比べて 3.6 ポイント減少しています。また、H22 年度からの 10 年間では 8.8 ポイント減少しています。

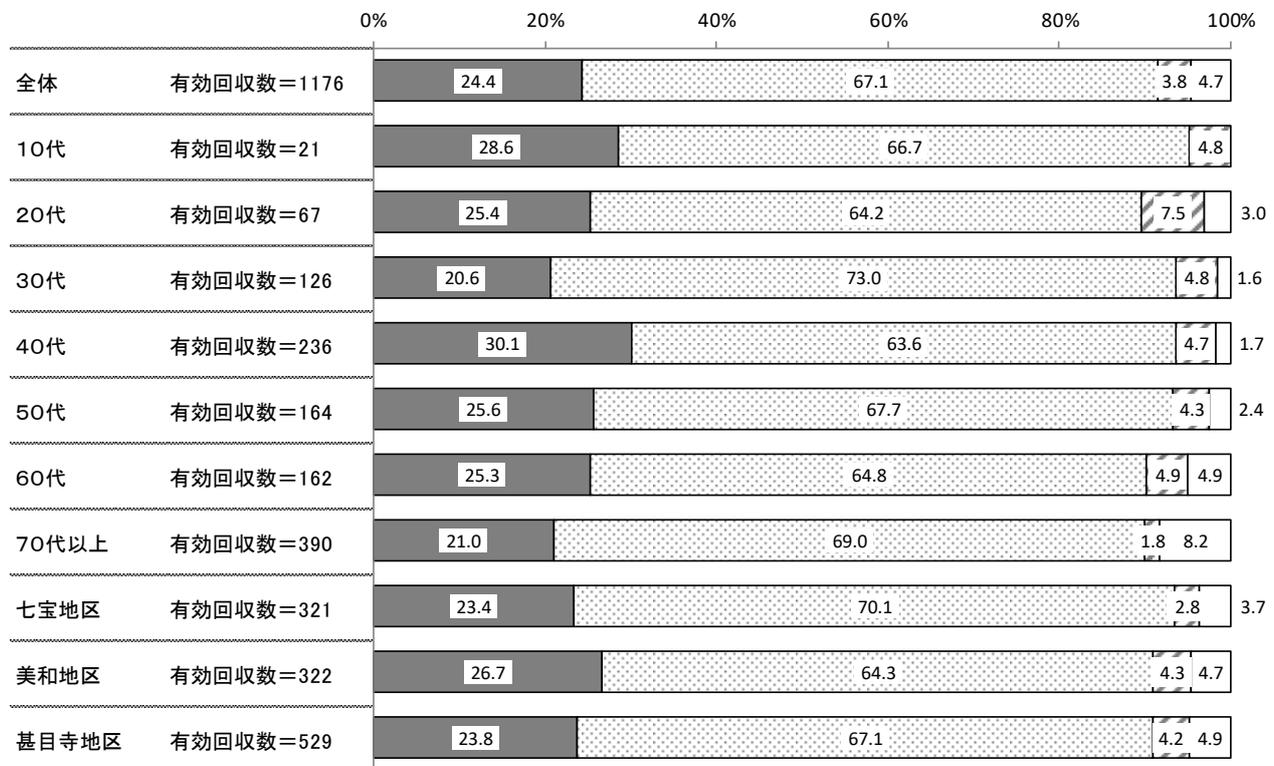


**問 23 市の財政状況が厳しい中、行政サービスと市民負担のあり方についてどのようにお考えですか。（〇は1つだけ）**

行政サービスと市民負担のあり方については、「新たな市民負担はできる限り抑え、行政サービスの重点化を図る」が 67.1%と最も多く、次いで「行政サービスの受益者に一定の負担を求めるなど、行政サービスの維持・充実を図る」が 24.4%となっています。

年齢別では、30代で「新たな市民負担はできる限り抑え、行政サービスの重点化を図る」が、他の年代に比べて多くなっています。

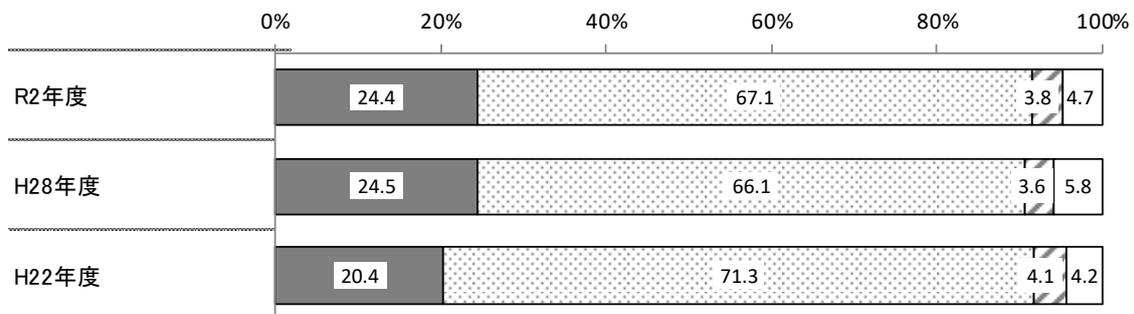
地区別では、七宝地区で「新たな市民負担はできる限り抑え、行政サービスの重点化を図る」が、他の地区に比べて多くなっています。



- 行政サービスの受益者に一定の負担を求めるなどして収入を確保し、行政サービスの維持・充実を図る
- 新たな市民負担は出来る限り抑え、行政サービスの種類と水準を見直して、行政サービスの重点化を図る
- その他
- 無回答

■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は H28 年度に比べ大きく増加した項目はみられませんでした。また、H22 年度からの 10 年間では「行政サービスの受益者に一定の負担を求めるなど、行政サービスの維持・充実を図る」が 4.0 ポイント増加している一方で、「新たな市民負担はできる限り抑え、行政サービスの重点化を図る」が 4.2 ポイント減少しています。



- 行政サービスの受益者に一定の負担を求めるなどして収入を確保し、行政サービスの維持・充実を図る  
 R2年度（有効回収数=1,176）  
 H28年度（有効回収数=1,205）
- 新たな市民負担は出来る限り抑え、行政サービスの種類と水準を見直して、行政サービスの重点化を図る  
 H22年度（有効回収数=1,639）
- その他
- 無回答

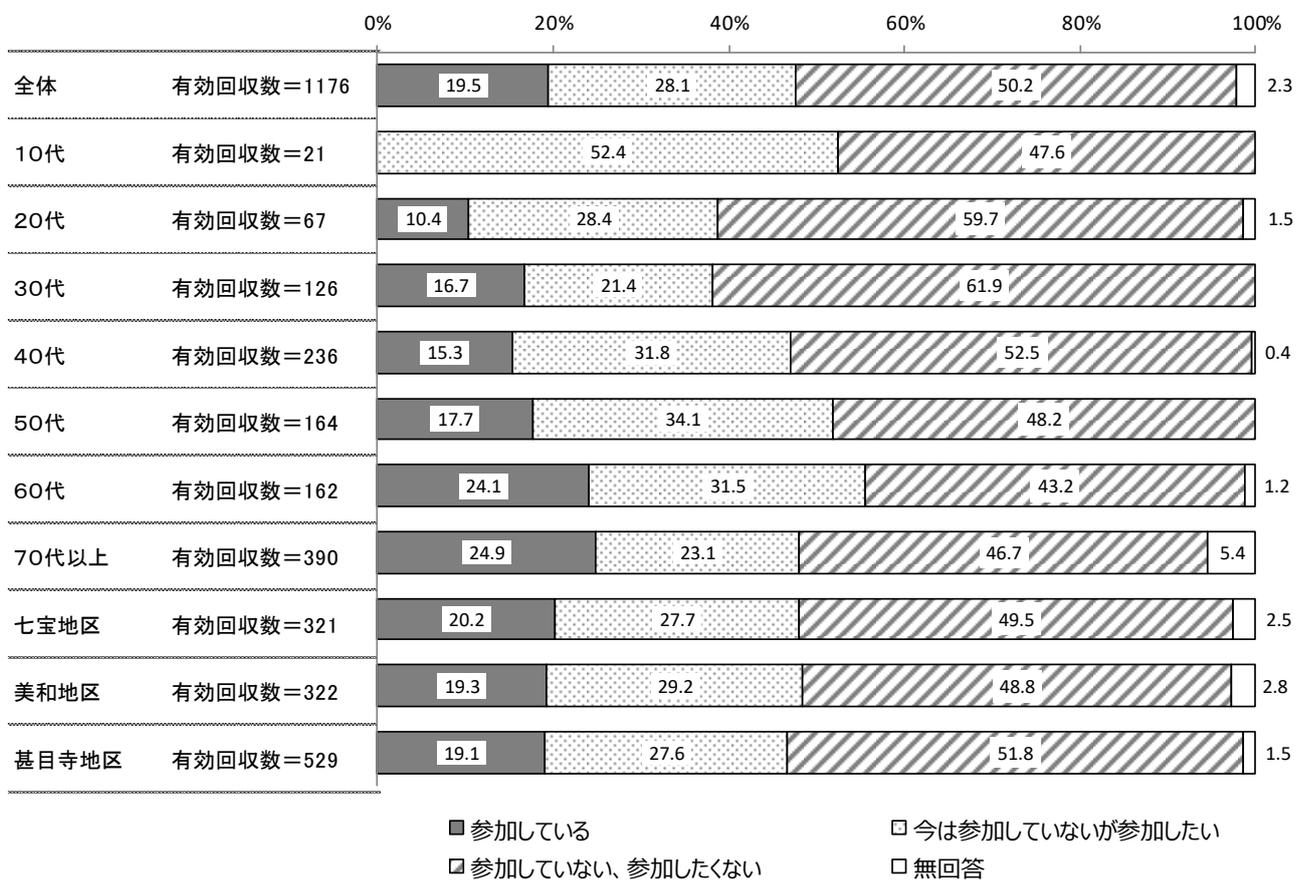
## 14 地域活動の参加希望について

**問 24 あなたは現在、何らかの地域活動に参加していますか。参加希望も含めてお答えください。(〇は1つだけ)**

地域活動への参加状況については、「参加していない、参加したくない」が 50.2%と約半数を占めています。一方で、「参加している」(19.5%)、「今は参加していないが参加したい」(28.1%)と合わせると、参加意向がある人は約 5 割 (47.6%) となっています。

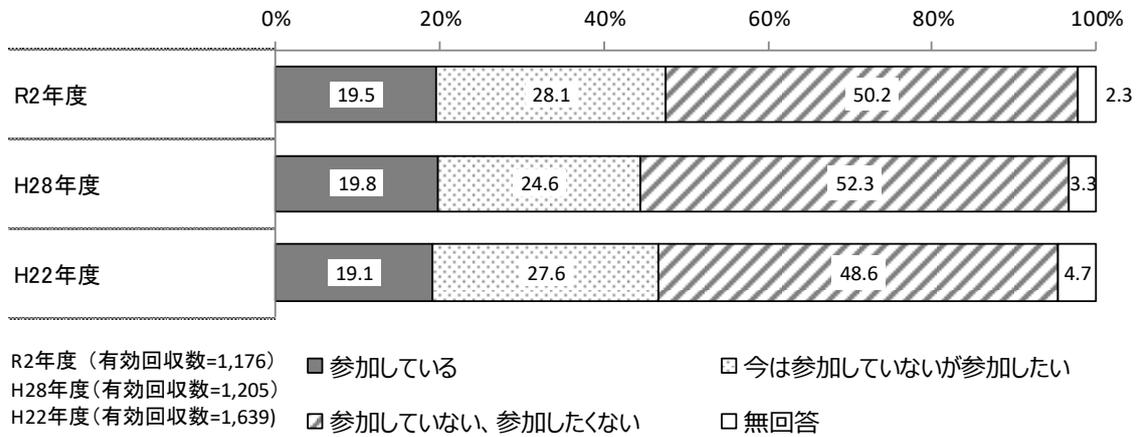
年齢別では、「参加している」は年齢とともに高くなっています。一方で、「参加したくない」は 20~40 代で高く 5 割を超えています。

地区別では、特に大きな違いは見られません。



■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は H28 年度に比べ「参加している」人に変化はみられないものの、「今は参加していないが参加したい」が 28.1%と H28 年度に比べて 3.5 ポイント増加しています。

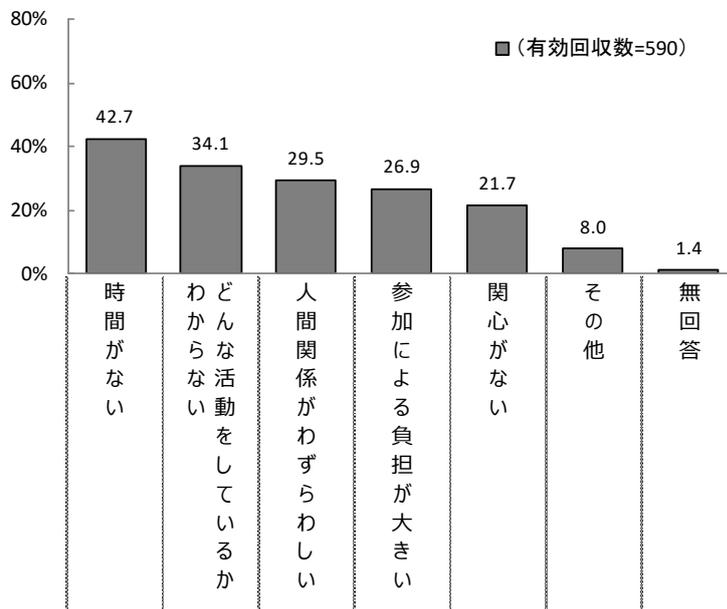


**問 24-1 参加したくない場合の理由を次の中からすべて選んで○をつけてください。  
(あてはまるものすべてに○)**

地域活動に参加したくない理由については、「時間がない」が42.7%と最も多く、次いで「どんな活動をしているかわからない」が34.1%、「人間関係がわずらわしい」が29.5%、「参加による負担が大きい」が26.9%、「関心がない」が21.7%となっています。

年齢別では、10代で「関心がない」が、20～30代で「どんな活動をしているかわからない」が、他の年代に比べて多くなっています。

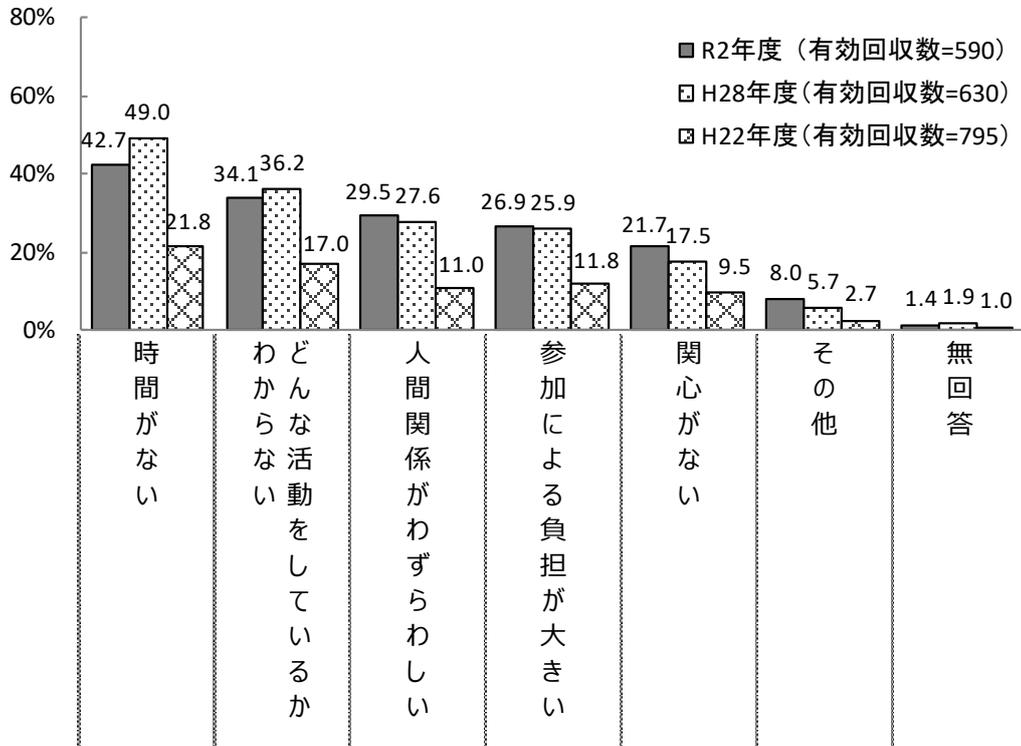
地区別では、七宝地区で「参加による負担が大きい」が、甚目寺地区で「人間関係がわずらわしい」が、他の地区に比べて多くなっています。



		調査数	問24-1 参加したくない理由						
			時間がない	どんな活動をしているかわからない	人間関係がわずらわしい	参加による負担が大きい	関心がない	その他	無回答
調査数		590	42.7	34.1	29.5	26.9	21.7	8.0	1.4
年齢	10代	10	60.0	30.0	30.0	10.0	50.0	-	-
	20代	40	60.0	45.0	27.5	22.5	32.5	7.5	2.5
	30代	78	67.9	46.2	29.5	28.2	21.8	2.6	-
	40代	124	53.2	36.3	27.4	28.2	22.6	0.8	1.6
	50代	79	53.2	38.0	30.4	30.4	19.0	3.8	-
	60代	70	38.6	30.0	32.9	20.0	25.7	2.9	1.4
	70代以上	182	17.0	25.3	30.2	29.1	17.0	18.7	2.2
地区	七宝地区	159	44.0	30.8	27.0	33.3	20.1	7.5	1.9
	美和地区	157	43.9	36.3	27.4	25.5	24.8	6.4	1.3
	甚目寺地区	274	41.2	34.7	32.1	24.1	20.8	9.1	1.1

■平成 28 年度、平成 22 年度調査との比較

R2年度は「関心がない」が 21.7%と H28 年度に比べて 4.2 ポイント増加しているのに対し、「時間がない」は 6.3 ポイント減少しています。

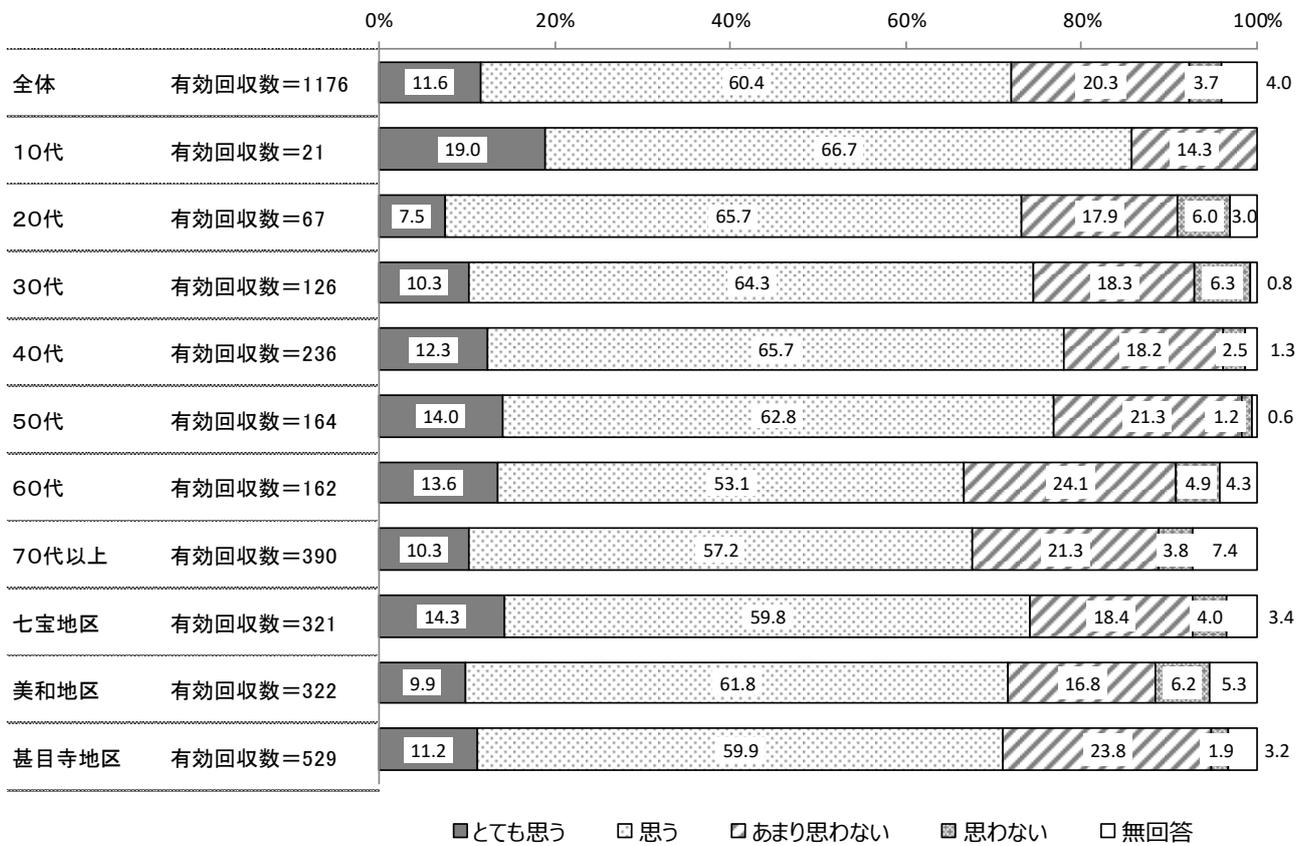


問 25 あなたは、市民協働<sup>(※)</sup>が必要だと思いますか。(○は1つだけ)

市民協働の必要性については、「思う」が60.4%と最も多く、これに「とても思う」(11.6%)を合わせた、“市民協働の必要性を感じている人”が約7割(72.0%)を占めています。一方で、“市民協働の必要性を感じていない人”(「思わない」+「あまり思わない」)は約2割(24.0%)を占めています。

年齢別では、“市民協働の必要性を感じている人”は年齢が若いほど多くなっており、10~50代で7割を超えています。

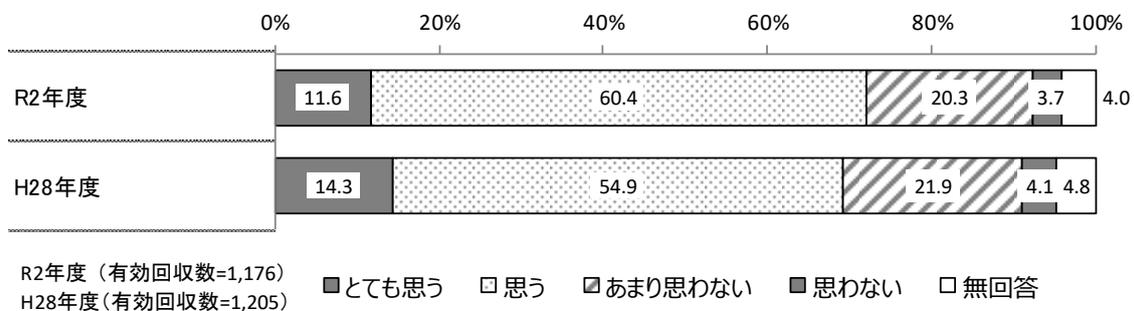
地区別では、特に大きな違いは見られません。



※ 市民協働とは  
 同じ目的を実現するため、立場の違う  
 市民や市が協力し、取り組むことです。

## ■平成 28 年度調査との比較

R2年度では、“市民協働の必要性を感じている人”（「とても思う」+「思う」）は 72.0%となっており、H28年度に比べて 2.8 ポイント増加しています。

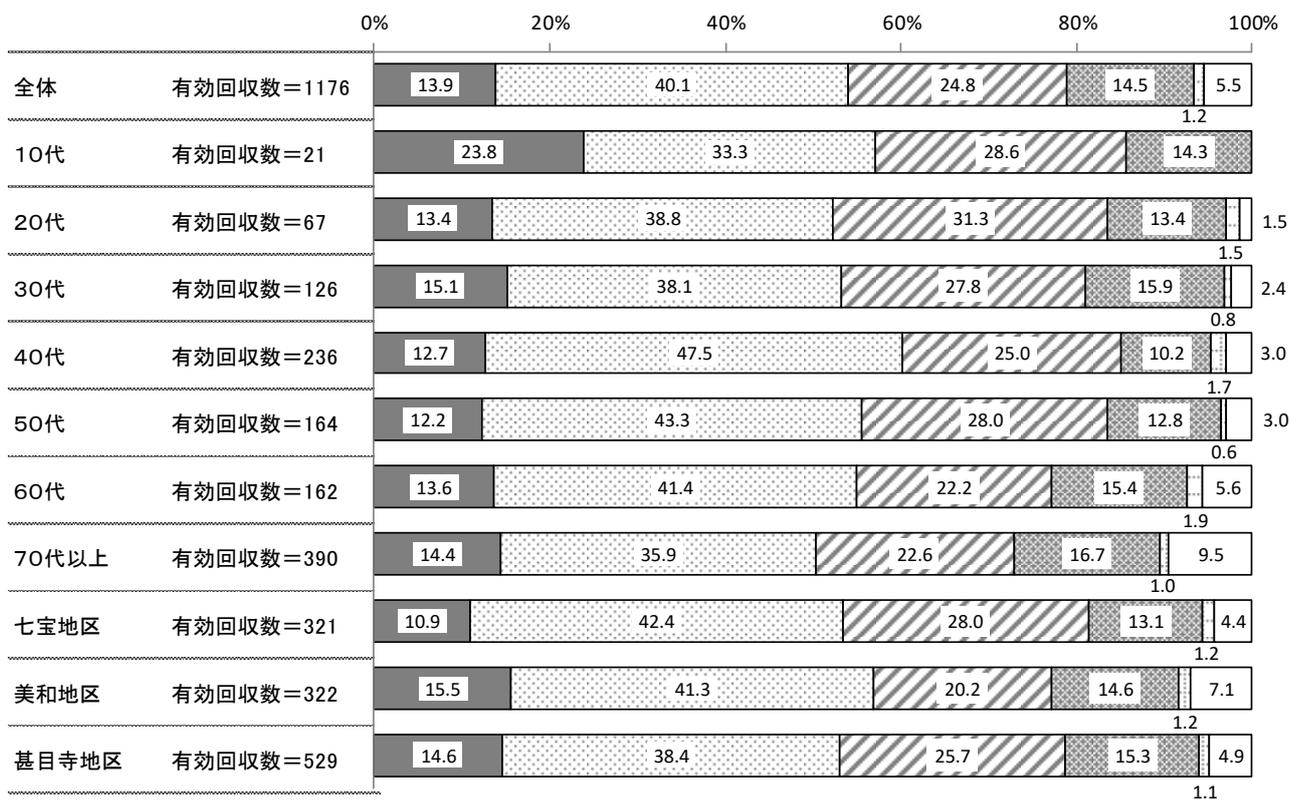


**問 26 今後まちづくりに市民や市民活動団体<sup>(※)</sup>はどのような方法に関わっていくことが望ましいと思いますか。(〇は1つだけ)**

市民や市民活動団体が今後のまちづくりに対し、望ましいと思われる関わり方については、「市民や市民活動団体、市が役割を決めて、一体となってまちづくりを行う」が 40.1%と最も多く、次いで「市が主体となり、市民や市民活動団体は一部協力する形でまちづくりを行う」が 24.8%、「市が主体となり、市民や市民活動団体は意見を伝える形でまちづくりを行う」が 14.5%、「市民や市民活動団体が主体となって、市は情報提供などの支援を行う」が 13.9%となっています。

年齢別では、40~60代で「市民や市民活動団体、市が役割を決めて、一体となってまちづくりを行う」が、4割を超え、他の年代に比べて多くなっています。

地区別では、美和地区や碓目寺地区で「市民や市民活動団体が主体となって、市は情報提供などの支援を行う」が、七宝地区で「市が主体となり、市民や市民活動団体は一部協力する形でまちづくりを行う」が、他の地区に比べて多くなっています。

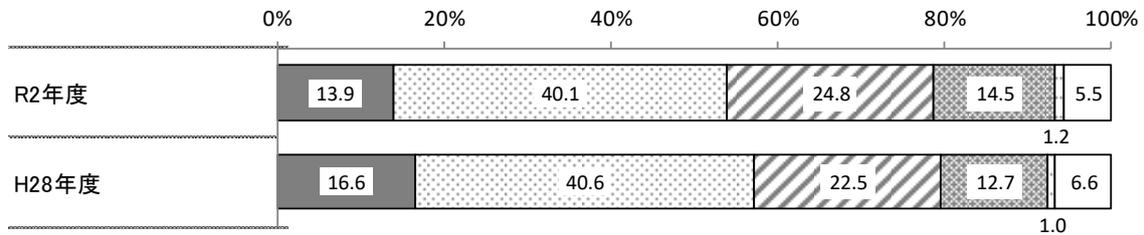


- 市民や市民活動団体が主体となって、市は情報提供などの支援を行う
- 市民や市民活動団体、市が役割を決めて、一体となってまちづくりを行う
- ▣ 市が主体となり、市民や市民活動団体は一部協力する形でまちづくりを行う
- ▤ 市が主体となり、市民や市民活動団体は意見を伝える形でまちづくりを行う
- その他
- 無回答

※市民活動団体とは  
営利を目的とせず、公益的な活動を  
自主的に行う組織のことです。

## ■平成 28 年度調査との比較

R2年度は「市民や市民活動団体が主体となって、市は情報提供などの支援を行う」が13.9%と平成28年度に比べて2.7ポイント減少しているのに対し、「市が主体となり、市民や市民活動団体は一部協力する形でまちづくりを行う」が24.8%と2.3ポイント増加しています。



R2年度（有効回収数=1,176）  
H28年度（有効回収数=1,205）

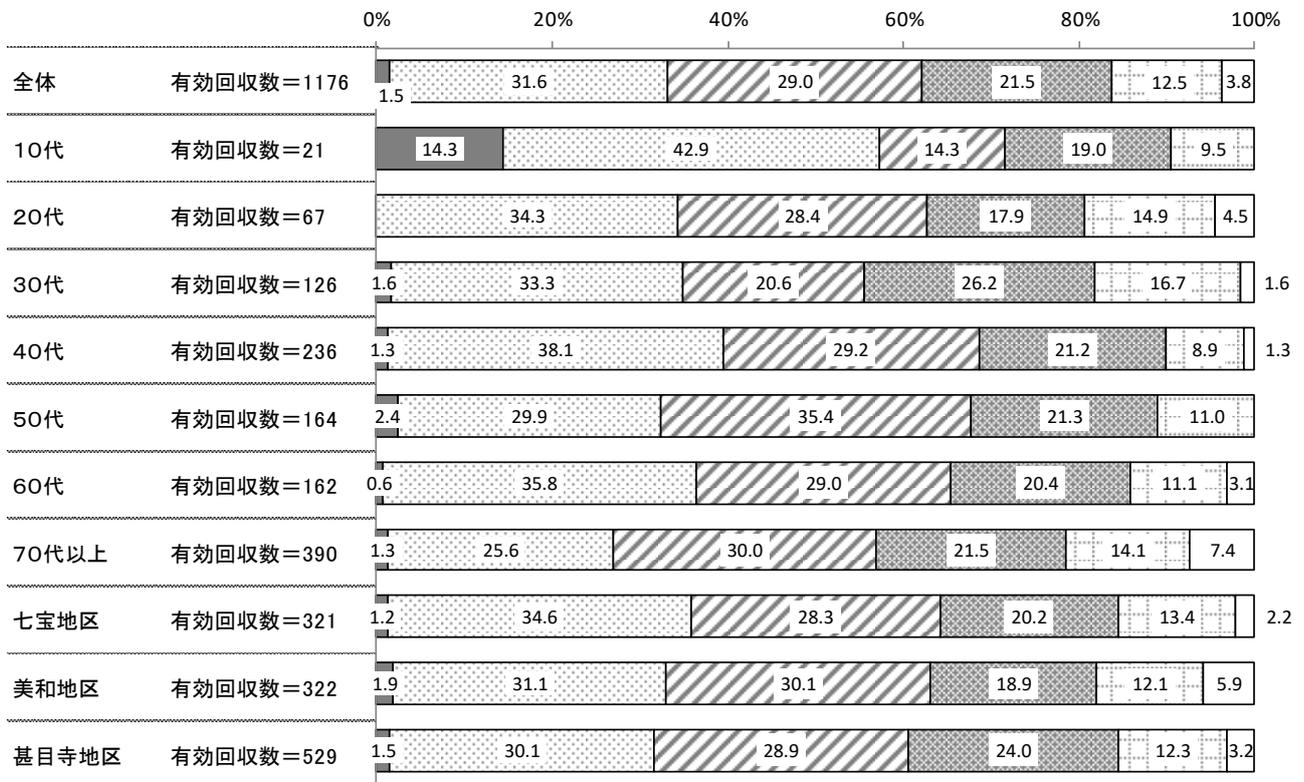
- 市民や市民活動団体が主体となってまちづくりを行い、市は情報提供などの支援を行う
- 市民や市民活動団体、市がそれぞれの役割を決めて、一体となってまちづくりを行う
- 市が主体となり、市民や市民活動団体は一部協力する形でまちづくりを行う
- ▣ 市が主体となり、市民や市民活動団体は意見や要望を伝える形でまちづくりを行う
- その他
- 無回答

**問 27 市民活動団体が、ボランティアの募集をした場合、参加したいと思いますか。  
(○は1つだけ)**

ボランティアへの参加意向については、「自分の興味がある内容であれば、参加したい」が31.6%と最も多く、これに「是非参加したい」(1.5%)と「都合が合えば参加したい」(29.0%)を合わせると、“参加意向がある人”は約6割(62.1%)を占めています。一方で、「参加したくない」(12.5%)と「どちらかといえば参加したくない」(21.5%)と合わせた、“参加意向がない人”は約3割(34.0%)となっています。

年齢別では、“参加意向がない人”は30代で4割を超えています。

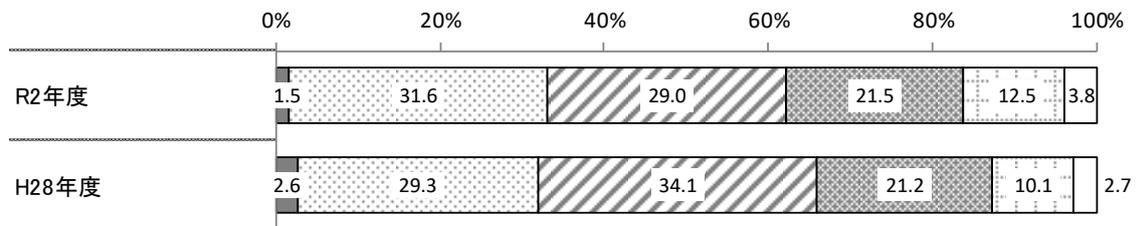
地区別では、特に大きな違いは見られません。



- 是非参加したい
- 自分の興味がある内容であれば、参加したい
- 都合が合えば参加したい
- どちらかといえば参加したくない
- 参加したくない
- 無回答

## ■平成 28 年度調査との比較

R2年度では、ボランティアへの“参加意向がある人”（「是非参加したい」+「自分の興味がある内容であれば、参加したい」+「都合が合えば参加したい」）は62.1%となっており、H28年度に比べて3.9ポイント減少しています。



R2年度（有効回収数=1,176）  
H28年度（有効回収数=1,205）

- 是非参加したい
- 自分の興味がある内容であれば、参加したい
- 都合が合えば参加したい
- ▨ どちらかといえば参加したくない
- 参加したくない
- 無回答

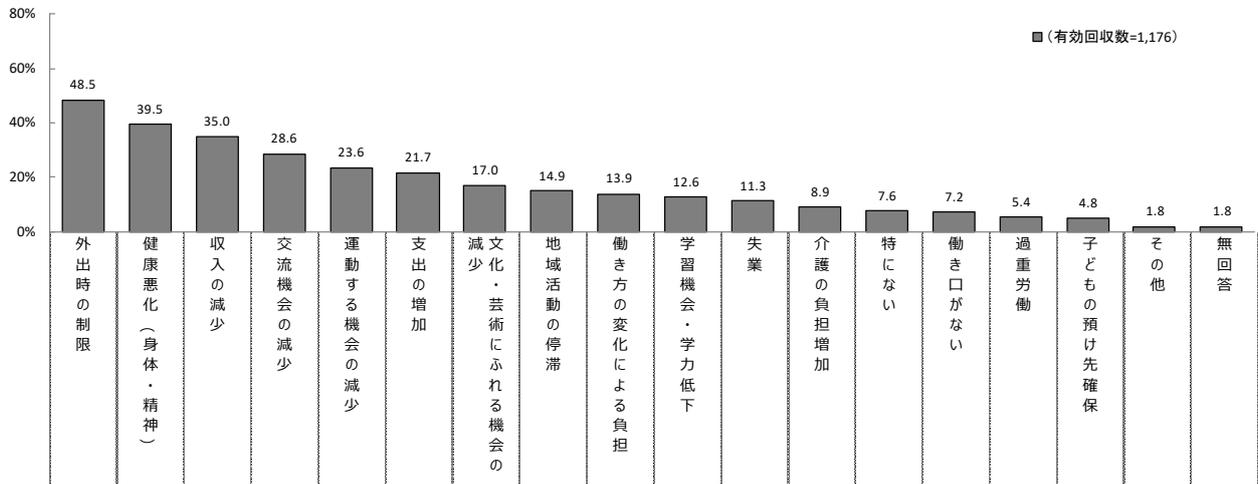
15 新型コロナウイルス感染症について

**問 28 現在の新型コロナウイルス感染症の影響による生活における不安は何ですか。**  
**(あてはまるものすべてに○)**

新型コロナウイルス感染症の影響による生活における不安について、全体で見ると「外出時の制限」が 48.5%と最も多く、次いで「健康悪化（身体・精神）」が 39.5%、「収入の減少」が 35.0%、「交流機会の減少」が 28.6%となっています。

年齢別では、30～50 代で「収入の減少」が、60 代以上で「地域活動の停滞」が、20～30 代で「外出時の制限」が、他の年代に比べて多くなっています。

地区別では、七宝地区で「文化・芸術にふれる機会の減少」「交流機会の減少」が、他の地区に比べて多くなっています。



		調査数	問28 現在の新型コロナウイルス感染症による生活における不安について									
			外出時の制限	健康悪化 (身体・精神)	収入の減少	交流機会の減少	運動する機会の減少	支出の増加	文化・芸術にふれる機会の減少	地域活動の停滞	働き方の変化による負担	
調査数		1176	48.5	39.5	35.0	28.6	23.6	21.7	17.0	14.9	13.9	
年齢	10代	21	52.4	38.1	42.9	38.1	33.3	14.3	19.0	4.8	19.0	
	20代	67	62.7	37.3	43.3	29.9	37.3	22.4	14.9	7.5	22.4	
	30代	126	61.9	34.9	50.0	28.6	34.9	32.5	11.9	7.9	16.7	
	40代	236	45.8	37.3	48.7	29.2	23.7	26.7	14.4	12.7	22.9	
	50代	164	40.9	42.1	48.8	22.0	19.5	23.8	14.6	11.6	22.6	
	60代	162	51.9	41.4	28.4	27.8	18.5	17.3	22.8	21.6	11.1	
	70代以上	390	45.6	41.5	17.2	31.3	21.0	16.4	19.5	19.2	3.8	
地区	七宝地区	321	48.0	40.8	31.5	33.6	25.2	23.7	20.2	18.4	11.8	
	美和地区	322	50.6	34.8	37.3	28.3	23.3	18.9	18.0	14.3	14.3	
	菟目寺地区	529	47.6	41.6	36.1	25.7	22.7	22.3	14.4	12.9	15.1	
調査数		1176	12.6	11.3	8.9	7.6	7.2	5.4	4.8	1.8	1.8	
年齢	10代	21	47.6	19.0	4.8	9.5	19.0	-	-	-	-	
	20代	67	10.4	22.4	4.5	7.5	16.4	11.9	4.5	-	1.5	
	30代	126	25.4	12.7	2.4	4.8	7.9	8.7	21.4	3.2	-	
	40代	236	23.7	15.7	8.9	5.9	7.6	11.0	7.6	2.1	-	
	50代	164	10.4	19.5	9.8	9.1	8.5	4.3	1.8	0.6	-	
	60代	162	6.2	8.0	6.2	10.5	8.6	3.7	0.6	3.7	1.2	
	70代以上	390	3.8	3.8	13.1	7.7	3.3	1.3	1.0	1.3	3.6	
地区	七宝地区	321	10.3	12.1	8.1	7.8	7.2	5.9	3.7	2.2	1.9	
	美和地区	322	14.6	10.2	9.0	5.6	7.5	4.0	5.9	2.5	2.2	
	菟目寺地区	529	12.9	11.5	9.5	8.7	7.2	5.9	4.9	1.1	1.1	

問 29 現在の新型コロナウイルス感染症の影響が今後も長く続いた場合に、充実してほしいと感じている施策やご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

内容
<b>検査体制の充実</b>
検査体制の充実。気軽に検査できるとよい
検査ができるところの充実や検査料金の負担軽減
かかりつけ医でPCR検査ができるようにしてほしい
PCR検査が身近でできる施設、あま市民病院で受けられるように
いつでも検査が受けられる検査センターがあれば良いと思います
<b>情報提供・相談体制の充実</b>
市内の感染状況をもう少し詳しく報道してほしい
体調不良が生じた際に気軽に相談できる医療体制
情報の開示。そして感染者への風評被害等を防いだサポート体制の確立
子育て世代や高齢者など、それぞれの年代にわかりやすく届きやすい情報提供を希望します
あま市独自の情報発信の充実、アプリを開発して配信
<b>経済的支援の拡充</b>
特別給付金や支援政策の協力金などの交付
収入減少した人に対する金銭的な支援
市民に対する税金を少しでも下げてほしいです
市からの給付金がほしい
商品券の発行
<b>ワクチン・治療薬について</b>
ワクチンや治療薬の開発
ワクチンの開発。接種の無料化。接種の平等化
ワクチンができれば公費による接種を希望する
<b>マスク・消毒液等の配布について</b>
マスクや消毒液など配ってほしい
消毒やマスクの購入費の助成
<b>医療体制の充実</b>
医療機関の負担軽減、安定させる。資金面でも支援する
あま市民病院、地域の病院として医療の充実
医療資源や医師、看護師の確保
コロナウイルスに感染したらこの病院でも診察してもらえるような状況でありたい
名古屋市内に行かなくても済むような医療の充実
<b>子どもに対する支援について</b>
小中学校の授業体制（オンライン授業）
小学校や中学校にタブレットを活用してインターネットで学習させてほしい
子どもたちがストレスなく外で遊べる場所や機会があるとよい
学校の休校等による学習能力の低下が懸念事項であるため、より一層行政が主体となっていただくことを希望します
子どもたちの行事は可能な限りなくならないように配慮してほしい

受け入れ施設・病院について
地元を受け入れ可能な病院の確保
コロナ感染症の受け入れ病院の充実
あま市で軽症感染者の受け入れ施設
差別と偏見について
コロナは人間関係を分断する、過度な風評で恐怖をあおらない
感染者に対する中傷、差別の防止
風評被害をなくすこと
行政について
不安を抱えた人たちに対する市独自の支援
市政として独特の方法を見出し対策してほしい
コロナウイルスに対応する部署を市役所にも設置してほしい

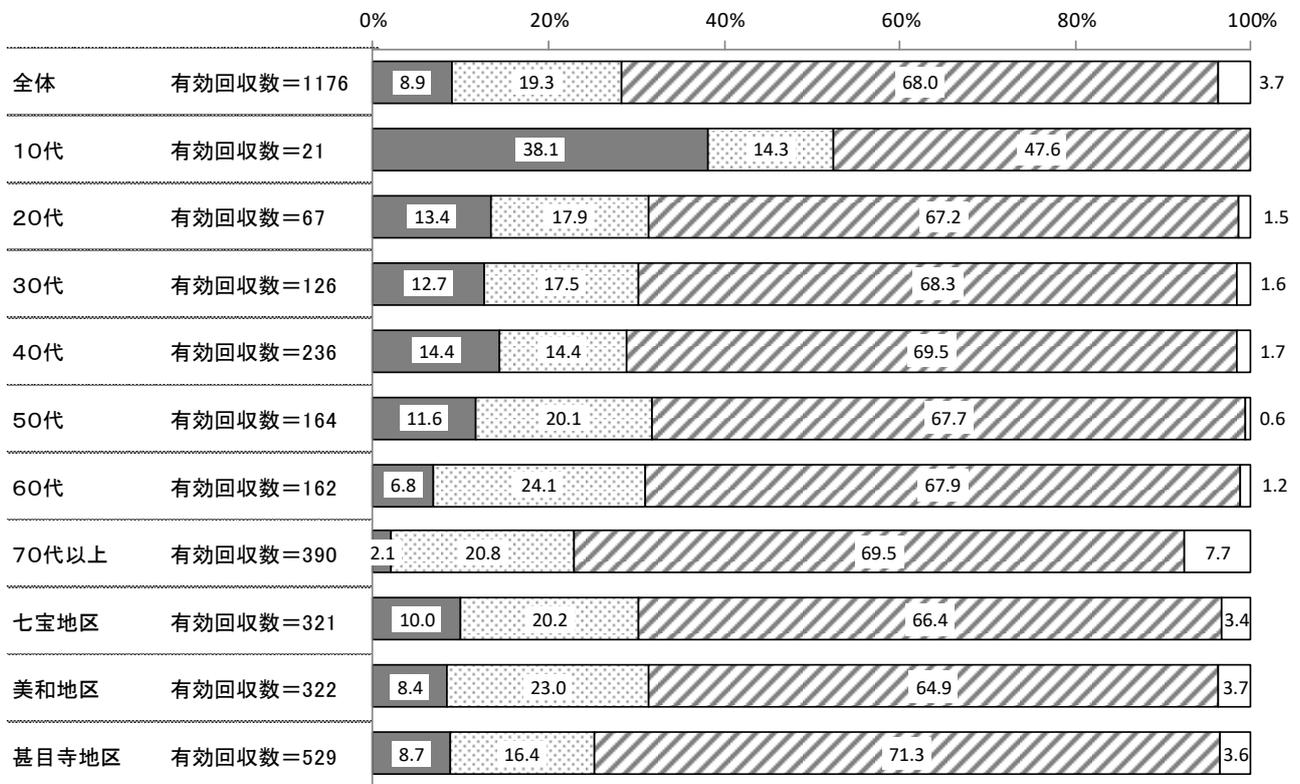
16 SDGsについて

**問 30 SDGsについて知っていますか。(〇は1つだけ)**

SDGsの認知について、全体でみると「知らない」が68.0%と最も多くなっています。一方で、「知っている」(8.9%)と「言葉を聞いたことはあるが、詳しく知らない」(19.3%)を合わせた、SDGsの認知度は約3割(28.2%)となっており、内容まで認知している人は少なくなっています。

年齢別では、10代で「知っている」が38.1%と約4割を占めています。また、認知度についても10代では52.4%と他の年代に比べて多くなっています。

地区別では、七宝地区や美和地区で認知度が3割を超えています。



■ 知っている □ 言葉を聞いたことはあるが、詳しく知らない □ 知らない □ 無回答

## 17 自由意見

あなたが考えるまちづくりのアイデアや、これからのまちづくりで重要だと思うこと、充実してほしいと感じている施策やご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

### 1)安全に関すること(防災、防犯、消防・救急体制など)

「安全に関すること」について
<b>防災対策について</b>
福田川が台風、大雨などですぐにあふれそうになるのを何とかしてほしい
避難場所、施設の改修、整備、増加
避難所までの道路が悪すぎて、水がたまと逃げることが難しい。避難所もどこへ行けばいいかわからない
災害への意識を個々が高められるように、訓練できる機会を増やす
コロナ禍での水害、地震時に避難する場所、スペースを考えておいてほしい
<b>防犯対策について</b>
夜間暗い道があるので電灯の増設等、検討してほしい
未解決の盗難事件が多いと聞いています。もっと防犯の強化をお願いします
防犯パトロールの強化
防犯カメラの設置場所を増やしてほしい
高齢者に対する犯罪
<b>日常の安全・安心について</b>
町全体で安全に対する啓蒙活動をした人材育成をすべきだと思います
柵がない用水路があり危険を感じる
違法駐車をなくしてほしいです。特に駐車場のよう毎日停めている車を何とかしてほしい
空き家は今後防犯、防災がとても心配です。空き家が出ない工夫が早く必要だと思います
<b>医療施設・救急医療について</b>
子どもが休日に体調を崩すことがあるが、その際に対応してくれる病院が近くにない
あま市民病院をもっと救急の時に患者を受け入れられるようにしてほしいです
わがままな出動要請をなくすよう救急車の呼び出しには一定のサービス料が必要とするなどの条例をつくる
<b>交通安全について</b>
歩道が確保されてない道路が多い。そこを大型トラックが通るのでとても危険
狭い道を抜け道や近道として利用する車が多く、自転車とすれ違う時にギリギリで危ない
道路のカーブミラーのメンテナンス、左右が確認しにくい場所の整備
住宅街の細い道でもすごいスピードで走る車が多すぎる。事故が多発している交差点など対策をしてほしい
子どもの登下校時に見守る人を通学路に配備してほしい
<b>防犯・防災等の情報提供について</b>
防災無線を聞き取れるようにしてほしい
大地震が予測されているので、液状化や津波の被害予想についての情報を地域ごと細かくほしい
あま市の災害時の避難場所などが書いてある防災マップみたいなものを作って配付してほしい
避難所への避難を前提とした防災になっているような気がする。コロナ禍にあっては、自宅での避難計画などの広報がもっと必要
<b>警察について</b>
防犯への取り組みはもっとしてほしい。派出所にもほぼ人がいないし、警察のパトロールもあま市は少なく感じるのは気のせいか
警察の人が見回りをもっとしてほしい。一人暮らしの人にも安心して暮らせるようになってほしい
あま市の北地域に交番を設置してほしい

## 2)都市基盤に関すること(住環境、道路整備、環境保全など)

「都市基盤に関すること」について
<b>道路や歩道の整備について</b>
歩道の整備、自転車道の整備をお願いします。七宝駅周辺は特に危険を感じます
子どもが安心して外に遊びに行けるような道路環境整備をお願いします
消えかかっている白線を書き直してほしい
新しい家がどんどんできていますので生活道路の舗装を急いでいただきたい
道路が狭くて走りにくい。生活道路がもう少し走りやすくなると生活がしやすいかも
<b>安全・安心について</b>
必要な場所、事故の多い場所には信号や歩道、標識などを設置していただきたい
住環境も大切ですが、道路整備。特にフェンスやカーブミラーをしっかりとしてほしい
車通りが比較的少ない生活道路への街灯の設置
空き家の有効利用、公園整備、自転車用車線の整備、歩道のバリアフリー化
<b>公共交通機関について</b>
電車や地下鉄を通してほしい。町の中心がバスしかないのは不便すぎる
市バスの本数やルートの増加
公共交通を充実させてほしい。高齢化に伴い移動手段である車がかえなくなると不自由になってしまう
あま市巡回バスが1日2本では意味がないと思う。稲沢市のような本数が必要だと思います
<b>生活環境について</b>
令和になっても下水道が完備されず、浄化槽を使っているの、あま市は遅れていると思います
用水路わきの雑草を刈り取ってほしい。伸びた草が道路にはみ出して歩くのに邪魔
野良猫やその糞尿で不潔なイメージがある。勝手なエサやり等、飼い猫のトイレを近隣の畑や庭で済まさないようにすること
小さい公園も欲しいが、海南こどもの国や戸田川緑地のような大きな公園も欲しい
統合してあま市ができたがまとまりがない。コストコなどの商業施設を誘致して活性化してほしい
<b>環境保全について</b>
田んぼや畑をつぶさないでほしい。空き家をうまく使って土地の確保をしてほしい
環境保全はもちろん、自然環境の活性化を図ってほしい
何かを行う時は緑をなくさないこと
<b>市の施策や市について</b>
道路が途中で先になく、止まっているところを目にする。最初からきちんとした計画を立ててやっているのかと思う
市民と行政の連携が重要
あま市をどんな都市にするかをトップが開示すること

### 3)福祉に関すること(保健・医療、子育て、高齢者福祉、障がい者福祉など)

「福祉に関すること」について
<b>福祉全般について</b>
保健、子育て、高齢者、障がい者とカテゴリーを分けなくて、柔軟に対応できる総合窓口のような多様化に対応できるようになってほしい
福祉が遅れすぎです。兄弟が三河に住んでいますが全く違う。特に高齢者福祉、障がい者福祉
あま市だけではなく、福祉で働く方々の賃金が低すぎる。そのため人手不足とクオリティの低下がひどすぎる
<b>子育て支援について</b>
弱者に対する支援をお願いします。子どもは財産であり彼らが長く住み続けたいと思えるような環境整備を期待します
子育て特に小学生を持つお母さんが働きやすい環境を整備してほしいです
子育て支援センターがもう少し増えると思う。地区の集会場などを活用できるのではないかと思います
高校まで医療費が無料になると家計が助かります
少子高齢化がさらに進展していくため、高齢者への手当でも大切だが、子どもを産むために子育て等へのより一層の支援
<b>高齢者福祉について</b>
高齢者や家族が安心できる福祉体制の早急な整備
高齢者福祉について、介護認定等、広報などで知ることができるようにしてほしい
名古屋市民と比べても高齢者になってからの特典が少ない
高齢者の買い物について考えていただきたい
高齢者なので福祉のことなど電話で聞きたいことがある時に親切に教えてもらいたいです
<b>支援施設等について</b>
特養を増やしてほしい
高齢者が入所しやすい施設がほしい
グループホームの充実
<b>障がい者福祉について</b>
障がい者の働き場所の充実
障がい児が暮らしやすいようにもう少し支援を手厚くしてほしい
障がい児を連れての移動は大変なので、手帳や手当等の更新などは、オンライン上でできるようにお願いしたいです
精神障がい者支援をもう少し充実させてほしい
軽度の障がい児が中学で支援級に通っても高校に支援級がないので困る
<b>医療について</b>
市民病院が活かされていないので、それに代わる病院が遠すぎる。身近に病院がないと感じる
健康診断も津島まで受けに行かないといけな。あま市で気軽に受けたい
救急医療の充実を図ってほしい
<b>相談窓口・情報提供について</b>
支援等の福祉施策の内容を誰もがわかるように周知の充実
もう少し気軽に子育て相談ができる環境があればいいと思う
<b>子どもの遊び場について</b>
子どもたちが遊べるような大きな遊具のある公園や散歩をする場所を設けてほしいです
子どもが遊ぶ公園が雑草だらけ、遊具の点検は大丈夫か心配になる
公園を市内に3つは作るべき
<b>交通機関の充実</b>
車のない生活が不自由なくできるよう、交通網の充実を図る
運転免許証返納後の買い物等に困るので考えてほしい

#### 4)教育に関すること(学校教育、生涯学習、スポーツ、文化・歴史など)

「教育に関すること」について
<b>学区の再編について</b>
小学生の長距離通学などを考えて学区の見直し
学区を再編成して余った校舎を音楽、美術などの芸術もしくは企業活動に貸し出すようにすることで市の活性化が図れるのではないかいじめ、不登校、非行問題について
いじめ、ほんの小さなことから命を落とすこともあり、勉強も大切だが、生きていく人間関係の大切さが必要ではないかいじめ、性教育など、専門の講師を呼んで話を聞くなどの機会をもっと作ってほしい
<b>学校における安全・安心について</b>
下校の時2列に並んでおしゃべりをしないで下校してほしい
駅と五条高校の通学路に歩道を設置してください
<b>教育環境について</b>
幼稚園から小学校の手厚さが急になくなる。勉強も必要だが人間性も育てるような環境を作ってほしい
先生のレベルを上げる教育が必要
子どもの教育に力を注ぎ、他の市町村からあま市に住みたいと思ってほしい
<b>教育機関の誘致について</b>
大学を招来してはどうでしょうか
甚目寺地区に住んでいますが、通学便利な高校がレベルが高い高校1校しか存在しません。もう少し通いやすい学校があればと思います
<b>学校の施設設備について</b>
学校の冷暖房を充実してほしい
学校の校庭を広く、設備を充実させる
<b>学校教育の無償化等金銭的補助・援助について</b>
貧富の差別のない教育指導
教育料の無償化
<b>公共施設について</b>
文化会館等を建てて発展させる
あま市に総合運動公園を作ってほしい
<b>生涯学習の場、内容の充実について</b>
生涯学習の充実
生涯学習講座の定員の増加
<b>スポーツについて</b>
スポーツを子どもも大人も楽しめる環境
あま市で子どもが参加しやすいスポーツなどあるとうれしい
<b>図書館について</b>
美和図書館以外に図書館がない
あま市に図書館が少ないので増やしてほしい
七宝町に図書館を作ってください
<b>あま市の歴史・文化のPR活動について</b>
若い人にもあま市の歴史を広く伝えることができたらと思います
あま七武将に関するPR活動や郷土資料の収集、書跡の出版に取り組むべき
<b>学校のIT化について</b>
小中学生に対するIT端末の導入
オンライン学習の推進

## 5)産業に関すること(商工業、農業、観光、地場産業など)

「産業に関すること」について
<b>観光振興について</b>
もっと七宝焼に焦点を当てて、現代に合わせた形で知名度を上げて地元を盛り上げる
甚目寺観音の朝市を大々的に他市にもアピールするとよい
市内企業をアピールする。ユーチューブチャンネルを作って親しみやすい紹介動画をアップする
観光の目玉のようなものを作っていただきたい
いい文化・歴史があるのに他県や海外の方に深く魅力が伝わるように、観光業界と連携できればいいかもしれません
<b>企業誘致について</b>
町に活気がないので、大型の商業施設を誘致する（ホームセンターが欲しい）
大企業、工場を誘致して税収を増やす
情報関連、自動車関連の企業を高速の近くに誘致して活性化してほしい
地場産業を守っていくことも大切だが、商工会等ももっと誘致する努力が必要
大型店舗チェーン店などの誘致を木田駅の南側に集約させる
<b>地場産業の活性化について</b>
地場産業を中心に発展させていくのが良いと思う
地場産業への支援、PRの充実
地場産業や若い世代が新しいことに取り組めるよう、様々なフォローをしていけると未来につながると思います
<b>商店街の活性化について</b>
魅力ある商店がない
商店街に一体感がない
商店街が非常にさみしい状況になっているように思えます。何ともならないのかとさみしく感じています
<b>農業振興について</b>
若い人が農業をすることを誇りに思える状況を作ってほしい
農業体験ができるといいと思います
田畑を減らさないでほしい、自給率を下げないよう産直市場や地域でとれたものを安く売ってほしい
農業等は収穫した物、商業等身近な物を道の駅に売り出す

## 6)協働に関すること(まちづくりへの市民参画、交流など)

「協働に関すること」について	
<b>協働の仕組みづくりについて</b>	
やる人は限られてしまう。目的は何かをはっきりさせる。参画しやすい仕組み作りをまずやるべき	
自分の周りの人もあま市にあまり誇りを持っているイメージがない。若者の行動力や斬新なアイデアを参考にするなど、様々な年代を巻き込んでまちづくりをしていくべきだと思う	
元々3町に分かれていたので、地域ごとに特色があるとよい面は活かし、なかなか意識改革は難しいが、ちょっと面倒だなと思うことを押し付け合わず、本当の意味で協力・協働できるとよい	
職歴や様々な業種の資格所有者など、経験や知識が豊富な人が中心となってまちづくりを行ってほしい	
<b>協働の内容について</b>	
若い子が住みたいと思うまちづくりを考えてほしい。オシャレとカントリーの共生を考えるとよいかも	
未来を担う子供たちが「あま市」の良いところと思えるシステムを市、市民、活動団体等が考え、みんなが幸せを感じるようなまちづくりを望みます	
道路幅など交通事故多発地域の対策。ゴミゼロの推進、他地域との交流を積極的に行い助けあいを広める	
<b>交流の場について</b>	
老若男女問わず、参加できるような交流会の開催	
気軽に参加できたり、1回だけでもOKとか、参加や交流をすることへの間口を広くしてほしい	
外国人との交流の充実	
議員の人にもっと町の人々の意見を聞く機会を作ってほしい	
<b>多種多様な意見の集約について</b>	
気軽に意見を発信し反映できる仕組み	
紙媒体だけでなく、ネットを活用して幅広く意見を集めるべきです	
<b>ボランティア活動について</b>	
ゴミ拾いとか地域に役立つことをボランティアとか自主性にするのが難しいかもしれないから、例えばポイント制で、そのポイントがあま市にあるスーパーや薬局などでも利用できるとよい	
住民が安心して参画を望むボランティア計画	
<b>市の施策について</b>	
市民参加は大事だが、市役所の主導が前提だと思う。高齢化が進む中、子育て世代が町内会に加入すると半ば強制的に役員にさせられる。子育て世代は忙しいので町内会に加入しないという負のスパイラル。もっと市役所が介入すべき	
<b>イベントの開催について</b>	
わくわくするようなまちづくり、イベント等で盛り上がるような企画をお願いします	
まちづくりへの関心を持ってもらうためのイベントを定期的に行うこと。気軽に意見を伝えられる場を設けて、その存在を広めること	
昔のようにウォーキングイベントやイルミネーションの時のピンゴ大会など、まちの人と交流できる取り組みや、高齢者ともコミュニケーションがとれるイベントが欲しい	
<b>情報提供の充実について</b>	
どのようなまちづくりが参画されているのか、まったく情報がないのでわかりやすくしてほしい。情報が簡単に入れば交流します	
あま市民の意識の向上のために積極的に広報を考え、アピールしながら参画へ推し進めていきます	
SNSを活用して情報を発信したり、市民からのアイデアを募ってはどうか。若い世代の人は機会がないとわざわざHPを見たり広報を見ないかもしれないので	

## 7) 上記以外でまちづくりに関すること

「上記以外でまちづくりに関すること」
<b>まちの活性化について</b>
緑の多い景観、ファミリー層が暮らしやすい、広々としたくつろぎのあるまちにしてほしい
効率化だけを追うと人間味がなくなってしまう可能性もあるが、よりよい市政のあり方とは何かを考え、「あま市に住んで良かった」と思えるまちづくりをお願いしたいです
名古屋が近いのでそこを活かしきれていない。若い人たちが住んでみたいと思えるような活気のある町になってほしい
<b>住環境について</b>
ボール遊び禁止の公園ばかりでボール遊びができない。公園を増やしてほしい
市役所にあるゴミステーションの充実や場所の追加等検討してほしいです
下水道の整備をお願いしたい
<b>町内会について</b>
遠い親類より隣の他人づくり環境
住民同士の交流の場を増やしてほしい
<b>高齢者の活躍について</b>
高齢者が集える場所づくりが必要
高齢者の活動の場づくり、高齢者が参加しやすいサークルづくり
<b>市の施策や市について</b>
もっと住民の力を引き出す方法を考えることで財政不足を補うことができる
市政について広報だけでなく、わかりやすく示すものがあるとよいと思います
合併してあま市になってから七宝、甚目寺、美和の行政の縦割りの弊害が残っている。今一度現状認識から是正してほしい
<b>まちの PR について</b>
市長が積極的にもっと市民に対して情報や広報などでアピールする必要があると思います
PR 力と言えば公式キャラクターをもっと全面的に PR すべきだと思う
<b>環境・美化について</b>
町が汚いです。ゴミの投げ捨てが多すぎます
福田川の堤防の草刈りを年 2 回してほしいです
資源ごみの日が月 1 回は少ない。いつでも出せるよう場所を確保か BOX 等の設置をしてほしい
<b>犬・猫の対策について</b>
最近、犬を飼っている人のマナーが悪い
のら猫の保護、去勢援助
<b>巡回バスについて</b>
巡回バスのルートの見直しや運行日を増やしてほしいと思います
高齢者が免許を返納してもバス等を利用して病院、買い物、施設等へ気軽に出かけられる体制を作してほしいです
あま市を走るバスは採算がとれているのでしょうか。必要な方にタクシーチケットなどを配布する方が良いのでは
<b>道路の整備について</b>
七宝役場前～安松の道が渋滞すぎる。右折レーンか道を増やしてほしい
行き止まりの道があるのでこれからは作らないように
あま市は子どもが増えてきているので、道路整備は大切だと思う
<b>防犯・防災について</b>
夜暗いので街灯の整備を
甚目寺駅の治安、マナーが悪すぎる。派出所などを設置して安全な駅にしてほしい
交番があるがおまわりさんがいないので困る。道路などの駐車を取り締まってほしい



第2次あま市総合計画策定等に関するアンケート調査  
【調査結果報告書】

発行 : あま市  
発行年月 : 令和3年3月  
編集 : 企画財政部 企画政策課  
〒490-1292  
愛知県あま市木田戌亥 18 番地 1  
電話 : (052) 444-1001 (代表)